

令和3年度 文京区障害者地域自立支援協議会
第3回相談支援専門部会 次第

日時 令和4年2月14日（月）14：00から
Zoomによるオンライン開催

1 開会挨拶

文京区障害者自立支援協議会 副会長 志村健一氏より

2 議題

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| (1) 令和3年度定例会議 年間活動報告 | 【資料第1号】 |
| (2) 令和3年度文京区指定特定相談支援事業所連絡会 年間活動報告 | 【資料第2号】 |
| (3) 令和3年度相談支援専門部会の振り返り | 【資料第3号】 |
| (4) 障害者（児）実態・意向調査について | 【資料第4号-1～3】 |
| (5) 検討事項における親会への提言について | 【資料第5号-1～2】 |
| (6) その他 | |

配布資料についての説明

下記の資料のご説明内容をご確認の上、会議にご出席いただけますようお願い致します。

ご出席頂く委員の皆さまに、下記についての意見を頂きたく、資料作成をいたしました。部会当日におきましては、以下の資料説明を踏まえた上でのご検討、ご意見、をお願いいたします。

【資料第 1 号】 令和 3 年度定例会議 年間活動報告

【資料第 2 号】 令和 3 年度文京区指定特定相談支援事業所連絡会 年間活動報告

【資料第 3 号】 令和 3 年度相談支援専門部会振り返り

- ・ 議題 4 及び、議題 5 の検討を行う上で、第 1 回・第 2 回で話し合った議題、意見を振り返り、また議題検討の際に確認できる参考資料として作成しました。

【資料第 4-1 号】 令和元年度障害者（児）実態・意向調査設問項目

- ・ 議題 4. 障害者（児）実態・意向調査についての検討を行う際、全ての設問項目が記載された資料として添付しています。既存の設問項目についての検討のみでなく、今後新たに設問に加えた方がいいと思う調査事項についてもご検討いただける資料となります。
- ・ 項目欄が赤く塗りつぶされている箇所は【資料第 4 号 2～3】にて抜粋した設問となります。

【資料第 4-2 号】 調査票、【資料第 4-3 号】 実態意向調査報告書

- ・ 本来であれば、すべての調査票と調査報告書を用いてのご検討をお願いすべきではありますが、膨大な資料量となってしまう為、ご意見の上がりそうな設問項目を抜粋する形式で資料作成しております。
- ・ 今回の目的は、次回令和 4 年度に実施する実態・意向調査に向けての設問等についての検討となります。第 1 回部会で取り上げた調査報告書の結果に対しての課題検討は目的にしておりませんので、予めご了承下さい。

【資料第 5 号-1～2】 検討事項における親会への提言について

- ・ 検討事項に結び付く課題について、6 つ提示致します。いずれも 1 ～ 2 回の部会議論の中で確認できた課題となります。【確認出来た課題】をご参考に、親会への提言についてご意見をお聞かせください。
- ・ 第 2 回部会の事後アンケート。検討事項における委員のご感想が記載されております。検討事項の提言を考える上で、参考資料としてご活用下さい。

令和3年度 定例会議報告

<第1回> Aグループ企画

○日時：令和3年8月4日（水）18：30～20：10 Zoomによるオンライン開催

○参加者：33名 事務局4名 計37名

○テーマ：「高齢期のライフステージにおける本人支援と家族支援」

～それぞれが高齢化していくなかでの意思決定支援を考える～

○グループワーク：大切になる視点やあったらいいなと思う支援などについて意見交換

○発表意見抜粋：家族支援、障害福祉サービスと介護保険サービスの連携体制、地域での支え、制度理解

○総括：

サービスはたくさんあるが縦割りになっているため、切れ目のない包括的な支援はできていない。相談支援専門員が支援者を集め、アセスメント・役割分担することが必要。また、利用者自身に役割があり主体的に生活できる環境が整えられることが必要。適切な早期介入、連携、継続性が大切。社会との繋がりが増えることで、意思形成・意思決定ができてくる。地域の中でどのような支援を行うと安心した生活へ繋がっていくかを考えていく必要がある。

<第2回> Bグループ企画

○日時：令和3年11月2日（水）18：30～20：05 Zoomによるオンライン開催

○参加者：42名 事務局4名 傍聴1名 計47名

○テーマ：「青年期における意思決定支援」～一人暮らしをして仲間と青春を謳歌したい～

○グループワーク：本人の希望する「一人暮らしをして仲間と青春を謳歌したい」について①どのような社会資源が活用できると思うかを検討する。また、②ご本人の思いを実現するために、支援者として私達は「・・・」と考えました！という結論を発表。

○発表意見抜粋：①活用できる社会資源→支援者、住環境、集いの場、学びの場、生活スキルの支援、支援において大切にしている視点

②ご本人の思いを実現するために「・・・」と考えました！

「適切な情報提供」、「チャレンジできる雰囲気」、「相談できる伴走者の存在」、「本人の本当のニーズをアセスメント」、「友達のネットワークづくり」、「信頼する支援者と金銭管理練習」

○総括：

今の生活でも困っていないかもしれないが、数十年後には8050問題につながるかもしれない。障害がある方は、一般的な社会生活、人間関係の経験が圧倒的に少ないことで青春を謳歌できていない可能性がある。グループワークでは、場や人とのつながりを通じて思春期経験を支えていく視点やアイデアがたくさん話し合われていた。そこで大事となる“アウトリーチ支援”のプラットフォームとして、今後地域生活あんしん拠点が期待される。また、皆が区内の社会資源に詳しくなり適切な支援の助言や提供ができるよう、学び合っていくことがとても大切である。

<第3回> Cグループ企画

○日時：令和4年1月27日（水）18：30～20：05 Zoomによるオンライン開催

○参加者：32名 事務局3名 計35名

○テーマ：「潜在化している意思を引き出すアプローチ、意思形成・表明支援」～自立への道しるべ～

○グループワーク・発表意見抜粋：8050問題へ発展する懸念もあるが、現在は大きな問題を表出していない世帯に関する事例について、以下3つの検討事項に絞り意見交換

①潜在化している意思を引き出すためのアプローチ方法

- ・他者との交流の機会
- ・具体的経験の機会を作る
- ・情報収集
- ・本人の意思や気持ちを確認
- ・支援体制を横断的に見る存在
- ・本人、家族間の調整

②大切にしたい視点

- ・特性の理解
- ・体験の機会
- ・特技を活かす
- ・家族以外の視点、逆に親の視点も配慮
- ・やる気を引き出す
- ・当たり前の生活を押し付けない

③将来生活をしていくための選択肢

- ・他者との交流の機会
- ・特技を活かす
- ・障害福祉サービスの利用
- ・体験の機会

○オブザーバーより：

グループホーム体験利用も障害福祉サービスとして給付が可能。必要時に情報提供し活用してもらいたい。

ご本人、家族、支援者の思いや方向性が一つの場で共有できているか。そこから今後の生活のイメージをもって支援していく必要がある。直近での困りごとは感じ取れなかったため、現在やりたいこと、できることをやりつつ将来のことを考えていくということでも遅くないように感じる。

○総括：

事例提出者が、これまでの関わりから本人の意思を聴き取り顕在化するサポートができています。例えば、就職願望、生活リズムの課題、両親亡き後の不安など。それらの思いを統合し、その先に確固たる意思として作り上げていく支援が今後の動きになるだろう。世界的なIT企業は働き方が自由であるように、親や支援者の固定概念を崩して、例えば夜活動する方が冴えるのであれば、そこを伸ばした働き方を支持することも可能なのではないかと。そのようなロールモデルを見せることは、将来像について意思を形成していくにあたり役立つだろう。本人が活躍できる世界の可能性を考えてみることや、母自身の特性への支援も丁寧に行い、枝葉を広げていく支援が大事である。

令和 3 年度文京区指定特定相談支援事業所連絡会 活動報告

1. 文京区指定特定相談支援事業所連絡会とは

障害福祉サービスの給付プロセスに、原則サービス等利用計画の作成が必要となっている。相談支援の質の担保、事業所間での連携、官民共通の支給決定プロセスの構築等を目的に連絡会が発足。地域課題の共有やその解決に向けた施策等の検討を行っている。連絡会は、相談支援専門部会の下部組織としても位置づけられている。区職員は検討事項があれば適宜参加している。

また、今年度より相談支援専門員の質の向上を目的に事例検討会を開催している。

2. 活動内容

○ 開催方法

- ・新型コロナウイルス感染症に伴い、定例会は昨年度に引き続き **Zoom** によるオンラインで開催。事例検討会は感染対策を講じ、参集型で開催している。

○ 定例会

- ・これまで 4 月、5 月、6 月、8 月、10 月、11 月、1 月に開催。2 月、3 月にも開催を予定している。
- ・区内指定特定相談支援事業者への聞き取り調査
- ・文京区指定特定相談支援 Q & A 集の確認
- ・区との加算要件の確認
- ・新型コロナウイルス関連の情報共有（ワクチン接種、緊急時受入れ等）
- ・委託の計画相談支援についての情報共有
- ・その他情報提供

○ 事例検討会

- ・事業所連絡会で事例提供者を募集。スーパーバイザーは経験が長いベテランの相談支援専門員へ依頼。事業所連絡会の相談支援専門員や行政職員などが参加している。

【プレ事例検討会】

- ・令和 3 年 7 月 8 日（木）13：30～15：00 ・参加者： 20 名
- ・概要：60 歳代前半の女性。知的障害。グループホーム入所中。本人は現在利用している通所先の利用継続や金銭管理含めた親族の関わりの継続を希望している。65 歳を見据え、どのような資源の活用やサポートが必要か、助言がほしい。
- ・話合った内容：具体的サービスや支援体制の検討、相手の立場に立って本人や地域と関わりを続けることの大切さ等。

【第1回事例検討会】

- ・令和3年9月17日（金）13：30～15：00 ・参加者：19名
- ・概要：60歳代男性。難病。肢体不自由。定期的に痲癢を起す。決定事項を親族に委ねる。痲癢の理由や本人が自己決定していくにはどうしたらよいか。
- ・話合った内容：生活歴や趣味、交友関係などの本人像を深める。“障害者でなく地域住民”として暮らす視点を大切にする。地域住民に知ってもらうことも大切。

【第2回事例検討会】

- ・令和4年2月24（木）開催予定
- ・概要：発達障害を抱える当事者との関係づくりに関して。

3. 今後の展望

- ・区のホームページへの必要なデータの掲載、委託の計画相談支援事業所の展望等、区担当者と協議していく。
- ・連絡会メンバー有志者へ相談支援専門員現任者研修の実習協力を依頼。
- ・事例検討会を継続し、相談支援専門員の質の向上を目指す。

4. 課題

- ・委託を含め相談支援事業所が新設され計画作成率が向上しているものの、「障害児から障害者」、「障害者から高齢者」といったつなぎの支援への課題へ取り組めていない。
- ・相談支援専門員が不足している。
- ・委託の相談支援事業所の展望。

令和3年度第1回・第2回 相談支援専門部会 振り返り

※ 第1回、第2回の要点記録、親会での報告資料、事後アンケートを元に作成。

(1) 平成30年度～令和2年度 障害者(児)計画の評価について

①計画相談・相談支援について

【概要】

- ・実態意向調査によると、多くの相談支援を利用されている方から「サービスがあってよかった」との高評価を得ている。
- ・事業所は増加していないが計画作成数は増加しているため、相談支援専門員各自の努力でカバーしていると推測することができる。
- ・障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行時等の狭間で課題が生じていることが多く、双方の制度理解や連携体制整備を考えていくことが必要。

【意見】

- ・区内の計画相談支援事業所が増えていないため、近隣区よる計画作成が増加すると予測される。近隣区の事業所と連携を図っていくことが必要。
- ・計画相談数の増減だけでなく、年齢分布での調査が必要。
- ・新規で放課後等デイサービスから利用を開始した児童は、計画を作成せずにセルフプランとなることが多く、その後も計画相談へ繋がりにくい場合が多い。
- ・介護保険への移行に際し、計画相談からケアプランへ移行した際、障害固有の課題についてもケアプランの中にきちんと盛り込み支援していくことが大事。

②住居支援について

【概要】

- ・グループホームの新規開設はできなかったが、グループホーム利用者の実績は増加。ニーズは高いと推測される。グループホームが増えると地域移行の実現にも繋がっていく。
- ・ミドルステイ利用やグループホーム以外の住まいで生活していくニーズに応えるために、当事者の希望に副い、区内で暮らせる環境整備の推進が必要。

【意見】

- ・知的障害者の場合、親の高齢化に伴い自宅での生活が困難となり、結果、郊外の施設での受け入れとなっているケースが多い。他にも、医療的ケアや身体障害の重複等で住み慣れた地域での生活が難しくなるケースがある。
- ・文京区内で将来一人暮らしを希望している方の数や年齢層を調べ、実態に応じた取組みを検討することが必要。

③地域移行に関して

【概要】

- ・国から基盤整備量（長期入院者のうち、精神保健医療福祉体制を整備することで退院可能

な利用者数)という考えが示されており、区内では年間 10 名程の退院を考えていく必要がある。

- ・実態意向調査では、入所施設外での生活を望む意向が確認できる。施設を退所して家族や親族と生活したい又は独立して生活したいとの意向の方が 6%程度いる。6%の意向をどのように実現するか検討が求められる。
- ・知的障害者の最終的な住まいは入所施設を選択することが多く、終の棲家となっているのが現状。知的障害者の地域移行がクローズアップされることは少ない。また、実態意向調査は、施設職員や家族が回答していることが多く、本人の思いや意向をどのように拾い上げるかが大きな課題と言える。

【意見】

- ・実態意向調査を長期入院者や都外施設入居者へも届けてほしい。帰りたいという声が拾われていない現状を考えていく必要がある。
- ・地域移行支援検討会議では、予防対策課より自立生活援助を利用して支援を進められないかとの声が挙がったり、指定特定相談支援事業所や委託事業所が新規開設されたりと少しずつ前進している。来年、障害者実態意向調査がある。当事者の声を確認していきたい。

(2) 障害児支援について

① 「ふみの輪」について

【概要】

- ・「ふみの輪」は支援が必要な方が生涯にわたり安心して生活するためのツール。文京区版の発達支援ファイル。幼少期から成人に至るまで成長の記録や支援状況を綴り、関係者へ伝えることができる。
- ・当事者の説明書のような役割となり、新たな支援者に引き継ぐ際に活かせる。しかし、情報が多く、家族のみで作成するのは負担が大きい。
- ・「ふみの輪」を今回初めて認識したとの意見が多数挙がった。障害児支援に関わりのない支援者は、「ふみの輪」を知らない方が多いことがわかった。

【意見】

- ・物理的にファイルにするよりも、オンライン化を進めていくべき。極めて有効なツールになる。
- ・今後は「ふみの輪」を所持しているのか確認し、活用出来るように考えていきたい。計画相談においても、これまでの支援経過を確認できる資料となると思う。
- ・「ふみの輪」の作成においては、家族が作成することの必要性を理解する事が大切。

② 障害児支援ネットワークについて

【概要】

- ・障害児支援ネットワークは指定特定相談支援事業所連絡会での議論を発端に、障がいのある子ども達を支援する関係機関が集まり自由に意見交換できる場を目指して活動を開始。
- ・①縦横連携（幼児から児童、児童から成人の移行期）、②資源不足、③報酬単価の低さ、④支援体制（困難事例への対応力）、⑤保護者の相談の場の課題がある。

- ・地域の課題を解決するためには、「行政・民間が垣根を超えて知恵を出し合える協議体が必要」と部会長より親会へ報告を行うことを確認した。

【意見】

- ・受け皿が少なくなっている。区内の放課後等デイサービスに空きがなく、区外の事業所を利用している。サービスは利用できても地域を選べない現状がある。
- ・中高生の放課後等デイサービスも定員一杯となり、毎日利用できない状況。卒業後に切れ目なく繋いでいくことが課題。
- ・4月から地域活動支援センターとして、成人の為の放課後の時間帯を過ごす事業を区内で始めている。ニーズは高い。同様のサービスを提供する事業所が増えるといい。

(3) 令和3年度定例会議報告・文京区指定特定相談支援事業所連絡会活動報告

【概要】

- ・第一回：「高齢期のライフステージにおける本人支援と家族支援」～それぞれが高齢化していくなかでの意思決定支援を考える～
- ・第二回：「青年期における意思決定支援」～一人暮らしをして仲間と青春を謳歌したい～
※重複する為、報告内容は別途報告資料を参照

【意見】

- ・「障害福祉サービスから介護保険サービスへのスムーズな移行、介護保険サービス移行後も移動支援が柔軟に使えると良い」との意見については、必要に応じて柔軟に支給決定する配慮をしている。
- ・「住宅」の困難さを取り上げていくべきだと考えています。いくら社会福祉法人がグループホームを建設しても足りない状況です。賃貸住宅を活用し、家賃補助やユニバーサルな建築を建設していくための提案を地域福祉という観点だけではなく、居住支援協議会等の諮問委員会に問題を投げかけても良いのではないのでしょうか。

(4) 結論

- ・移行時（障害福祉サービスから介護保険サービス、就学前から就学時、児童から成人）等の狭間で課題が生じやすい。
- ・双方の制度理解や連携体制整備を考えていくことが必要。（介護保険サービスと障害福祉サービスの導入方法の違いや双方のすり合わせがうまくいかないこと、障害児支援に関わりのない支援者で「ふみの輪」を知らない方が多いこと）
- ・計画相談、住まい、地域移行の課題は連動している。包括的に検討を重ね、障害者計画へ反映していく必要がある。
- ・児童の支援においては、行政・民間が垣根を超えて知恵を出し合える協議体が必要である。

令和元年度障害者(児)実態・意向調査設問項目
【在宅の方】

対象者:18歳以上の身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳取得者、難病医療券所持者

カテゴリー	設問No.	調査項目	質問の意図	回答肢	備考
1 本人について	1	回答者	基本属性	1 本人	
				2 家族	
				3 その他()	
	2	本人の年齢	基本属性	年齢()歳	
	3	年収	基本属性	1 収入はない	
				2 80万円未満	
				3 80万円以上～150万円未満	
				4 150万円以上～250万円未満	
				5 250万円以上～500万円未満	
				6 500万円以上～1,000万円未満	
7 1,000万円以上					
4	収入の内訳	基本属性	1 年金(障害基礎年金など)	複数選択可	
			2 給与・報酬(企業などに就労)		
			3 工賃(通所施設・福祉作業所などに通所)		
			4 事業収入		
			5 手当(障害者手当など)		
			6 生活保護費		
			7 親族の扶養又は援助		
			8 その他()		
5	同居家族	基本属性	1 父親	複数選択可	
			2 母親		
			3 配偶者		
			4 子		
			5 兄弟・姉妹		
			6 祖父母		
			7 その他親族		
			8 ひとり暮らし		
			9 グループホーム等での集団生活		
			10 その他()		
2 障害と健康について	6	該当する疾患・障害	障害の状況把握	1 肢体不自由(上肢、下肢、体幹、脳性麻痺、移動機能障害等)	複数選択可
				2 音声・言語・そしゃく機能障害	
				3 視覚障害	
				4 聴覚・平衡機能障害	
				5 内部障害(心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能等)	
				6 知的障害	
				7 発達障害	
				8 精神障害	
				9 高次脳機能障害	
				10 難病(特定疾病)	
				11 その他()	
6-1	(問6で「7 発達障害」と回答した場合)該当する障害	障害の状況把握	1 広汎性発達障害	複数選択可	
			2 自閉症		
			3 注意欠陥多動性障害		
			4 アスペルガー症候群		
			5 学習障害		
			6 その他の発達障害		
			7 わからない		
6-2	(問6で「10 難病」と回答した場合)疾病名	障害の状況把握	疾病名()		
7	手帳の種類・等級	障害の状況把握	1 身体障害者手帳(1級 2級 3級 4級 5級 6級)	複数選択可	
			2 愛の手帳(1度 2度 3度 4度)		
			3 精神障害者保健福祉手帳(1級 2級 3級)		
			4 手帳は所持していない		
8	家族等が障害に気づいた時期(年代)	障害に気づいた時期の把握	1 生まれたとき		
			2 0～5歳		
			3 6～17歳		
			4 18～29歳		
			5 30～39歳		
			6 40～49歳		
			7 50～59歳		
			8 60～64歳		
			9 65～69歳		
			10 70～74歳		
			11 75歳以上		

9	(8の回答を受けて)障害に気づいたときの相談相手	相談相手の把握	1 家族	複数選択可
			2 友人	
			3 学校の教職員	
			4 保育園・こども園・幼稚園の教職員	
			5 民生委員・児童委員	
			6 障害等の当事者会や家族の会	
			7 医療関係者(医師・看護師・医療相談員)	
			8 障害福祉課・予防対策課の窓口	
			9 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	
			10 保健サービスセンター(保健師)	
			11 障害者基幹相談支援センター	
			12 子ども家庭支援センター	
			13 教育委員会・教育センター	
			14 児童相談センター(児童相談所)	
			15 インターネット等の情報	
			16 その他()	
			17 相談しなかった	
10	受診状況(歯科診療も含む)	医療の状況把握	1 定期的に通院している	複数選択可
			2 定期的に訪問診療を受けている	
			3 定期的に訪問看護を受けている	
			4 現在入院している	
			5 現在は通院していない	
			6 その他()	
11	かかりつけ医療機関の有無	医療の状況把握	1 ある	複数選択可
			2 ない	
12	(問11で「1 ある」を選択した方へ)どのような医療機関か	医療の状況把握	1 区内の診療所や医院	複数選択可
			2 区内の歯科医院	
			3 区内の総合病院や大学病院	
			4 区外の診療所や医院	
			5 区外の歯科医院	
			6 区外の総合病院や大学病院	
13	必要な医療的ケアについて	医療的ケアの実施状況の把握	1 服薬支援	複数選択可
			2 吸引	
			3 吸入・ネブライザー	
			4 経管栄養	
			5 中心静脈栄養	
			6 導尿	
			7 酸素療法	
			8 鼻咽喉頭エアウェイ	
			9 パルスオキシメーター	
			10 気管切開部の管理	
			11 人工呼吸器の管理	
			12 その他()	
			13 特に必要としていない	
14	日常生活に必要な介助・支援	必要な介助・支援状況の把握	1 食事	複数選択可
			2 排せつ	
			3 入浴	
			4 寝返り	
			5 着替え	
			6 調理・掃除・洗濯等の家事	
			7 室内の移動	
			8 洗顔・歯磨き	
			9 代筆・代読	
			10 電話の利用・代行	
			11 お金の管理	
			12 日常の買い物	
			13 通院・通学・通勤	
			14 通院・通学・通勤以外の外出	
			15 日常生活に必要な意思の伝達	
			16 日常生活動作の見守り	
			17 薬の管理	
			18 区役所や事業者などの手続	
			19 その他()	
			20 介助や支援は必要ない	

	15	(介助・支援が必要な方へ)主な介助・支援者	介助者の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 父親 2 母親 3 配偶者 4 子 5 兄弟・姉妹 6 祖父母 7 その他親族 8 ホームヘルパー 9 ボランティア 10 グループホームの世話人 11 その他 	
	15-1	(問15で「1～7 家族・親族」を選択した方へ)主な介助者の年代	介助者の年代把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 19歳以下 2 20歳～29歳 3 30歳～39歳 4 40歳～49歳 5 50歳～59歳 6 60歳～69歳 7 70歳～79歳 8 80歳以上 	
	16	主な介助者による他の方の介助状況	ダブルケアの状況把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 高齢者(両親・祖父母等)の介護 2 子ども(就学児・未就学児)の子育て 3 病気の方の介護 4 障害のある方の介護 5 その他() 6 なし 	
	17	主な介助者が支援できなくなったときの対応	主な介助者以外の支援の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 一緒に住んでいる家族に頼む 2 別に住んでいる家族に頼む 3 居宅介護(ホームヘルプ)を利用する 4 短期入所(ショートステイ)を利用する 5 障害者施設(障害者支援施設等) 6 高齢者施設(老人ホーム等)に入所する 7 病院に入院する 8 グループホームに入所する 9 成年後見人を立てる 10 その他() 11 まだわからない 	複数選択可
3 相談や福祉の情報について	18	日常生活で困っていること	生活上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 健康状態に不安がある 2 着替えや食事などが十分にできない 3 家事などが十分にできない 4 介助者の負担が大きい 5 介助者が高齢化している 6 外出に支障がある 7 住まいに支障がある 8 就労について困っている 9 緊急時の対応に不安がある 10 災害時の避難に不安がある 11 人間関係に支障がある 12 障害や病気に対する周囲の理解がない 13 困ったときに相談する相手がいない 14 役所などの手続きが難しい 15 近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない 16 経済的に不安がある 17 将来に不安を感じている 18 日中することがない 19 休むべき時間や休むべき日、交流する機会が少ない 20 その他() 21 特になし 	複数選択可
	19	困ったときの相談相手	相談相手の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 家族や親族 2 近所の人 3 友人・知人 4 民生委員・児童委員 5 障害等の当事者会や家族の会 6 身体障害者相談員・知的障害者相談員 7 ヘルパー等福祉従事者 8 利用している施設の職員(グループホームの職員) 9 医療関係者(医師・看護師・医療相談員) 10 障害福祉課・予防対策課 11 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口 12 保健サービスセンター 13 障害者基幹相談支援センター 14 福祉事務所のケースワーカー 15 障害者就労支援センター 16 社会福祉協議会 17 地域活動センター 18 高齢者あんしん相談センター 19 その他() 20 相談する相手がいない 	複数選択可

	20	福祉の情報の入手先	情報入手先の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 区の広報紙(区報等) 2 区のホームページ 3 文の京・障害者福祉のてびき 4 区の窓口 5 保健サービスセンター 6 テレビ・ラジオ 7 インターネット 8 新聞・書籍 9 障害等の当事者会や家族の会 10 医療機関 11 その他() 12 特にない 	複数選択可
	21	今後希望する生活	将来希望する生活把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 地域で独立して生活する 2 親や親族と一緒に生活する 3 グループホームで生活する 4 区外でも良いので入所施設(障害者支援施設)で生活する 5 区外でも良いので入所施設(障害者支援施設)で生活する 6 高齢者施設(老人ホーム等)で生活する 7 わからない 	
	22	地域で安心して暮らすために必要な施策	地域生活のための課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 障害に対する理解の促進 2 医療やリハビリテーションの充実 3 幼少期・学齢期からの教育・育成の充実 4 働くための訓練・就労に向けた支援の充実 5 仕事を継続するための支援の充実 6 身近な地域で相談できる場の充実 7 訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実 8 日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等)の充実 9 就労訓練系サービス(就労移行支援・就労継続支援等)の充実 10 短期入所(ショートステイ)の整備 11 意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実 12 福祉機器・補装具などの充実 13 グループホームの整備 14 入所施設の整備 15 障害者向けの住まいの確保 16 居住支援の充実 17 建物・道路等のバリアフリー化 18 当事者同士で支援し合える仕組みづくり 19 趣味やスポーツ活動の充実 20 財産管理や見守り等の支援 21 経済的支援の充実 22 災害時支援の充実 23 地域交流の場の充実 24 福祉・医療・介護との連携の充実 25 その他() 26 特にない 	複数選択可
4	福祉サービスについて	23	今後利用したい、現在利用しているサービスについて	サービス利用状況・利用意向の把握	
		23-①	(1)障害福祉サービス(訪問系) 居宅介護、重度訪問介護、同行援護など		<p>A 現在利用している(利用していれば○) B 利用満足度(満足～普通～不満まで5段階) C B欄で「やや不満」、「不満」を選択した方について、下記1～9から理由を選択 D 今は利用していないが今後利用したい</p> <p>{C欄}理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 利用できる回数や日数等が少ない 2 利用料が高い 3 サービス提供事業所が少ない 4 利用日時が合わない 5 サービス内容(質)に不安を感じる 6 サービス提供事業所の対応が良くない 7 事業所と家族の連携が取れていない 8 医療的ケアの対応が十分でない 9 その他()
		23-②	(2)障害福祉サービス(日中活動系) 生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型など		
		23-③	(3)障害福祉サービス(居住系) グループホーム、施設入所支援		
		23-④	(4)障害福祉サービス(相談支援) 地域相談支援、計画相談支援		
		23-⑤	(5)地域生活支援事業 移動支援、日常生活用具、日中短期入所、地域活動支援センターなど		
		23-⑥	(6)日常生活のサービス 福祉タクシー、短期保護、医療的ケア原在宅レスパイト事業		
		23-⑦	(7)就労に関する支援 就労支援事業		
		23-⑧	(8)精神障害者を対象とした支援 地域生活安定化支援事業など		
		23-⑨	(9)難病患者に対する支援 難病リハビリ教室など		
		23-⑩	(10)その他 障害者(児)歯科診療、在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業、成年後見制度支援事業など		
	24	(問23で「A 現在利用している」を選択した方へ)サービス提供事業者に望むこと	サービス上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 サービス利用契約に関する十分な説明 2 希望する曜日・時間帯に確実に利用できること 3 サービス従事者(ホームヘルパー、施設職員など)の質の確保 4 満足できるサービスを提供できる体制の確保 5 その他() 6 特にない 	
	25	(問23で「A 現在利用している」を選択した方へ)どのようにサービス等利用計画を作成したか	サービス等利用計画の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している 2 自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している 3 介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している 	

	26	(サービス等利用計画を作成した方に対して)作成して満足したこと	サービス等利用計画作成上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた 2 希望どおりのサービス等利用計画ができた 3 サービス等利用計画の計画内容に満足している 4 再び支援が必要となった場合にはサービス等利用計画を作成したい 5 サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた 6 サービス等利用計画の内容が具体的で分かりやすかった 7 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった 8 その他() 9 特にない 	複数選択可
	27	(サービス等利用計画を作成した方に対して)作成して満足できなかったこと	サービス等利用計画作成上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明しなかった 2 希望どおりのサービス等利用計画ができていなかった 3 サービス等利用計画の計画内容に不満がある 4 再び支援が必要となった場合でもサービス等利用計画は作成しにくい 5 サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった 6 サービス等利用計画の内容が分かりにくかった 7 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった 8 その他() 9 特にない 	複数選択可
	28	(問25で「2セルフプラン」を選択した方へ)セルフプランとした理由	サービス等利用計画作成上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談支援事業所にサービス等利用計画の作成を依頼することが手間だったため 2 身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため 3 障害福祉サービスを早く利用したかったため 4 家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため 5 自分でセルフプランを作成することが可能だったため 6 その他() 	
	29	(障害福祉サービス等を利用していない方へ)サービスを利用していない理由	サービス上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 サービスを利用する必要がないから 2 利用したいサービスがないから 3 家族が介助してくれるから 4 家族以外に介助してもらえないから不安があるから 5 施設・サービスが空くのを待っている 6 緊急時に利用したい 7 利用料が高い 8 障害福祉サービスがあることを知らない 9 その他() 	
	30	(40歳以上の方全員に対して)介護保険サービスの利用の有無	介護保険との併用者の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 訪問介護(ホームヘルプ) 2 通所介護(デイサービス) 3 短期入所(ショートステイ) 4 その他() 5 介護保険サービスを利用していない 	
5 日中活動や外出について	31	平日の日中の過ごし方	日中生活の現状把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 (一般枠で)正社員・正職員として働いている 2 (障害者枠で)正社員・正職員として働いている 3 (一般枠で)契約社員として働いている 4 (障害者枠で)契約社員として働いている 5 パート・アルバイトなどで働いている 6 自営業・家業の手伝いなどで働いている 7 福祉施設等に通っている 8 大学・専門学校などに通っている 9 職業訓練校(職業能力開発センター等)に通っている 10 ハローワーク等に通って求職活動をしている 11 自宅で家事をしている 12 育児をしている 13 休職中 14 その他() 15 特に何もしていない 	
	31-1	(問31で1~7を選択した方へ)給与・工賃の月額	経済状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 1万円未満 2 1万円以上~3万円未満 3 3万円以上~5万円未満 4 5万円以上~10万円未満 5 10万円以上~15万円未満 6 15万円以上~20万円未満 7 20万円以上 	
	31-2	(問31で1~6を選択した方へ)仕事の内容	仕事内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 事務の仕事 2 販売・接客の仕事 3 パソコンを使った仕事 4 医療・福祉の仕事 5 教育関係の仕事 6 倉庫等の商品管理や発送の仕事 7 清掃の仕事 8 調理、食品、厨房内の仕事 9 店舗、バックヤードの仕事 10 農産物等の栽培の仕事 11 自宅での仕事(テレワーク) 12 その他() 13 わからない 	

31-3	(問31で1～6を選択した方へ)仕事の勤務時間(週当たり)	勤務時間の把握	1 週に40時間以上	
			2 週に20時間以上～40時間未満	
			3 週に20時間未満	
			4 その他()	
			1 賃金や待遇面で不満がある	
			2 仕事中の体調の変化に不安がある	
			3 調子が悪いときに休みが取りにくい	
			4 労働時間や日数に不満がある	
			5 通勤が大変である	
			6 職場の人間関係がうまくいかない	
			7 職場に相談できる人や援助者がいない	
			8 職場の障害理解が不足している	
			9 トイレなど職場の設備が不十分	
			10 周囲の目が気になる	
			11 自分の考えや思ったことを伝えられない	
			12 能力に応じた評価、昇進の仕組みがない	
			13 仕事の内容が合っていない	
			14 その他()	
			15 特になし	
31-5	(問31で「7 福祉施設等に通っている」を選択した方へ)福祉施設に通所する上で困っていること	サービス上の課題把握	1 サービスの内容が自分に合っていない	
			2 作業時間や日数に不満がある	
			3 工賃に不満がある	
			4 訓練や作業をする上での配慮が不足している	
			5 他の利用者との人間関係がうまくいかない	
			6 通うのが大変である	
			7 トイレなど施設の整備が不十分	
			8 相談できる人や援助者がいない	
			9 作業中の体調の変化に不安がある	
			10 自分の考えや思ったことが伝えられない	
			11 その他()	
			12 特になし	
31-6	(問31で「15 特に何もしていない」を選択した方へ)その理由	就労・通所以外の生活状況の把握	1 障害の程度や症状のため	複数選択可
			2 高齢のため	
			3 職場の人間環境に不安があるため	
			4 職場の障害理解に不安があるため	
			5 職場や活動の場に通うのが困難なため	
			6 周囲から止められているため	
			7 自分に合った仕事がないため	
			8 自分に合った活動の場がないため	
			9 働く自信がないため	
			10 働く必要がないため	
			11 働ける場所があるかわからない	
			12 その他()	
			13 特に理由はない	
32	就労のために希望する支援	就労上の課題把握	1 就労に向けての相談支援	
			2 就労継続に向けての相談支援	
			3 障害のある人が働く企業等の見学	
			4 企業等での体験実習	
			5 自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	
			6 就労意欲向上のためのプログラム	
			7 求職活動の支援	
			8 自分に合った仕事を見つける支援	
			9 ビジスマナーなどを学ぶ機会	
			10 履歴書の作成や面接への同行支援	
			11 企業等での短時間(1日2時間程度)雇用の推進	
			12 企業等における障害理解の推進	
			13 その他()	
			14 特になし	
33	休日の過ごし方	余暇活動の把握	1 趣味や学習活動	複数選択可
			2 スポーツ・運動	
			3 ボランティア活動	
			4 友人・知人と会う	
			5 演劇や映画の鑑賞	
			6 買い物	
			7 飲食店に行く	
			8 読書	
			9 旅行	
			10 家でくつろぐ	
			11 地域の行事への参加	
			12 近所の散歩	
			13 その他()	
			14 特に何もしない	
34	外出の頻度	外出頻度の把握	1 ほぼ毎日	
			2 週に3～4回	
			3 週に1～2回	
			4 月に1～3回	
			5 あまり外出しない	

	35	外出の際に困っていること	外出時の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 歩道の段差や傾斜 2 建物の段差や階段 3 バスやタクシーの利用 4 駅構内の移動や乗り換え 5 券売機の利用 6 トイレの利用 7 歩道がせまい・障害物がある 8 疲れたときの休憩場所 9 自動車・自転車に危険を感じる 10 スマホのながら歩きに危険を感じる 11 外出するのに支援が必要である 12 外出したくても介助者がいない 13 周囲の人の理解や配慮がない 14 その他() 15 特にない 	複数選択可
6 住まいについて	36	住まいでの困りごと	住居に関する課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 建物のバリアフリーに問題 2 建物の老朽化 3 家賃など住宅費の負担 4 近隣住民とのトラブル 5 転居したいがサポートがないと難しい 6 周りに相談できる人がいない 7 入居を断られたことがある 8 その他() 9 特にない 	
	37	住まいで必要な支援	住居に関する課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 住宅改造費用の貸付・助成 2 家具転倒防止や耐震化など災害対策 3 公営住宅への優先入居の拡充 4 民間賃貸住宅の入居支援 5 グループホームなどの整備 6 住居探しのサポート体制の整備 7 その他() 8 特にない 	複数選択可
7 差別解消について	38	障害者の差別解消を進めていくために必要なこと	障害理解への要望把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備 2 障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信 3 障害者差別解消法に係るセミナー・研修等の開催 4 障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行 5 障害者団体等と連携して実施するイベントの開催 6 地域や学校等で交流の機会を増やすこと 7 地域や学校等とともに学び、ともに暮らすこと 8 学校や生涯学習での障害に関する教育や研修 9 障害についての講演会や疑似体験会の開催 10 障害者の一般就労の促進 11 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発 12 その他() 13 特にない 	複数選択可
	39	合理的配慮を進めるために必要なこと		<ul style="list-style-type: none"> 1 合理的配慮に関する講演・セミナーの開催 2 合理的配慮事例の周知・啓発 3 筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応 4 バリアフリー化や情報機器の活用・機器の等 5 障害当事者等を講師とした研修・講演 6 民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成 7 その他() 8 特にない 	複数選択可
8 災害対策について	40	災害発生時に困ること	災害への準備状況把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 災害の情報をする方法がわからない 2 助けを求める方法がわからない 3 避難所の場所がわからない 4 近くに助けてくれる人がいない 5 一人では避難できない 6 避難所の設備が障害に対応しているか不安 7 避難所で必要な支援が受けられるか不安 8 避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 9 薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安 10 医療機器の電源確保が心配 11 その他() 12 特にない 	複数選択可
	41	災害に対する備え	災害への準備状況把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 口頭での家族へ災害時の対応を話し合っている 2 非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている 3 疾病等で必要なく薬や医療機関の連絡先などを備えている 4 近所の人や知人等に、災害が発生したときのお断りしている 5 東京医大の「避難行動要支援者名簿」に登録している 6 家具に転倒防止器具を取り付ける 7 住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている 8 区民防災組織(町会・自治会)や消防団等に参加している 9 地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している 10 その他() 11 特にない 	複数選択可
9 自由意見	42	意見・要望			

令和元年度障害者(児)実態・意向調査設問項目
【施設入所している方】

対象者:18歳以上の施設入所支援利用者

カテゴリー	設問No.	調査項目	質問の意図	回答肢	備考
1 本人について	1	回答者	基本属性	1 本人	
				2 家族	
				3 施設の職員	
				4 その他()	
	2	本人の年齢	基本属性	年齢()歳	
	3	年収	基本属性	1 収入はない	
				2 80万円未満	
				3 80万円以上～150万円未満	
				4 150万円以上～250万円未満	
				5 250万円以上～500万円未満	
				6 500万円以上～1,000万円未満	
				7 1,000万円以上	
4	収入の内訳	基本属性	1 年金(障害基礎年金など)	複数選択可	
			2 工賃(福祉的就労)		
			3 生活保護費		
			4 親族の扶養又は援助		
			5 その他()		
2 障害の状況について	5	該当する疾患・障害	障害の状況把握	1 肢体不自由(上肢、下肢、体幹、脳性麻痺、移動機能障害等)	複数選択可
				2 音声・言語・そしゃく機能障害	
				3 視覚障害	
				4 聴覚・平衡機能障害	
				5 内部障害(心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能等)	
				6 知的障害	
				7 発達障害	
				8 精神障害	
				9 高次脳機能障害	
				10 難病(特定疾病)	
				11 その他()	
	5-1	(問5で「7 発達障害」と回答した場合)該当する障害	障害の状況把握	1 広汎性発達障害 2 自閉症 3 注意欠陥多動性障害 4 アスペルガー症候群 5 学習障害 6 その他の発達障害 7 わからない	複数選択可
5-2	(問5で「10 難病」と回答した場合)疾病名	障害の状況把握	疾病名()		
6	手帳の種類・等級	障害の状況把握	1 身体障害者手帳(1級 2級 3級 4級 5級 6級 7級)	複数選択可	
			2 愛の手帳(1度 2度 3度 4度)		
			3 精神障害者保健福祉手帳(1級 2級 3級)		
			4 手帳は所持していない		
7	家族等が障害に気づいた時期(年代)	障害に気づいた時期の把握	1 生まれたとき		
			2 0～5歳		
			3 6～17歳		
			4 18～29歳		
			5 30～39歳		
			6 40～49歳		
			7 50～59歳		
			8 60～64歳		
			9 65～69歳		
			10 70～74歳		
			11 75歳以上		
8	(7の回答を受けて)障害に気づいたときの相談相手	相談相手の把握	1 家族	複数選択可	
			2 友人		
			3 学校の教職員		
			4 保育園・こども園・幼稚園の教職員		
			5 民生委員・児童委員		
			6 障害等の当事者会や家族の会		
			7 医療関係者(医師・看護師・医療相談員)		
			8 障害福祉課・予防対策課の窓口		
			9 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口		
			10 保健サービスセンター(保健師)		
			11 障害者基幹相談支援センター		
			12 子ども家庭支援センター		
			13 教育委員会・教育センター		
			14 児童相談センター(児童相談所)		
			15 インターネット等の情報		
			16 その他()		
			17 相談しなかった		

3 施設入所について	9	施設の所在地域	施設所在地の把握	1 文京区内 2 東京都内(文京区以外の特別区) 3 東京都内(特別区以外) 4 関東(東京都を除く) 5 中部 6 東北 7 近畿 8 四国 9 その他()	
	10	施設入所年数	施設入所年数の把握	1 1年未満 2 1年以上～3年未満 3 3年以上～5年未満 4 5年以上～10年未満 5 10年以上～20年未満 6 20年以上～30年未満 7 30年以上 8 わからない	
	11	入所の理由	入所理由の把握	1 家族から自立するため 2 リハビリや生活面の訓練を受けるため 3 生活が保障され安心感があるため 4 家族による介助が難しくなったため 5 常時介助が必要のため 6 医療的なケアが必要のため 7 住まいに支障があったため 8 在宅福祉サービスが不十分のため 9 収入が不十分だったため 10 家族などに勧められたため 11 他施設などに勧められたため 12 その他() 13 わからない	複数選択可
4 施設での生活について	12	出身世帯に帰る(帰省)ときに困ること	移動時の課題把握	1 帰る手段がない、また移動が難しい 2 帰るときの介助者がいない 3 交通費などにお金がかかる 4 出身世帯の建物が障害に対応していない 5 出身世帯では十分な介助が受けられない 6 帰ったときは一人であることが多い 7 家族や親族がいない 8 緊急の場合が不安である 9 その他() 10 特になし	複数選択可
	13	施設生活の満足度	満足度の把握	1 非常に満足している 2 満足している 3 普通 4 不満である 5 非常に不満である 6 わからない	
	14	現在の暮らしで困っていること	施設生活の課題把握	1 身の回りのことが自分では十分にできない 2 健康状態に不安がある 3 プライバシーが十分に保たれない 4 1日の生活のリズムが自由にならない 5 施設の整備に不満がある 6 仕事や訓練に不満がある 7 外出の機会が少ない 8 施設の職員の対応に不満がある 9 人間関係がうまく築けない 10 困ったときに相談する相手がいない 11 家族とあまり会えない 12 将来の生活になんとか不安を感じる 13 その他() 14 特に困ることはない	複数選択可
	15	入所施設に要望すること	施設生活の課題の把握	1 介護・看護の質の向上 2 健康への配慮 3 プライバシーへの配慮 4 生活内容の改善 5 施設の整備の改善 6 仕事や訓練の改善 7 外出機会の増加 8 職員の対応の改善 9 余暇活動の充実 10 相談体制の充実 11 地域生活に向けた訓練の充実 12 その他() 13 特になし	複数選択可
	16	必要とする医療的ケアがあるか	医療的ケア対応状況の把握	1 施設入所前からのまま医療的ケアがある 2 施設に入所した当時は必要なかったが、今は必要な医療的ケアがある 3 なし	

	17	(ある場合)医療的ケアの内容	医療的ケア対応状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 服薬支援 2 吸引 3 吸入・ネブライザー 4 経管栄養 5 中心静脈栄養 6 導尿 7 酸素療法 8 鼻咽頭エアウェイ 9 パルスオキシメーター 10 気管切開部の管理(Jガーゼ交換等) 11 人工呼吸器の管理 12 その他() 	複数選択可
	18	休日の過ごし方	余暇活動の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 趣味や学習活動 2 スポーツ 3 ボランティア活動 4 友人・知人と会う 5 演劇や映画の鑑賞 6 ショッピングに行く 7 飲食店に行く 8 読書 9 旅行 10 自室などでくつろぐ 11 地域の行事に参加 12 近所の散歩 13 その他() 14 特に何もしない 	複数選択可
	19	外出の頻度	外出頻度の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 まぼ毎日 2 週に3~4回 3 週に1~2回 4 月に1~3回 5 あまり外出しない 	
5 今後の暮らしについて	20	今後希望する生活	今後希望する生活の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 現在の施設で生活したい 2 施設を退所して、家族や親族と生活したい 3 施設を退所して、独立して生活したい 4 施設を退所して、グループホーム等で生活したい 5 別の施設で暮らしたい 6 わからない 	
	20-1	(問20で「1 現在の施設で生活したい」を選択した方へ)その理由	施設生活を希望する理由の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 他の入所者や職員との関係が良好なため 2 環境や日中活動の内容等に満足している 3 今の施設で技術や能力を身に付けた 4 すぐに入所できるグループホームがない 5 在宅サービスが充実していない 6 自宅の構造が障害に対応していない 7 健康面で不安がある 8 経済的に難しい 9 家族の受け入れ体制が整っていない 10 地域で友人関係が持てるか不安である 11 その他() 12 特に理由はない 	複数選択可
	20-2	(問20で2~4を選択した方へ)どのような暮らしをしたいか	地域生活のニーズ把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 企業などで一般就労したい 2 作業などで福祉的就労をしたい 3 福祉的就労以外の通所施設に通いたい 4 就労や通所はしないで暮らしたい 5 わからない 	
	20-3	(問20で2~4を選択した方へ)退所後に暮らしたい地域	地域移行後の生活場所の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 文京区内 2 現在入所している施設の近く 3 その他の地域 4 どこでも良い 	
	20-4	(問20で2~4を選択した方へ)退所後に暮らす地域に望むこと	地域移行後の要望の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療機関が多くある 2 昼間に通所する施設がある 3 住環境が良い 4 交通の便が良い 5 長年住み慣れた地域である 6 気軽に相談できる相談機関がある 7 現在の施設から支援が受けられる 8 家族などが住んでいる 9 在宅福祉サービスが充実している 10 その他() 11 特になし 	複数選択可

	21	地域で安心して暮らすために必要な施策	地域生活のための課題把握	1 周囲の人の障害に対する理解の促進 2 医療やリハビリテーションの充実 3 幼少期・学齢期からの教育・育成の充実 4 働くための訓練・就労に向けた支援の充実 5 仕事を継続するための相談や支援 6 身近な地域で相談できる場の充実 7 訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実 8 日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等)の充実 9 就労訓練系サービス(就労移行支援・就労継続支援等)の充実 10 短期入所(ショートステイ)の整備 11 意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実 12 福祉機器・補装具などの充実 13 グループホームの整備 14 入所施設(障害者支援施設等)の整備 15 障害者向けの住まいの確保 16 居住支援の充実 17 建物・道路等のバリアフリー化 18 当事者同士で支援し合える仕組みづくり 19 趣味やスポーツ活動の充実 20 財産管理や見守り等の支援 21 経済的支援の充実 22 災害時支援の充実 23 地域交流の場の充実 24 福祉・医療・介護との連携の充実 25 その他() 26 特になし	複数選択可
6 相談や福祉の情報について	22	困ったときの相談相手	相談相手の把握	1 家族や親族 2 施設の職員 3 施設の相談窓口(第三者委員会等) 4 友人・知人 5 ピアサポーター 6 卒業した学校の教職員 7 障害等の当事者会や家族の会 8 相談支援事業所等の相談支援専門員 9 医療関係者(医師、看護師、医療相談員) 10 官公庁の窓口(区の障害福祉課等) 11 保健サービスセンター 12 障害者基幹相談支援センター 13 社会福祉協議会 14 インターネット等の情報 15 その他() 16 相談する相手はいない	複数選択可
	23	福祉情報の入手先	情報入手先の把握	1 家族や親族 2 相談支援専門員 3 知人・友人 4 官公庁の広報紙 5 官公庁のホームページ 6 官公庁の窓口(区の障害福祉課等) 7 保健サービスセンター 8 テレビ・ラジオ 9 インターネット 10 新聞・書籍 11 障害等の当事者会や家族の会 12 医療機関 13 施設の職員 14 その他() 15 特になし	複数選択可
7 差別解消について	24	障害者の差別解消をすすめていくために必要なこと	障害理解への要望把握	1 障害者差別に関する相談・助言解決の体制強化 2 障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信 3 障害者差別解消法に関するセミナー・研修等の実施 4 障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行 5 障害者団体間で障害者交流するイベントの実施 6 地域や学校等で交流の機会を増やすこと 7 地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと 8 障害者に対する教育に関する取組の推進 9 障害についての講演会や疑似体験会の開催 10 障害者の一般就労の促進 11 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発 12 その他() 13 特になし	複数選択可

	25	合理的配慮を進めるために必要なこと		1 区民や民間事業者に対して障害者差別解消法に関する周知・啓発 2 障害者差別解消法に係るセミナーの開催 3 障害当事者を講師とした区民・民間事業者向けの研修 4 筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション手段の設置 5 意思疎通のために絵や写真カード、ICT機器(タブレット端末等)等の活用 6 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発 7 特になし 8 その他()	複数選択可
自由意見	26	意見・要望			

令和元年度障害者(児)実態・意向調査設問項目
【18歳未満の方(障害児)】

対象者:18歳未満の身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳取得者、難病医療券所持者、障害児通所支援受給者証所持者

カテゴリー	設問No.	調査項目	質問の意図	回答肢	備考
1 本人について	1	回答者	基本属性	1 本人	
				2 家族	
				3 その他()	
	2	本人の年齢	基本属性	年齢()歳	
3	世帯年収	基本属性	1 収入はない		
			2 80万円未満		
			3 80万円以上～150万円未満		
			4 150万円以上～250万円未満		
			5 250万円以上～500万円未満		
			6 500万円以上～1,000万円未満		
			7 1,000万円以上		
4	同居家族	基本属性	1 父親		
			2 母親		
			3 兄弟・姉妹		
			4 祖父母		
			5 その他親族		
			6 その他()		
2 障害と健康について	5	該当する疾患・障害	障害の状況把握	1 肢体不自由(上肢、下肢、体幹、脳性麻痺、移動機能障害等)	複数選択可
				2 音声・言語・しゃく機能障害	
				3 視覚障害	
				4 聴覚・平衡機能障害	
				5 内部障害(心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能等)	
				6 知的障害	
				7 発達障害	
				8 精神障害	
				9 高次脳機能障害	
				10 難病(特定疾病)	
				11 その他()	
5-1	(問5で「7 発達障害」と回答した場合)該当する障害	障害の状況把握	1 広汎性発達障害	複数選択可	
			2 自閉症		
			3 注意欠陥多動性障害		
			4 アスペルガー症候群		
			5 学習障害		
			6 その他の発達障害		
			7 わからない		
5-2	(問5で「10 難病」と回答した場合)疾病名	障害の状況把握	疾病名()		
6	手帳の種類・等級	障害の状況把握	1 身体障害者手帳(1級 2級 3級 4級 5級 6級)	複数選択可	
			2 愛の手帳(1度 2度 3度 4度)		
			3 精神障害者保健福祉手帳(1級 2級 3級)		
			4 手帳は所持していない		
7	保護者が障害に気づいた時期(年齢)	障害に気づいた時期の把握	1 生まれたとき		
			2 0歳		
			3 1歳		
			4 2歳		
			5 3歳		
			6 4歳		
			7 5歳		
			8 6～8歳		
			9 9～11歳		
			10 12歳以上		
8	保護者が障害に気づいたときの状況	発見時期の把握	1 生まれて間もなく知らされた		
			2 家族や周りの人が気づいた		
			3 乳幼児健診で知らされた		
			4 育児相談などで知らされた		
			5 医療機関で診察したときに知らされた		
			6 保育園、子育て園、幼稚園の教職員が気づいた		
			7 学校の教職員が気づいた		
			8 その他()		
			9 わからない		

9	障害に気づいたときの相談相手	相談相手の把握	1 家族	複数選択可
			2 友人	
			3 学校の教職員	
			4 保育園・こども園・幼稚園の教職員	
			5 民生委員・児童委員	
			6 障害等の当事者会や家族の会	
			7 医療関係者(医師・看護師・医療相談員)	
			8 障害福祉課・予防対策課の窓口	
			9 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	
			10 保健サービスセンター(保健師)	
			11 障害者基幹相談支援センター	
			12 子ども家庭支援センター	
			13 教育委員会・教育センター	
			14 児童相談センター(児童相談所)	
			15 インターネット等の情報	
			16 その他()	
			17 相談しなかった	
10	受診状況(歯科診療も含む)	医療の状況把握	1 定期的に通院している	
			2 ときどき通院している	
			3 自宅で訪問看護や往診を受けている	
			4 入院している	
			5 特に治療はしていない	
			6 その他()	
11	かかりつけ医療機関の有無	医療の状況把握	1 ある	
			2 ない	
12	(問11で「1 ある」を選択した方へ)どのような医療機関か	医療の状況把握	1 区内の診療所や医院	複数選択可
			2 区内の歯科医院	
			3 区内の総合病院や大学病院	
			4 区外の診療所や医院	
			5 区外の歯科医院	
			6 区外の総合病院や大学病院	
13	必要な医療的ケアの受診について	医療的ケアの実施状況	1 服薬支援	複数選択可
			2 吸引	
			3 吸入・ネブライザー	
			4 経管栄養	
			5 中心静脈栄養	
			6 導尿	
			7 酸素療法	
			8 鼻咽喉エアウェイ	
			9 パルスオキシメーター	
			10 気管切開部の管理(Jガーゼ交換等)	
			11 人工呼吸器の管理	
			12 その他()	
			13 特に必要としない	
13-1	(13で「1~12 必要な医療的ケア」を選択した方へ)医療的ケア児やその介助者のために必要な支援策について	医療的ケア児への支援策の把握	1 一時的に預かるサービスの充実	複数選択可
			2 移動に係る支援の充実	
			3 保育所や学校等における環境整備	
			4 経済的な支援等の充実	
			5 医療的ケアに対応できる事業所等の充実	
			6 訪問看護・訪問リハビリ等の充実	
			7 相談できる体制の充実	
			9 情報提供の充実	
			10 その他()	
			14	
2 排せつ				
3 入浴				
4 寝返り				
5 着替え				
6 室内の移動				
7 洗顔・歯磨き				
8 代筆・代読				
9 通院・通学・通勤				
10 通院・通学・通勤以外の外出				
11 日常生活に必要な意思の伝達				
12 日常生活動作の見守り				
13 学習の支援				
14 その他()				
15 介助や支援は必要ない				
15	(介助・支援が必要な方へ)主な介助・支援者	介助者の把握	1 父親	
			2 母親	
			3 兄弟・姉妹	
			4 その他親族	
			5 ホームヘルパー	
			6 ボランティア	
			7 その他()	

	15-1	(問15で「1 父親」～「4 その他親族」を選択した方へ) 主な介助者の年代	介助者の年代把握	1 19歳以下 2 20歳～29歳 3 30歳～39歳 4 40歳～49歳 5 50歳～59歳 6 60歳以上	
	16	主な介助者による他の方の介助状況	ダブルケアの状況把握	1 高齢者(両親・祖父母等)の介護 2 子ども(就学児・未就学児)の子育て 3 病気の方の介護 4 障害のある方の介護 5 その他() 6 なし	
	17	介助者の悩み・不安	介助者の悩み・不安の把握	1 介助してくれる人が足りない 2 何かあったときに介助を頼める人がいない 3 他の家族の協力が少ない 4 仕事との両立が難しい 5 長期的な外出ができない 6 介助や支援の方法がわからない 7 自分の時間が取れず、自由がない 8 身体的な負担が大きい 9 健康について不安がある 10 体調不良でも病院に行く時間がない 11 睡眠が不足している 12 精神的な負担が大きい 13 経済的な負担が大きい 14 周囲の人や職場などの理解がない 15 きょうだい児の世話が十分にできない 16 子どもの就学や進路について不安がある 17 子どもの成長や発達について不安がある 18 その他() 19 特に悩みや不安はない	複数選択可
3 相談や福祉の情報について	18	日常生活で困っていること	生活上の課題把握	1 健康状態に不安がある 2 障害のため、身の回りのことが十分にできない 3 介助者に負担をかけている 4 外出が大変である 5 住まいに不便を感じている 6 災害時の避難に不安がある 7 緊急時の対応に不安がある 8 学校などの先生とうまくいかない 9 友だちとの関係がうまくいかない 10 障害や病気に対する周りの理解がない 11 困ったとき相談する相手がいない 12 病気や障害を理解した上で、診てもらえる診療所が近くに少ない 13 生活にお金がかかることに不安がある 14 将来に不安を感じている 15 その他() 16 特になし	複数選択可
	19	主な相談相手	相談相手の把握	1 家族や親族 2 近所の人 3 友人・知人 4 ピアサポーター 5 学校の教職員 6 保育園・子ども園・幼稚園の教職員 7 民生委員・児童委員 8 障害等の当事者会や家族の会 9 身体障害者相談員・知的障害者相談員 10 ヘルパー等福祉従事者 11 相談支援事業所等の相談支援専門員 12 医療関係者(医師・看護師・医療相談員) 13 地域包括ケア歯科相談窓口 14 障害福祉課・予防対策課 15 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口 16 保健サービスセンター 17 障害者基幹相談支援センター 18 子ども家庭支援センター 19 教育委員会・教育センター 20 児童相談センター(児童相談所) 21 文京区社会福祉協議会 22 その他() 23 相談する相手がいない	複数選択可

20	福祉の情報の入手先	情報入手先の把握	1 区の広報紙(区報等)	複数選択可
			2 区のホームページ	
			3 文の京・障害者福祉のてびき	
4 区の窓口				
5 保健サービスセンター				
6 テレビ・ラジオ				
7 インターネット				
8 新聞・書籍				
9 障害等の当事者会や家族の会				
10 医療機関				
11 学校の教職員				
12 保育園・子ども園・幼稚園の教職員				
13 児童発達支援などの療育機関				
14 その他()				
15 特にない				
21	将来希望する生活	希望する生活の把握	1 地域で独立して生活する	
			2 親や親族と一緒に生活する	
			3 グループホームで生活する	
			4 入所施設(障害者支援施設)で生活する	
			5 その他()	
			6 わからない	
22	地域で安心して暮らすために必要な施策	地域生活のための課題把握	1 周囲の人の障害に対する理解の促進	複数選択可
			2 医療やリハビリテーションの充実	
			3 幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	
			4 働くための訓練・就労に向けた支援の充実	
			5 仕事を継続するための支援の充実	
			6 身近な地域で相談できる場の充実	
			7 訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実	
			8 日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等)の充実	
			9 就労訓練系サービス(就労移行支援・就労継続支援等)の充実	
			10 短期入所(ショートステイ)の整備	
			11 意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実	
			12 福祉機器・補装具などの充実	
			13 グループホームの整備	
			14 入所施設の整備	
			15 居住支援の充実	
			16 建物・道路等のバリアフリー化	
			17 当事者同士で支援し合える仕組みづくり	
			18 趣味やスポーツ活動の充実	
			19 財産管理や見守り等の支援	
			20 経済的支援の充実	
			21 災害時支援の充実	
			22 地域交流の場の充実	
			23 福祉・保健・医療との連携の充実	
			24 その他()	
			25 特にない	
4 福祉サービスについて	23	今後利用したい・利用しているサービスについて	サービス利用状況・利用意向の把握	A 現在利用している(利用していれば○) B 利用満足度(満足～不満まで5段階) C B欄で「やや不満」、「不満」を選択した方について、下記1～9から理由を選択 D 今は利用していないが今後利用したい 〔C欄〕理由 1 利用できる回数や日数等が少ない 2 利用料が高い 3 サービス提供事業所が少ない 4 利用日時が合わない 5 サービス内容(質)に不安を感じる 6 サービス提供事業所の対応が良くない 7 事業所と家族の連携が取れていない 8 医療的ケアの対応が十分でない 9 その他()
	23-①	(1)児童福祉法に基づくサービス 児童発達支援、放課後等デイサービスなど		
	23-②	(2)その他の児童のための支援 短期保護、医療的ケア児在宅レスパイト事業など		
	23-③	(3)障害福祉サービス(訪問系) 居宅介護、行動援護、同行援護など		
	23-④	(4)地域生活支援事業 移動支援、日常生活用具、日中短期入所など		
	23-⑤	(5)日常生活のサービス 福祉タクシー、理美容サービス、巡回入浴など		
	23-⑥	(6)障害福祉サービス(主に18歳以上が利用するサービス) 重度訪問介護、生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、共同生活援助、施設入所		
	23-⑦	(7)相談支援 地域相談支援、計画相談支援		
	23-⑧	(8)昼間の活動を支援するサービス 地域活動支援センター		
	23-⑨	(9)就労に関する支援 障害者就労支援事業など		
	23-⑩	(10)その他 障害者(児)歯科診療、在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業、成年後見制度支援事業など		
24	(問23で「A 現在利用している」を選択した方へ)サービス提供事業者に望むこと	サービス上の課題	1 サービス利用契約に関する十分な説明	
			2 希望する曜日・時間帯に確実に利用できること	
			3 サービス従事者(ホームヘルパー、施設職員など)の質の確保	
			4 満足できるサービスを提供できる体制の確保	
			5 その他()	
			6 特にない	
25	(問23で「A 現在利用している」を選択した方へ)どのように障害児支援利用計画を作成したか	障害児支援利用計画の実態把握	1 障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している	
			2 自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している	

	26	(障害児支援利用計画を作成した方に対して)作成して満足したこと	障害児支援利用計画作成上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた 2 希望どおりのサービス等利用計画ができた 3 障害児支援利用計画の内容が具体的に満足した 4 再び支援が必要となった場合には障害児支援利用計画を作成したい 5 障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた 6 障害児支援利用計画の内容が具体的に分かりやすかった 7 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった 8 その他() 9 特にない 	複数選択可
	27	(障害児支援利用計画を作成した方に対して)作成して満足できなかったこと	障害児支援利用計画作成上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった 2 希望どおりのサービス等利用計画ができなかった 3 障害児支援利用計画の内容が具体的に不満がある 4 再び支援が必要となった場合でも障害児支援利用計画は作成したくない 5 障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった 6 障害児支援利用計画の内容が具体的に分かりやすかった 7 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった 8 その他() 9 特にない 	複数選択可
	28	(問25で「2 セルフプラン」を選択した方へ)セルフプランとした理由	障害児支援利用計画作成上の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため 2 身近に障害児支援利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため 3 障害福祉サービスを早く利用したかったため 4 家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため 5 自分でセルフプランを作成することが可能だったため 6 その他() 	
	29	(障害児通所支援等を利用していない方へ)サービスを利用していない理由	サービス上の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1 サービスを利用する必要がないから 2 利用したいサービスがないから 3 家族が介助してくれるから 4 家族以外に介助してもらうことに不安があるから 5 施設・サービスが空くのを待っている 6 緊急時に利用したい 7 利用料が高い 8 障害児通所支援等のサービスへ参加することを希望しない 9 その他() 	
5 教育・保育について	30	主な通園・通学先	通園・通学先の把握	<ul style="list-style-type: none"> A 小学校入学前 1 保育園 2 子ども園 3 幼稚園 4 東京都立児童発達支援センター(教育センター) 5 区市町村立児童発達支援センター(教育センター) 6 通園・通所はしていない 7 その他() B 学校在学中 8 小学校の通常の学級 9 小学校の特別支援学級 10 特別支援学校の小学部 11 中学校の通常の学級 12 中学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む) 13 中学校の特別支援学級 14 特別支援学校の中学部 15 高等学校 16 特別支援学校の高等部 17 その他の学校() C 義務教育終了後、通学はしていない 具体的な何をしているか() 	
	31	(問30で「A 小学校入学前」を選択した方へ)通園生活等で困っていること	通園生活(未就学児)の課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 周囲の子どもの関係が心配 2 先生の指導の仕方が心配 3 本人の成長が心配 4 今後の進路について迷っている 5 子どもの将来に不安がある 6 保育や教育・療育に関する情報が少ない 7 療育・リハビリテーションの機会が少ない 8 費用など経済的な負担が大き 9 幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変 10 その他() 11 特に困っていることや心配していることはない 	複数選択可
	32	(問30で「A 小学校入学前」を選択した方へ)学校はどの教育機関を希望するか	通学先の要望把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 小学校の通常の学級 2 小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む) 3 小学校の特別支援学級 4 特別支援学校の小学部 5 わからない 	

33	(問30「B 学校在学中」を選択した方へ)通学生活等で困っていること	通学生活(就学児)の課題の把握	1 周囲の子どもとの関係が心配	複数選択可
			2 先生の指導の仕方が心配	
			3 本人の成長が心配	
			4 今後の進路について迷っている	
			5 子ども将来に不安がある	
6 保育や教育・療育に関する情報が少ない				
7 療育・リハビリテーションの機会が少ない				
8 費用など経済的な負担が大きい				
9 幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変				
10 その他()				
11 特に困っていることや心配していることはない				
34	(問30で「A 小学校入学前」または「B 学校在学中」を選択した方へ)放課後や長期休業中など、幼稚園・保育園・子ども園・学校等にいる以外の時間は、どのように過ごしているか	放課後・長期休業中等の過ごし方の把握	1 家族といる	複数選択可
			2 友人、知人といる	
			3 一人である	
			4 ヘルパーなどと外出する	
			5 育成室(学童保育)へ行く	
			6 こどもひろばへ行く	
			7 児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する	
			8 習い事や塾へ行く	
			9 その他()	
			10 特に何もしていない	
35	(問30で「A 小学校入学前」又は「B 学校在学中」を選択した方へ)放課後や長期休業中など、幼稚園・保育園・子ども園・学校等にいる以外の時間は、どのように過ごすことを希望するか	放課後・長期休業中等の過ごし方の把握	1 地域の同世代の子どもと遊ばせたい	複数選択可
			2 育成室(学童保育)を利用したい	
			3 こどもひろばを利用したい	
			4 習い事や塾に行かせたい	
			5 ショートステイを利用したい	
			6 児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい	
			7 その他()	
			8 特になし	
36	(小学校(小学部)又は中学校(中学部)に通っている方のご家族の方へ)中学校卒業後に希望する進路	中学卒業後の希望進路の把握	1 高等学校に通う	
			2 特別支援学校の高等部に通う	
			3 専門学校・専修学校に通う	
			4 障害者向けの日中活動に通う	
			5 仕事をする	
			6 その他()	
			7 わからない	
37	(問30で「15 高等学校」、「16 特別支援学校の高等部」、「C 義務教育終了後、通学はしていない」を選択した方へ)希望する進路 ※本人の希望と家族の希望をそれぞれ伺う	高校卒業後の希望進路の把握	○本人の希望	
			1 大学や短期大学へ通う	
			2 専門学校や専修学校へ通う	
			3 フリースクールやサポート校へ通う	
			4 地域の身近にある学びの場へ通う	
			5 職業訓練学校へ通う	
			6 企業等へ就職する(一般就労)	
			7 自分で仕事をする(自営業など)	
			8 就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う	
			9 自立訓練(生活訓練・機能訓練)事業所へ通う	
			10 生活介護事業所へ通う	
			11 その他()	
			12 わからない	
			○保護者の希望	
			1 大学や短期大学へ通う	
			2 専門学校や専修学校へ通う	
			3 フリースクールやサポート校へ通う	
			4 地域の身近にある学びの場へ通う	
			5 職業訓練学校へ通う	
			6 企業等へ就職する(一般就労)	
			7 自分で仕事をする(自営業など)	
			8 就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う	
			9 自立訓練(生活訓練・機能訓練)事業所へ通う	
			10 生活介護事業所へ通う	
11 その他()				
12 わからない				
38	休日の過ごし方	余暇活動の把握	1 趣味や学習活動	複数選択可
			2 スポーツ	
			3 ボランティア活動	
			4 友人・知人と会う	
			5 映画などの鑑賞	
			6 買い物に行く	
			7 飲食店に行く	
			8 読書	
			9 旅行	
			10 家でくつろぐ	
			11 地域の行事に参加する	
			12 近所の散歩	
			13 その他()	
			14 特に何もいない	

6 外出や住まいについて	39	外出頻度	外出頻度の把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 ほほ毎日 2 週に3~4回 3 週に1~2回 4 月に1~3回 5 あまり外出しない 	
	40	外出の際に困っていること	外出時の課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 歩道の段差や傾斜 2 建物の段差や階段 3 バスやタクシーの利用 4 駅構内の移動や乗り換え 5 券売機の利用 6 トイレの利用 7 歩道がせまい・障害物がある 8 疲れたときの休憩場所 9 自動車・自転車に危険を感じる 10 スマホのながら歩きに危険を感じる 11 外出するのに支援が必要である 12 外出したくても介助者がいない 13 周囲の人の理解や配慮がない 14 その他() 15 特にない 	複数選択可
	41	住まいで必要な支援	住居に関する課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 住宅改造費用の貸付・助成 2 家具転倒防止や耐震化など災害対策 3 公営住宅への優先入居の拡充 4 民間賃貸住宅の入居支援 5 グループホームなどの整備 6 住居探しのサポート体制の整備 7 その他() 8 特にない 	複数選択可
7 差別解消について	42	障害者の差別解消を進めていくために必要なこと	障害理解への要望把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備 2 障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信 3 障害者差別解消法に関するセミナー・研修等の実施 4 障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行 5 障害者作品展や障害者と交流するイベントの実施 6 地域や学校等で交流の機会を増やすこと 7 地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと 8 子供・生徒が自らの障害に関する教育を行う 9 障害についての講演会や疑似体験会の開催 10 障害者の一般就労の促進 11 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発 12 その他() 13 特にない 	複数選択可
	43	合理的配慮を進めるために必要なこと		<ul style="list-style-type: none"> 1 合理的配慮に関する講演・セミナーの開催 2 合理的配慮事例の周知・啓発 3 筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応 4 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発 5 障害当事者等を講師とした研修・講演 6 民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成 7 その他() 8 特にない 	複数選択可
8 災害対策について	44	災害発生時に困ること	災害への準備状況	<ul style="list-style-type: none"> 1 災害の情報をする方法がわからない 2 助けを求める方法がわからない 3 避難所の場所がわからない 4 近くに助けてくれる人がいない 5 一人では避難できない 6 避難所の設備が障害に対応しているか不安 7 避難所で必要な支援が受けられるか不安 8 避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい 9 薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安 10 医療機器の電源確保が心配 11 その他() 12 特にない 	複数選択可
	45	災害に対する備え	災害への準備状況	<ul style="list-style-type: none"> 1 口頭での家族で災害時の対応を話し合っている 2 非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている 3 疾病等で必要なく薬や医療機関の連絡先などを備えている 4 近所の人や知人等に、災害が発生したときのお断りをしている 5 文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している 6 家具に転倒防止器具を取り付ける 7 住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている 8 区民防災組織(町会・自治会)や消防団等に参加している 9 地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している 10 その他() 11 特にない 	複数選択可
9 自由意見	46	自由意見			

令和元年度障害者(児)実態・意向調査設問項目
【サービス事業所の方】

対象者:区内の指定障害福祉サービス事業所、障害児通所支援事業所等

カテゴリー	設問No.	調査項目	質問の意図	回答肢	備考
1 事業運営について	1	事業所の経営主体	経営主体の把握	1 社会福祉法人	
				2 医療法人	
				3 社団法人・財団法人	
				4 株式会社・有限会社	
				5 特定非営利活動法人(NPO法人)	
				6 協同組合	
7 合同会社・合資会社					
8 その他()					
2	事業所の開業年	開業年の把握	開業年の記入		
3	提供しているサービス	提供サービスの把握	1 居宅介護	複数選択可	
			2 重度訪問介護		
			3 行動援護		
			4 重度障害者等包括支援		
			5 同行援護		
			6 短期入所		
			7 生活介護		
			8 療養介護		
			9 自立訓練(機能訓練・生活訓練)		
			10 自立生活援助		
			11 就労移行支援		
			12 就労継続支援A型		
			13 就労継続支援B型		
			14 就労定着支援		
			15 共同生活援助(グループホーム)		
			16 施設入所支援		
			17 地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)		
			18 計画相談支援(サービス等利用計画・モニタリング)		
			19 地域活動支援センター		
			20 移動支援		
			21 日中一時支援		
			22 児童発達支援		
			23 医療型児童発達支援		
			24 居宅訪問型児童発達支援		
			25 放課後等デイサービス		
			26 保育所等訪問支援		
			27 障害児相談支援		
			28 その他()		
4	事業所の事業展開エリア	事業展開エリアの把握	1 文京区内の一部(地域)	複数選択可	
			2 文京区内全体		
			3 23区内(地域)		
			4 東京都内(地域)		
			5 首都圏(地域)		
			6 その他()		
5	障害別の利用者数	利用者数の把握	身体障害者		
			知的障害者		
			精神障害(発達障害を含まない)		
			発達障害者		
			難病者		
6	調査前年度収支と前々年度収支との比較	収支状況の把握	【収入】		
			1 増加した(約 %)		
			2 減少した(約 %)		
			3 変わらない		
			【支出】		
			1 増加した(約 %)		
2 減少した(約 %)					
3 変わらない					

	6-1	(6の回答を受けて)増減収の理由	収支状況の把握	【増収の理由】	複数選択可
				1 サービス報酬の改定	
				2 利用者が増加した	
				3 ヘルパー等の人件費を下げた	
				4 利用者の負担が軽減された	
				5 事務経費等必要経費を削減した	
				6 補助金が増額された	
				7 その他()	
				【減収の理由】	
				1 サービス報酬の改定	
				2 利用者が減少した	
				3 ヘルパー等の人件費を上げた	
				4 職員を増員した	
				5 事務経費等必要経費が増加した	
				6 補助金が減額された	
				7 その他()	
	7	事業所経営上で重視すること	経営上の課題の把握	1 職員の確保	複数選択可
				2 職員の待遇改善	
				3 職員の資質向上	
				4 事務作業量の軽減	
				5 施設・整備の改善	
				6 制度改正などへの対応	
				7 収益の確保	
				8 運転資金の調達	
				9 他の事業者との連携	
				10 行政との連携	
				11 地域住民等の理解	
				12 医療的ケアへの対応	
				13 その他()	
2 職員について	8	基準日現在の職員数	職員数の状況	総数[]人	
				(常勤 名	
				非常勤 名 その他 名)	
	9	基準日現在の職種別職員数	職員数の状況	1 生活支援員 []人	
				2 介護職員 []人	
				3 看護師 []人	
				4 栄養士 []人	
				5 理学療法士 []人	
				6 作業療法士 []人	
				7 職業指導員 []人	
				8 児童指導員 []人	
				9 保育士 []人	
				10 相談支援専門員 []人	
				11 事務職員 []人	
				12 その他 []人	
	10	基準日現在の経験年数別職員数	職員数の状況	1 6か月未満 []人	
				2 6か月以上1年未満 []人	
				3 1年以上3年未満 []人	
				4 3年以上5年未満 []人	
				5 5年以上10年未満 []人	
				6 10年以上 []人	
	11	職員の過不足の状況	職員数の状況	1 大変不足している	
				2 不足している	
				3 やや不足している	
				4 適当である	
				5 過剰である	
	11-1	(11の回答を受けて)不足している職員の職種	職員の不足状況	1 生活支援員	複数選択可
				2 介護職員	
				3 看護師	
				4 栄養士	
				5 理学療法士	
				6 作業療法士	
				7 職業指導員	
				8 児童指導員	
				9 保育士	
				10 相談支援専門員	
				11 事務職員	
				12 その他()	

			13 不足していない	
12	調査前年度中の退職者数	職員の不足状況	()人 (内訳:常勤 人 非常勤 人 その他 人)	
13	人材確保のための取組み	人材確保対策の把握	1 勤務条件(夜勤回数、勤務時間など)の改善 2 報酬の改善 3 福利厚生(育休、介護休暇)の改善 4 健康診断、健康管理の充実 5 募集・採用方法の充実 6 高校・専門学校・大学等を通じた募集 7 ハローワークを通じた募集 8 インターネット人材募集サービスを通じた募集 9 高校・専門学校・大学等からの実習受け入れ 10 知人経由・人づてで探した 11 その他() 12 特に行っていない	複数選択可
14	人材育成のための取組み	人材育成策の把握	1 資格取得のための休暇取得の支援や金銭的な支援 2 外部研修参加のための休暇取得や金銭的な支援 3 事業所内での研修の実施 4 OJTの実施 5 自立支援協議会の専門部会等への参加 6 教育・研修計画を立てる 7 能力の向上が認められた者に対する報奨制度 8 職員に後輩の育成経験を持たせる 9 法人全体で連携して育成に取り組んでいる 10 他の事業者と協力して育成に取り組んでいる 11 その他() 12 特に取り組んでいない	複数選択可
15	人材の確保や質の向上に向けた連携先	人材確保上の課題を把握	1 介護・医療・福祉分野の事業者団体 2 東京都福祉人材センター 3 ハローワーク 4 社会福祉協議会 5 学校・教育機関あるいはその団体 6 商工団体(商工会・商工会議所等) 7 東京労働局 8 文京区役所 9 その他()	複数選択可
3 サービス提供について	16	サービス提供上の課題	サービス提供上の課題を把握 1 量的に、利用者の希望どおり提供できていない 2 質的に、利用者の希望どおり提供できていない 3 利用者や家族とのコミュニケーションが難しい 4 困難事例への対応が難しい 5 休日や夜間の対応が難しい 6 変更やキャンセルが多い 7 苦情やトラブルが多い 8 その他()	複数選択可
	17	サービス利用について利用者や家族から受ける苦情・要望内容	苦情・要望内容の把握 1 支援内容や個別支援計画に関すること 2 職員やスタッフに関すること 3 施設の整備に関すること 4 利用者と施設の利用契約に関すること 5 生活時間(起床・就寝、食事、入浴等の時間)に関すること 6 食事(メニューや食材等)に関すること 7 施設での作業内容に関すること 8 地域で自立生活に向けた訓練等に関すること 9 体力づくりや健康づくりなどに関すること 10 趣味・レクリエーション等に関すること 11 その他() 12 特に苦情や要望はない	複数選択可
	18	何か問題が生じた場合の相談先	相談先の把握 1 文京区 2 東京都 3 国 4 相談支援事業所 5 障害者基幹相談支援センター 6 高齢者あんしん相談センター 7 社会福祉協議会 8 医療機関 9 保育園・幼稚園・学校等 10 法人本部 11 他のサービス事業所 12 その他() 13 どこにも相談したことがない	複数選択可

18-1	(18の回答を受けて)相談した内容	相談内容の把握	1 施設の運営・整備の支援に関すること	複数選択可
			2 人材の確保・質の向上に関すること	
			3 サービスの拡充・場所の確保に関すること	
			4 サービス提供上の技術的な支援に関すること	
			5 家庭環境に関すること	
			6 8050問題に関すること	
			7 医療的ケアに関すること	
			8 緊急時対応に関すること	
			9 苦情や要望等への対応に関すること	
			10 その他()	
			11 特になし	
19	支援に関して困難を感じること	支援上の課題を把握	1 特定の時間帯に集中する利用への対応	複数選択可
			2 障害の多様化への対応	
			3 制度の複雑化への対応	
			4 医療的ケアへの対応	
			5 利用者のニーズへの対応	
			6 区や他事業所等の関係機関との連携対応	
			7 近隣住民の理解	
			8 地域の社会資源の不足	
			9 その他()	
			10 特になし	
20	サービス向上のために取り組んでいること	サービス向上に向けた取組を把握	1 職員が自発的に問題事例等に関するケース検討会を実施している	複数選択可
			2 管理者がサービス提供状況を確認し指導している	
			3 個人情報に関するマニュアルを作成している	
			4 積極的に外部評価を受けている(ISO,第三者評価等)	
			5 看護職の配置や介護職員の「喀痰吸引研修」受講により医療的ケアに対応している	
			6 サービス提供ガイドラインを作成している	
			7 災害時対応マニュアルを作成している	
			8 感染症予防マニュアルを作成している	
			9 事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている	
			10 利用者や家族に対して満足度調査を行っている	
			11 苦情解決の対応マニュアルを作成している	
			12 権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている	
			13 職員のメンタルヘルスや介護技術等の研修受講している	
			14 その他()	
			15 特になし	
21	区ではどのようなサービスや支援に力を入れるべきか	必要なサービス・支援の把握	1 在宅での福祉サービスの充実	複数選択可
			2 障害者が入所して生活する場の充実	
			3 障害者が地域で共同生活できる場の充実	
			4 日中一時的な支援を受けられる場の充実	
			5 宿泊して一時的な支援を受けられる場の充実	
			6 住宅改造等(バリアフリー化)の補助	
			7 住まいに関する相談や入居支援の充実	
			8 シェアハウスなど多様な居住の場の提供	
			9 福祉サービスの情報提供の充実	
			10 財産管理などの権利擁護の充実	
			11 総合的な相談支援の充実	
			12 区民への障害への理解促進	
			13 周囲の人の見守り支援の充実	
			14 移動・外出支援の充実	
			15 駅や道路などのバリアフリー化	
			16 自立生活のための訓練・支援の充実	
			17 就労に向けた訓練・支援の充実	
			18 多様に働ける場所の確保	
			19 仕事を継続するための相談や支援の充実	
			20 医療やリハビリテーションの充実	
			21 福祉に携わる人材の育成・確保	
			22 多分野・多機関・多職種による連携の充実	
			23 障害者の仲間づくりへの支援	
			24 防犯・災害時の支援	
			25 その他()	
			26 特になし	

22	今後参入を考えている障害福祉サービス等	参入希望サービスの把握	1 居宅介護 2 重度訪問介護 3 行動援護 4 重度障害者等包括支援 5 同行援護 6 短期入所 7 生活介護 8 療養介護 9 自立訓練(機能訓練・生活訓練) 10 自立生活援助 11 就労移行支援 12 就労継続支援A型 13 就労継続支援B型 14 就労定着支援 15 共同生活援助(グループホーム) 16 施設入所支援 17 地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援) 18 計画相談支援(サービス等利用計画・モニタリング) 19 地域活動支援センター 20 移動支援 21 日中一時支援 22 児童発達支援 23 医療型児童発達支援 24 居宅訪問型児童発達支援 25 放課後等デイサービス 26 保育所等訪問支援 27 障害児相談支援 28 その他()	複数選択可
23	事業の新規開設・拡大する上で重視すること	新規事業開設に係るポイントの把握	1 利用者数の今後の見込み 2 地域における競合事業者の存在 3 職員確保の可能性 4 適当な土地を確保することができること 5 適当な建物・物件を確保することができること 6 当該サービスの自立支援給付費の見込み 7 その他() 8 新規開設・拡大は考えたことがない	複数選択可
24	障害福祉サービスへの新規参入を進めていくために必要なこと	新規参入に係る課題の把握	1 障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供 2 サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供 3 サービス展開のための土地・建物に関する情報提供 4 困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言 5 研修・講座等に関する情報提供 6 緊急時のショートステイや入院などの受入先の情報提供 7 その他()	複数選択可
25	地域生活支援拠点の整備に向けて必要なこと	地域生活支援拠点の整備に向けた課題の把握	1 地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知 2 障害者等の相談に対応する場の充実 3 コーディネーター等の配置による地域の社会資源との連携の充実 4 緊急受入れの場としての短期入所等の充実 5 体験の場としてのグループホーム体験入所等の充実 6 行動障害の方や医療的ケアが必要な方等に対応した専門的人材の確保 7 障害者の地域生活移行時等における住居探しのサポート体制の充実 8 その他()	複数選択可
26	今後の障害福祉施策で期待すること	障害福祉施策の課題の把握	1 地域住民の理解や協力 2 地域の相談支援体制の充実 3 地域の生活基盤の充実のための方策 4 一般就労の促進のための方策 5 福祉的就労における工賃向上 6 福祉人材の確保のための方策 7 事務手続の簡素化 8 利用者負担の軽減 9 その他() 10 特になし	複数選択可

4 虐待防止について	27	虐待防止への取組みについて	虐待防止策の把握	1 虐待防止責任者の設置	複数選択可
				2 虐待防止委員会の設置	
				3 虐待防止に係る外部研修への参加	
				4 事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催	
				5 虐待防止マニュアルの作成	
				6 虐待防止連絡体制の整備	
				7 職員のメンタルヘルスのための研修を実施	
				8 職員にストレスチェックを実施	
				9 その他()	
				10 特に取り組んでいない	
5 災害時の対策について	28	災害発生時の対策	災害対策の把握	1 災害発生時対応マニュアルの作成	複数選択可
				2 定期的に避難訓練を実施	
				3 備蓄品の整備	
				4 建物の耐震化	
				5 ロッカー、棚等の転倒防止措置	
				6 緊急連絡網の作成	
				7 避難経路の確保	
				8 避難行動計画の策定	
				9 その他()	
				10 特に取り組んでいない	
6 感染症対策について	29	感染症予防等への取組	感染症対策の把握	1 感染症マニュアルの作成	複数選択可
				2 職員に対する感染症対策に関する研修等の開催	
				3 感染を予防するための備品(使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等)を常備	
				4 手洗い、うがいの励行	
				5 職員・関係機関等への連絡体制の整備	
				6 その他()	
				7 特に取り組んでいない	
7 差別解消について	30	障害者の差別解消を進めていくために必要なこと	障害理解への要望把握	1 障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	複数選択可
				2 障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信	
				3 障害者差別解消法に係るセミナー・研修等の実施	
				4 障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	
				5 障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	
				6 地域や学校等で交流の機会を増やすこと	
				7 地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと	
				8 学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	
				9 障害についての講演会や疑似体験会の開催	
				10 障害者の一般就労の促進	
				11 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	
				12 その他()	
				13 特になし	
8 自由意見	32	意見・要望		1 区民や民間事業者に対して障害者差別解消法に関する周知・啓発	
				2 障害者差別解消法に係るセミナーの開催	
				3 障害当事者を講師とした区民・民間事業者向けの研修	
				4 筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション手段の設置	
				5 意思疎通のために絵や写真カード、ICT機器(タブレット端末等)等の活用	
				6 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	
				7 特になし	
				8 その他()	

くみん せいかつ かん ちょうさ
区民の生活のニーズに関する調査 (一部抜粋)

問9 障害や心身の不調に気づいたとき、誰に相談しましたか。
 (あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 家族 | 9 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口 |
| 2 友人 | 10 保健サービスセンター(保健師) |
| 3 学校の教職員 | 11 障害者基幹相談支援センター |
| 4 保育園・こども園・幼稚園の
教職員 | 12 子ども家庭支援センター |
| 5 民生委員・児童委員 | 13 教育委員会・教育センター |
| 6 障害等の当事者会や家族の会 | 14 児童相談センター(児童相談所) |
| 7 医療関係者(医師・看護師・
医療相談員) | 15 インターネット等の情報 |
| 8 障害福祉課・予防対策課の窓口 | 16 その他() |
| | 17 相談しなかった |

問17 主な介助者があなたを介助・支援できなくなった場合はどうしますか。
 (○は3つまで)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 一緒に住んでいる家族に頼む | 6 高齢者施設(老人ホーム等)に入所する |
| 2 別に住んでいる家族に頼む | 7 病院に入院する |
| 3 居宅介護(ホームヘルプ)を利用する | 8 グループホームに入居する |
| 4 短期入所(ショートステイ)を利用する | 9 成年後見人を立てる |
| 5 障害者施設(障害者支援施設等)
に入所する | 10 その他() |
| | 11 まだわからない |

3 相談や福祉の情報について

とい 問18 あなたには、日常生活で困っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 健康状態に不安がある | 13 困ったとき相談する相手がいない |
| 2 着替えや食事などが十分できない | 14 役所などの手続きが難しい |
| 3 家事などが十分できない | 15 近くに、病気や障害を理解した上で |
| 4 介助者の負担が大きい | 診てもらえる診療所がない |
| 5 介助者が高齢化している | 16 経済的に不安がある |
| 6 外出に支障がある | 17 将来に不安を感じている |
| 7 住まいに支障がある | 18 日中することがない |
| 8 就労について困っている | 19 様々な人と知り合ったり、交流する |
| 9 緊急時の対応に不安がある | 機会が少ない |
| 10 災害時の避難に不安がある | 20 その他 () |
| 11 人間関係に支障がある | 21 特にない |
| 12 障害や病気に対する周囲の理解がない | |

とい 問19 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1 家族や親族 | 12 地域包括ケア歯科相談窓口※2 |
| 2 近所の人 | 13 障害福祉課・予防対策課 |
| 3 友人・知人 | 14 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口 |
| 4 ピアサポーター | 15 保健サービスセンター |
| 5 民生委員・児童委員 | 16 障害者基幹相談支援センター |
| 6 障害等の当事者会や家族の会 | 17 福祉事務所のケースワーカー |
| 7 身体障害者相談員・知的障害者相談員 | 18 障害者就労支援センター |
| 8 ヘルパー等福祉従事者 | 19 社会福祉協議会 |
| 9 利用している施設の職員・ | 20 高齢者あんしん相談センター |
| グループホームの世話人 | 21 その他 () |
| 10 相談支援事業所等の相談支援専門員 | 22 相談する相手がいない |
| 11 医療関係者(医師・歯科医師・
看護師・医療相談員) | |

とい こんご せいかつ きぼう
 問21 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(〇はひとつ)

- | | |
|--|---|
| 1 ちいき どくりつ せいかつ
地域で独立して生活する | 5 くがい よ にゅうしょせつ
区外でも良いので入所施設 |
| 2 おや しんぞく いっしょ せいかつ
親や親族と一緒に生活する | 6 しょうがいしゃしえんせつとう にゅうしょ
(障害者支援施設等)に入所する |
| 3 グループホーム等の共同生活住居
にうきよ
に入居する | 7 わからない |
| 4 くない にゅうしょせつ
区内の入所施設に
しょうがいしゃしえんせつとう にゅうしょ
(障害者支援施設等)に入所する | |

6 す 住まいについて

とい す かん こま
 問36 あなたは、住まいに関してどのようなことで困っていますか。
 (あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 1 たてもの もんだい
建物のバリアフリーに問題 | 6 まわ そうだん ひと
周りに相談できる人がいない |
| 2 たてもの ろうきゅうか
建物の老朽化 | 7 にゅうきよ ことわ
入居を断られたことがある |
| 3 やちん じゅうたくひ ふたん
家賃など住宅費の負担 | 8 その他 () |
| 4 きんりんじゅうみん にんげんかんけい
近隣住民との人間関係 | 9 とく
特にない |
| 5 てんきよ むすか
転居したいがサポートがないと難しい | |

とい す かん しえん ひつよう
 問37 あなたは、住まいに関してどのような支援を必要としていますか。
 (あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1 じゅうたくかいそうひよう かしつけ じよせい
住宅改造費用の貸付・助成 | 5 グループホームなどの整備 |
| 2 かくてんとうぼうし たいしんか さいがいたいさく
家具転倒防止や耐震化など災害対策 | 6 じゅうきよさが たいせい せいび
住居探しのサポート体制の整備 |
| 3 こうえいじゅうたく ゆうせんにゅうきよ かくじゅう
公営住宅への優先入居の拡充 | 7 その他 () |
| 4 みんかんちんたいじゅうたく にゅうきよしえん
民間賃貸住宅の入居支援 | 8 とく
特にない |

区民の生活のニーズに関する調査 (一部抜粋)

この調査票で、「あなた」とあるのは、『あて名ご本人』のことです。

できるかぎりあて名ご本人がお答えください。あて名ご本人が回答できない場合は、ご家族や施設の職員の方が、あて名ご本人の立場で、現在の状況で回答してください。

問 1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(〇はひとつ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1 あて名ご本人 | 3 施設の職員 |
| 2 ご家族の方 | 4 その他 () |

5 今後の暮らし方について

問 20 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(〇はひとつ)

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 現在の施設で生活したい | } →1に〇を付けた方は問20-1へ |
| 2 施設を退所して、家族や親族と生活したい | |
| 3 施設を退所して、独立して生活したい | |
| 4 施設を退所して、グループホームなどで生活したい | |
| 5 別の施設で暮らしたい | } →2~4に〇を付けた方は
問20-2~問20-4へ |
| 6 わからない | |

とい げんざい しせつ せいかつ つづ りゆう なん
 問20-1 現在の施設での生活を続けたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 入所者や施設職員との関係が良好なため | 7 健康面などで不安がある |
| 2 環境や日中活動の内容等に満足している | 8 経済的に難しい |
| 3 今の施設で技術や能力を身につけたい | 9 家族の受け入れ体制が整っていない |
| 4 すぐに入所できるグループホームなどが無い | 10 地域で友人関係が持てるか不安がある |
| 5 在宅サービスが充実していない | 11 その他() |
| 6 自宅の構造が障害に対応していない | 12 特に理由はない |

とい しせつ たいしょ かいとう かた き
 ここからは問20で「施設を退所したい(2~4)」と回答された方にお聞きします。

とい ちいき く かた おも
 問20-2 地域でどのような暮らし方をしたいと思いますか。(○はひとつ)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 企業などで一般就労したい | 4 就労や通所はしないで暮らしたい |
| 2 作業所などで福祉的就労をしたい | 5 わからない |
| 3 福祉的就労以外の通所施設に通いたい | |

とい たいしょご ちいき く おも
 問20-3 退所後はどの地域で暮らしたいと思いますか。(○はひとつ)

- | | |
|-----------------|----------|
| 1 文京区内 | 3 その他の地域 |
| 2 現在入所している施設の近く | 4 どこでも良い |

とい たいしょご く ちいき なん
 問20-4 退所後に暮らす地域にのぞむことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 医療機関が多くある | 7 現在の施設から支援を受けられる |
| 2 昼間に通所する施設がある | 8 家族などが住んでいる |
| 3 住環境が良い | 9 在宅福祉サービスが充実している |
| 4 交通の便が良い | 10 その他() |
| 5 長年住みなれた地域である | 11 特にない |
| 6 気軽に相談できる相談機関がある | |

すべ かた き
ここからは全ての方にお聞きします。

とい しょうがいしゃ ちいき あんしん く しさく
問21 障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が
じゅうよう おも
重要だと思えますか。(〇は5つまで)

- 1 しょうがい たい りかい そくしん
障害に対する理解の促進
- 2 いりょう じゅうじつ
医療やリハビリテーションの充実
- 3 ようしょうき がくれいき きょういく いくせい じゅうじつ
幼少期・学齢期からの教育・育成の充実
- 4 はたら くねん しゅうろう む しえん じゅうじつ
働くための訓練・就労に向けた支援の充実
- 5 しごと けいぞく しえん じゅうじつ
仕事を継続するための支援の充実
- 6 みちか ちいき そうだん ば じゅうじつ
身近な地域で相談できる場の充実
- 7 ほうもんけい きょたくかいご じゅうどほうもんかいご どうこうえんごとう じゅうじつ
訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
- 8 にっちゅうかつどうけい せいかつかいご じりつくねんどう じゅうじつ
日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等)の充実
- 9 しゅうろうくねんけい しゅうろういこうしえん しゅうろうけいぞくしえんどう じゅうじつ
就労訓練系サービス(就労移行支援・就労継続支援等)の充実
- 10 たんきにゅうしょ せいび
短期入所(ショートステイ)の整備
- 11 いしそつうしえん しゅわつうやくしゃ ようやくひつきしゃはけん じゅうじつ
意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実
- 12 ふくしきき ほそうぐ じゅうじつ
福祉機器・補装具などの充実
- 13 グループホームの整備
- 14 にゅうしょせつ せいび
入所施設の整備
- 15 しょうがいしゃむ す かくほ
障害者向けの住まいの確保
- 16 きょじゅうしえん じゅうじつ
居住支援の充実
- 17 たてもの どうろとう か
建物・道路等のバリアフリー化
- 18 どうじしゃどうし しえん しく
当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
- 19 しゅみ かつどう じゅうじつ
趣味やスポーツ活動の充実
- 20 ざいさんかんり みまも どう しえん
財産管理や見守り等の支援
- 21 けいざいてきしえん じゅうじつ
経済的支援の充実
- 22 さいがいじしえん じゅうじつ
災害時支援の充実
- 23 ちいきこうりゅう ば じゅうじつ
地域交流の場の充実
- 24 ふくし いりょう かいご れんけい じゅうじつ
福祉・医療・介護との連携の充実
- 25 その他 ()
- 26 とく
特にない

くみん せいかつ かん ちょうさ
区民の生活のニーズに関する調査 (一部抜粋)

ちょうさ
ここから調査がはじまります

ちょうさひょう な ほんにん こ
この調査票で、「あなた」とあるのは、『あて名ご本人(お子さん)』のことです。

あて名ご本人が回答できない場合は、ご家族や介助の方が、あて名ご本人の
 立場で、現在の状況で回答してください。

と
 問 1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(○はひとつ)

- 1 あて名ご本人 3 その他 ()
 2 ご家族の方

と
 問 9 保護者の方にお聞きします。そのとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 家族 | 9 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口 |
| 2 友人 | 10 保健サービスセンター(保健師) |
| 3 学校の教職員 | 11 障害者基幹相談支援センター |
| 4 保育園・こども園・幼稚園の
教職員 | 12 子ども家庭支援センター |
| 5 民生委員・児童委員 | 13 教育委員会・教育センター |
| 6 障害等の当事者会や家族の会 | 14 児童相談センター(児童相談所) |
| 7 医療関係者(医師・看護師・
医療相談員) | 15 インターネット等の情報 |
| 8 障害福祉課・予防対策課の窓口 | 16 その他 () |
| | 17 相談しなかった |

とい 問17 ほごしゃ かた き 保護者の方にお聞きします。どのような悩みや不安を抱えていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|--|
| 1 かいじょ ひと た 介助してくれる人が足りない | 11 すいみん ふそく 睡眠が不足している |
| 2 なに とき かいじょ たの ひと 何かあった時に介助を頼める人がいない | 12 せいしんてき ぶたん おお 精神的な負担が大きい |
| 3 ほか かぞく きょうりよく すく 他の家族の協力が少ない | 13 けいざいてき ぶたん おお 経済的な負担が大きい |
| 4 しごと りょうりつ むずか 仕事との両立が難しい | 14 しゅうい ひと しょくば りかい 周囲の人や職場などの理解がない |
| 5 ちょうきてき がいしゅつ 長期的な外出ができない | 15 きょうだい児の世話が十分にできない |
| 6 かいじょ しえん ほうほう 介助や支援の方法がわからない | 16 こ しょうがく しんろ ぶあん 子どもの就学や進路について不安がある |
| 7 じぶん じかん と じゆう 自分の時間が取れず、自由がない | 17 こ せいちょう へったつ ぶあん 子どもの成長や発達について不安がある |
| 8 しんたいてき ぶたん おお 身体的な負担が大きい | 18 その他 () |
| 9 けんこう ぶあん 健康について不安がある | 19 とく なやみ ぶあん 特に悩みや不安はない |
| 10 たいちょうふりょう びょういん い じかん 体調不良でも病院に行く時間がない | |

3 相談や福祉の情報について

とい 問18 あなたは、日常生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○) (ご家族や支援者が回答する場合でも、ご本人(お子さん)の思いをご回答ください)

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1 けんこうじょうたい ぶあん 健康状態に不安がある | 10 しょうがい びょうき たい まわ 障害や病気に対する周りの理解がない |
| 2 しょうがい み まわ 障害のため、身の回りのことが十分できない | 11 こま そうだん あいて 困ったとき相談する相手がいない |
| 3 かいじょしゃ ぶたん 介助者に負担をかけている | 12 びょうき しょうがい りかい うえ み 病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない |
| 4 がいしゅつ たいへん 外出が大変である | 13 せいかつ かね ぶあん 生活にお金がかかることに不安がある |
| 5 す ぶべん かん 住まいに不便を感じている | 14 しょうらい ぶあん かん 将来に不安を感じている |
| 6 さいがいじ ひなん ぶあん 災害時の避難に不安がある | 15 その他 () |
| 7 きんきゅうじ たいおう ぶあん 緊急時の対応に不安がある | 16 とく 特にない |
| 8 がっこう せんせい 学校などの先生とうまくいかない | |
| 9 とも かんけい 友だちとの関係がうまくいかない | |

とい かぞく かた こま そうだん あいて だれ
 問19 あなたやご家族の方が困ったときに相談する相手は誰ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|--|
| 1 かぞく しんぞく
家族や親族 | 13 ちいきほうかつ し か そうだんまどぐち
地域包括ケア歯科相談窓口※2 |
| 2 きんじょ ひと
近所の人 | 14 しょうがいふくしか よぼうたいさくか
障害福祉課・予防対策課 |
| 3 ゆうじん ちじん
友人・知人 | 15 しょうがいふくしか よぼうたいさくかいがい
障害福祉課・予防対策課以外の
く まどぐち
区の窓口 |
| 4 ピアサポーター | 16 ほけん
保健サービスセンター |
| 5 がっこう きょうしよくいん
学校の教職員 | 17 しょうがいしゅきかんそうだんしえん
障害者基幹相談支援センター |
| 6 ほいくえん えん ようちえん きょうしよくいん
保育園・こども園・幼稚園の教職員 | 18 こ かていしえん
子ども家庭支援センター |
| 7 みんせいいいいん じどういいいん
民生委員・児童委員 | 19 きょういくいいいんかがい きょういく
教育委員会・教育センター |
| 8 しょうがいてう とうじしゅかがい かぞく かい
障害等の当事者会や家族の会 | 20 じどうそうだん じどうそうだんじょ
児童相談センター(児童相談所) |
| 9 しんたいしょうがいしゅさうだんいん ちてきしょうがいしゅさうだんいん
身体障害者相談員・知的障害者相談員 | 21 ぶんきょうくしゅかがいふくしきょうぎかい
文京区社会福祉協議会 |
| 10 とうふくしじゅうじしゅ
ヘルパー等福祉従事者 | 22 た
その他() |
| 11 そうだんしえんじぎょうしよとう そうだんしえんせんもんいん
相談支援事業所等の相談支援専門員 | 23 そうだん あいて
相談する相手がいない |
| 12 いりょうかんけいしゅ いし しか いし
医療関係者(医師・歯科医師・
かんごし いりょうそうだんいん
看護師・医療相談員) | |

ちいきほうかつ し か そうだんまどぐち
 ※2 地域包括ケア歯科相談窓口
 こうくう し か い しょうかい ほうもん し か い うけつけ た いりょうそうだん こいしかわ し か
 口腔ケア、かかりつけ歯科医紹介、訪問歯科医受付、その他医療相談などについて、小石川歯科
 いし しか い ぶんきょうくし か いし しか い うけつ ちいき し か い しょうかいなど おこな
 医師会・文京区歯科医師会で受け、地域の歯科医の紹介等を行います。

とい ふくし かん じょうほう おも え
 問20 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
 (あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1 く こうほうし くほうとう
区の広報紙(区報等) | 9 しょうがいてう とうじしゅかがい かぞく かい
障害等の当事者会や家族の会 |
| 2 く
区のホームページ | 10 いりょうきかん
医療機関 |
| 3 ふみ みやこ しょうがいしゅふくし
文の京・障害者福祉のてびき | 11 がっこう きょうしよくいん
学校の教職員 |
| 4 く まどぐち
区の窓口 | 12 ほいくえん えん ようちえん きょうしよくいん
保育園・こども園・幼稚園の教職員 |
| 5 ほけん
保健サービスセンター | 13 じどうはつたつしえん りょういくきかん
児童発達支援などの療育機関 |
| 6 テレビ・ラジオ | 14 た
その他() |
| 7 インターネット | 15 とく
特にない |
| 8 しんぶん しよせき
新聞・書籍 | |

とい
 問21 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(○はひとつ)

- | | | | |
|---|-----------------------------------|---|--|
| 1 | ちいき どりつ せいかつ
地域で独立して生活する | 4 | にゅうしょせつ しょうがいしゅしえんせつとう せいかつ
入所施設(障害者支援施設等)で生活する |
| 2 | おや しんぞく いっしょ せいかつ
親や親族と一緒に生活する | 5 | た
その他() |
| 3 | せいかつ
グループホームで生活する | 6 | わからない |

問22 あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要
だと思えますか。(〇は5つまで)

- 1 周囲の人の障害に対する理解の促進
- 2 医療やリハビリテーションの充実
- 3 幼少期・学齢期からの教育・育成の充実
- 4 働くための訓練・就労に向けた支援の充実
- 5 仕事を継続するための支援の充実
- 6 身近な地域で相談できる場の充実
- 7 訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
- 8 日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等)の充実
- 9 就労訓練系サービス(就労移行支援・就労継続支援等)の充実
- 10 短期入所(ショートステイ)の整備
- 11 意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実
- 12 福祉機器・補装具などの充実
- 13 グループホームの整備
- 14 入所施設の整備
- 15 居住支援の充実
- 16 建物・道路等のバリアフリー化
- 17 当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
- 18 趣味やスポーツ活動の充実
- 19 財産管理や見守り等の支援
- 20 経済的支援の充実
- 21 災害時支援の充実
- 22 地域交流の場の充実
- 23 福祉・医療・介護との連携の充実
- 24 その他()
- 25 特にない

4 福祉サービスについて

問23 障害児通所支援等の利用状況と満足度についてお聞きします。

- A. 現在利用しているサービスに○をつけてください。
- B. 現在利用しているサービスに満足していますか。(○はひとつ)
- C. サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。(○はいくつでも)
- D. 現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

※ 各サービスの説明について、この調査票の巻末資料(34 ページ以降)【障害児通所支援等の内容】ををご参照ください。

サービス名	A	B					C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	Bで「やや不満」、 「不満」を選んだ理由 (下にある欄の 選択肢からあてはまる ものすべてをお選びく ださい)	今後利用したい
記入例) 1. 障害児相談支援(障害児支援利用 援助・継続障害児支援利用援助)	○	1	2	3	4	5	1, 4	
(5)相談支援								
1. 障害児相談支援(障害児支援利用 援助・継続障害児支援利用援助)		1	2	3	4	5		
2. 地域相談支援(地域移行支援・ 地域定着支援)		1	2	3	4	5		
3. 計画相談支援(サービス利用 支援・継続サービス利用支援)		1	2	3	4	5		

※ 『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 利用できる回数や日数等が少ない | 6 サービス提供事業所の対応が良くない |
| 2 利用料が高い | 7 事業所と家族の連携が取れていない |
| 3 サービス提供事業所が少ない | 8 医療的ケアの対応が十分でない |
| 4 利用日時が合わない | 9 その他() |
| 5 サービス内容(質)に不安を感じる | |

とい しょうがいじしえんりようけいかく さくせい
問25 どのように障害児支援利用計画を作成しましたか。(〇はひとつ)

- 1 しょうがいじそうだんしえんじぎょうしょ そうだんしえんせんもんいん しょうがいじしえんりようけいかく さくせい いらい
障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している
- 2 じぶん かぞく しえんしゃ さくせい
自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している

とい さくせい かた き
ここからは問25で「2 セルフプランを作成している」に〇をつけた方にお聞きします。

とい りゆう
問28 セルフプランとした理由はなんですか。(あてはまるものすべてに〇)

- 1 そうだんしえんじぎょうしょ しょうがいじしえんりようけいかく さくせい いらい てま
相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため
- 2 みちか しょうがいじしえんりようけいかく さくせい そうだんしえんじぎょうしょ み
身近に障害児支援利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため
- 3 しょうがいじつうしよしえんとう はや りよう
障害児通所支援等サービスを早く利用したかったため
- 4 かぞくとう きょうりよく え さくせい かのう
家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため
- 5 じぶん さくせい かのう
自分でセルフプランを作成することが可能だったため
- 6 その他 ()

とい がっこうざいがくちゅう なか かた かぞく かた き
ここからは問30で「B 学校在学中(8～17)」の中から〇をつけた方の家族の方にお聞きします。

とい つうがくせいかつとう こま しんぱい
問33 通学生活等で困っていることや心配していることはありますか。
(あてはまるものすべてに〇)

- 1 しゅうい こ かんけい しんぱい
周囲の子どもとの関係が心配
- 2 せんせい しどう しかた しんぱい
先生の指導の仕方が心配
- 3 ほんにん せいちょう しんぱい
本人の成長が心配
- 4 こんご しんろ まよ
今後の進路について迷っている
- 5 こ しょうらい ふあん
子どもの将来に不安がある
- 6 ほいく きょういく りょういく かん じょうほう すく
保育や教育・療育に関する情報が少ない
- 7 りょういく きかい すく
療育・リハビリテーションの機会が少ない
- 8 ひよう けいざいてき ふたん おお
費用など経済的な負担が大きい
- 9 がっこう ほうかごとう じぎょうしょ あいだ そうけい たいへん
学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変
- 10 その他 ()
- 11 とく こま しんぱい
特に困っていることや心配していることはない

くみん せいかつ かん ちょうさ
区民の生活のニーズに関する調査 (一部抜粋)

問 18 貴事業所で何か問題が生じたときの相談先はどこですか。
 (あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 文京区 | 8 医療機関 |
| 2 東京都 | 9 保育園・幼稚園・学校等 |
| 3 国 | 10 法人本部 |
| 4 相談支援事業所 | 11 他のサービス事業所 |
| 5 障害者基幹相談支援センター | 12 その他 () |
| 6 高齢者あんしん相談センター | 13 どこにも相談したことがない |
| 7 社会福祉協議会 | |

ここからは問 18 で「どこかに相談した(1～12)」と回答された方にお聞きします。

問 18-1 相談した内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

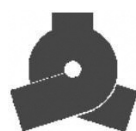
- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 施設の運営・整備の支援に関する事 | 7 医療的ケアに関する事 |
| 2 人材の確保・質の向上に関する事 | 8 緊急時対応に関する事 |
| 3 サービスの拡充・場所の確保に関する事 | 9 苦情や要望等への対応に関する事 |
| 4 サービス提供上の技術的な支援に関する事 | 10 その他 () |
| 5 家庭環境に関する事 | 11 特になし |
| 6 8050 問題に関する事 | |

問 26 今後の障害福祉施策の充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 地域住民の理解や協力 | 6 福祉人材の確保のための方策 |
| 2 地域の相談支援体制の充実 | 7 事務手続の簡素化 |
| 3 地域の生活基盤の充実のための方策 | 8 利用者負担の軽減 |
| 4 一般就労の促進のための方策 | 9 その他 () |
| 5 福祉的就労における工賃向上 | 10 特になし |

文 京 区
障 害 者 (児) 実 態 ・ 意 向
調 査 報 告 書
(一部抜粋)

- | | |
|--------------|--------|
| 1. 在宅の方 | P2～8 |
| 2. 施設入所の方 | P9～14 |
| 3. 18歳未満の方 | P15～31 |
| 4. サービス事業所の方 | P32～34 |



令和2年3月

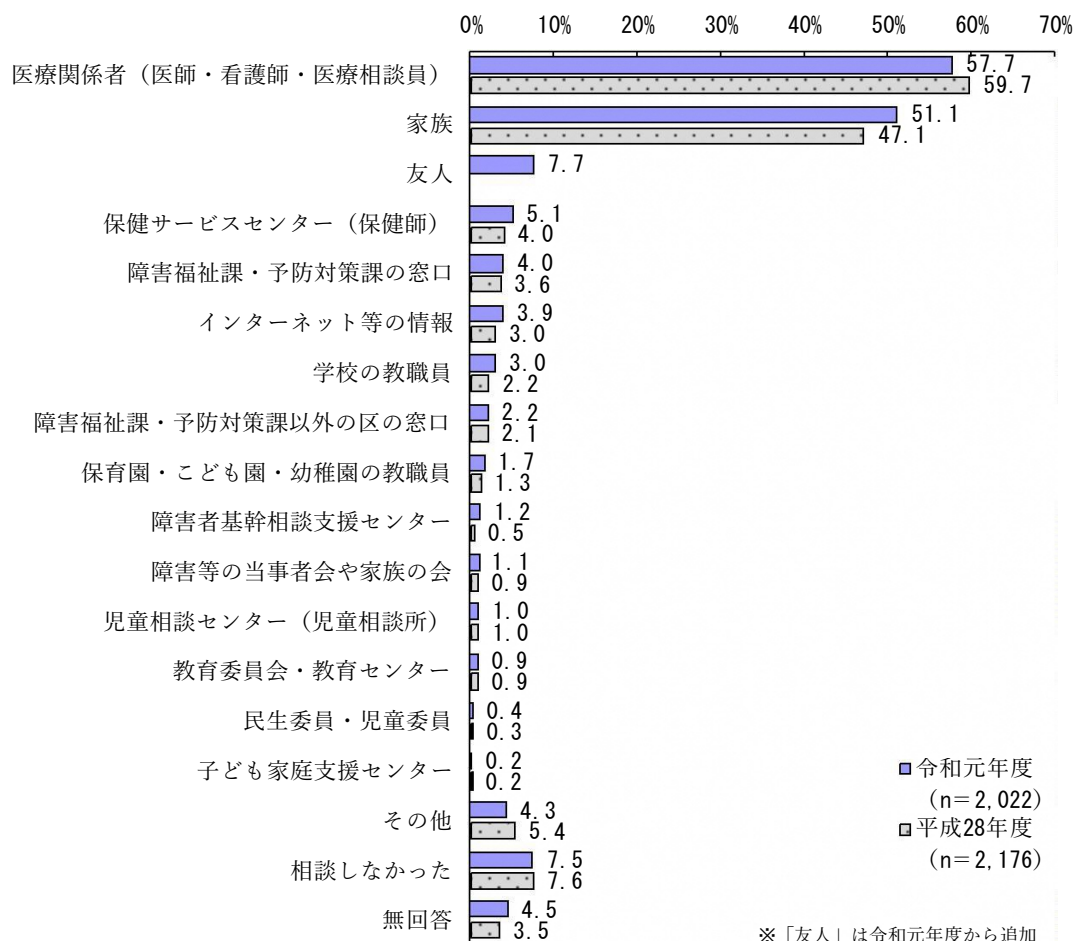
文 京 区



障害者（児）実態・意向調査報告書（一部抜粋）【在宅の方】

（6）障害に気づいたときの相談相手

問9 障害や心身の不調に気づいたとき、誰に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）



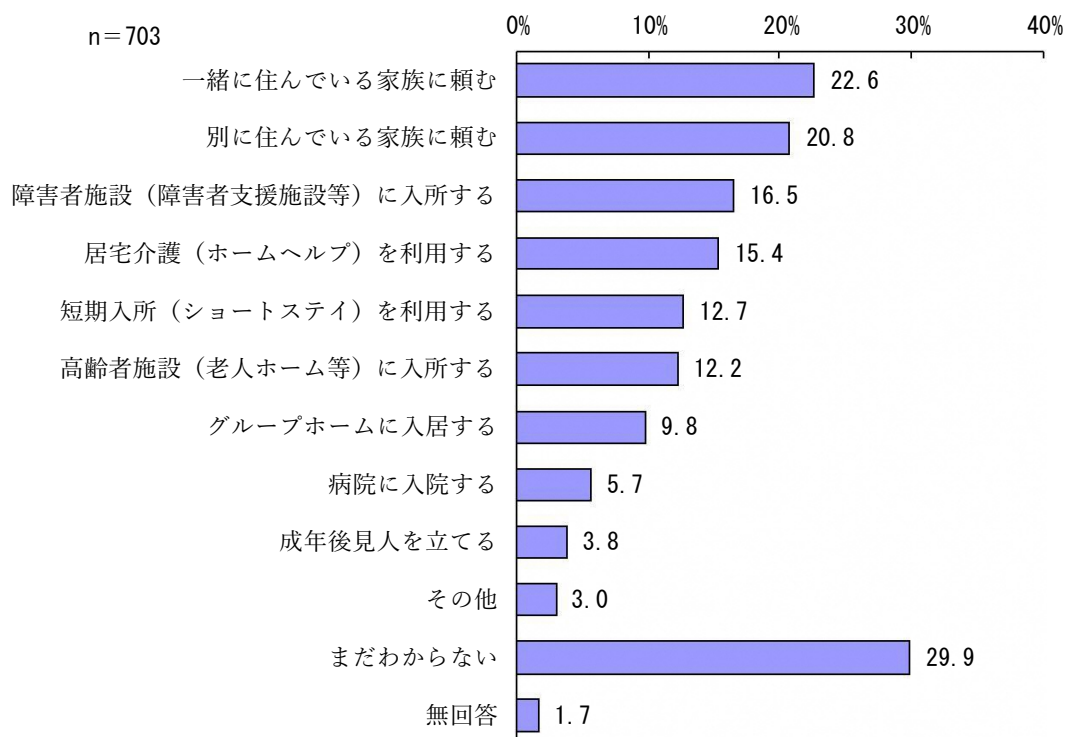
障害に気づいたときの相談相手は、「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が 57.7%と 5 割後半で最も高く、次いで「家族」が 51.1%と 5 割を超えて続いています。それ以外の項目はいずれも 1 割を切っています。

平成 28 年度と比較すると、「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が 2.0 ポイント下がって、「家族」が 4.0 ポイント上がっていますが、全体的な傾向はあまり変化ありません。

(15) 主な介助者が支援できなくなったときの対応

問 15で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 17 主な介助者があなたを介助・支援できなくなった場合はどうしますか。(○は3つまで)



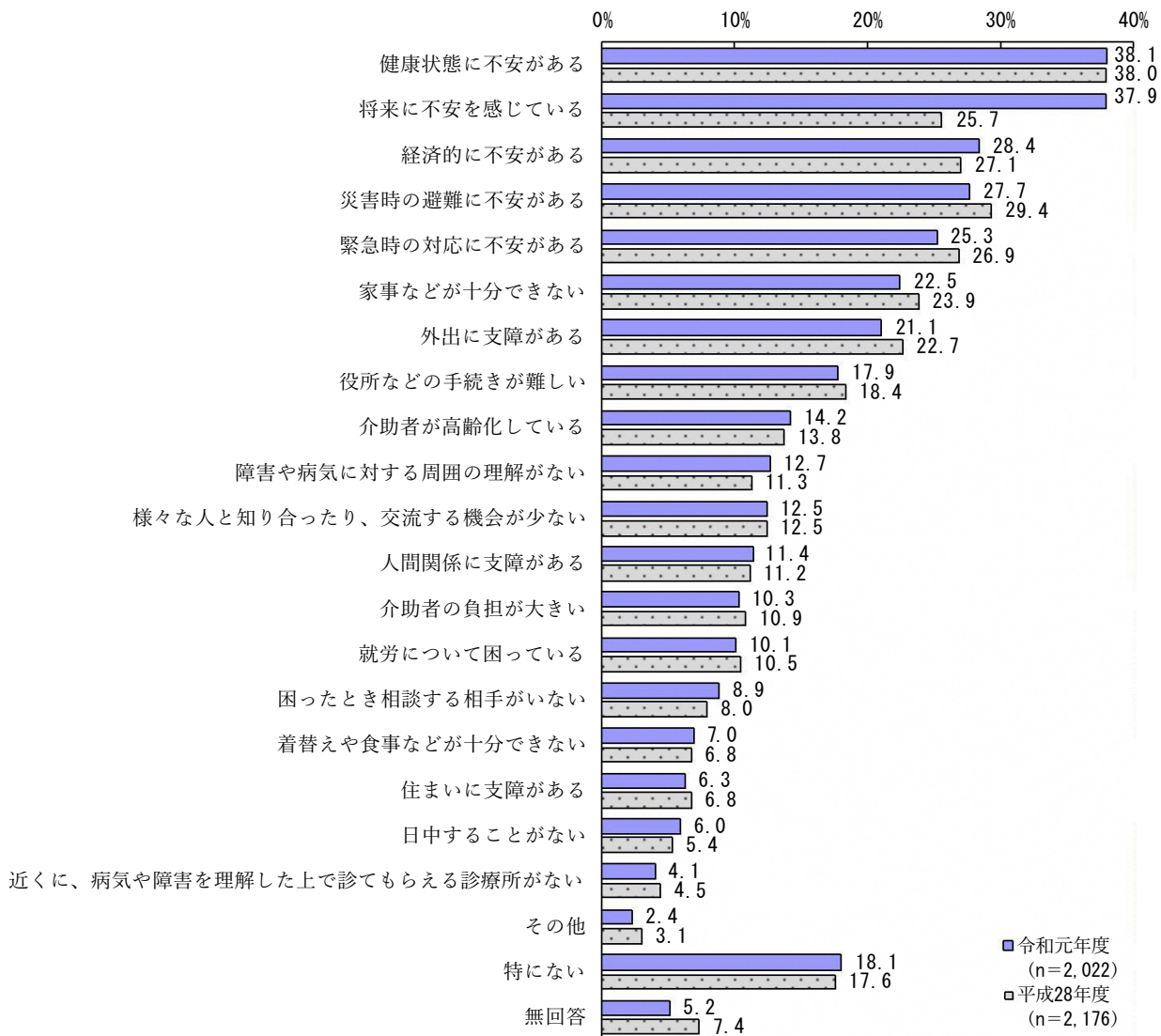
主な介助者が支援できなくなったときの対応は、「一緒に住んでいる家族に頼む」が22.6%と2割を超えて最も高く、次いで「別に住んでいる家族に頼む」が20.8%、「障害者施設（障害者支援施設等）に入所する」が16.5%と続いています。

一方、「まだわからない」が29.9%と3割を占めています。

3 相談や福祉の情報について

(1) 日常生活で困っていること

問 18 あなたには、日常生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)



日常生活で困っていることは、「健康状態に不安がある」が 38.1%、「将来に不安を感じている」が 37.9%と 4 割近くで高く、次いで「経済的に不安がある」が 28.4%、「災害時の避難に不安がある」が 27.7%と続いています。

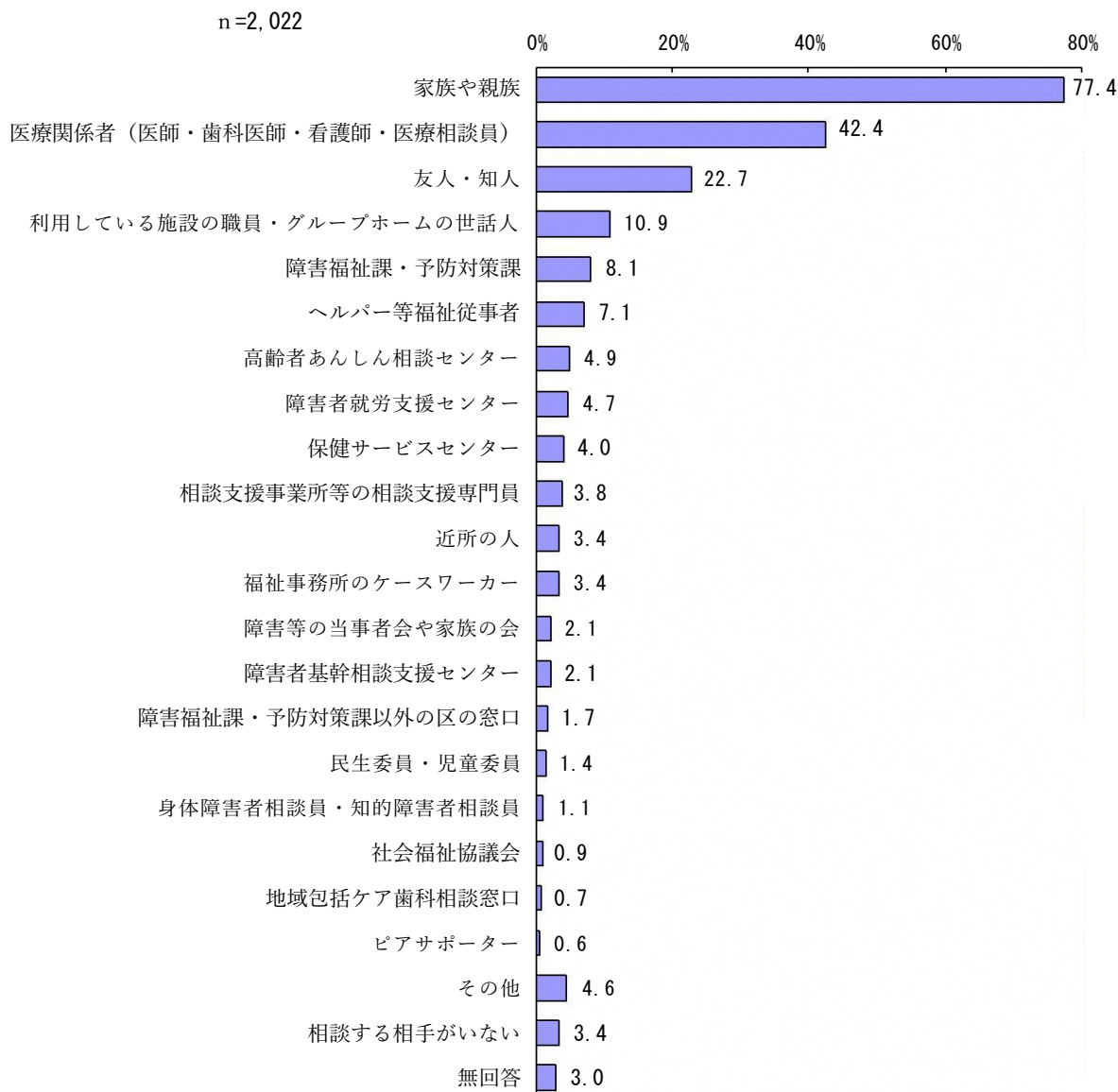
平成 28 年度と比較すると、「健康状態に不安がある」がともにほぼ同じ割合で最も高くなっています。

「将来に不安を感じている」が平成 28 年度と比べると 12.2 ポイント大きく上がっています。

それ以外の項目では全体的な傾向はあまり変化ありません。

(2) 困ったときの相談相手

問 19 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

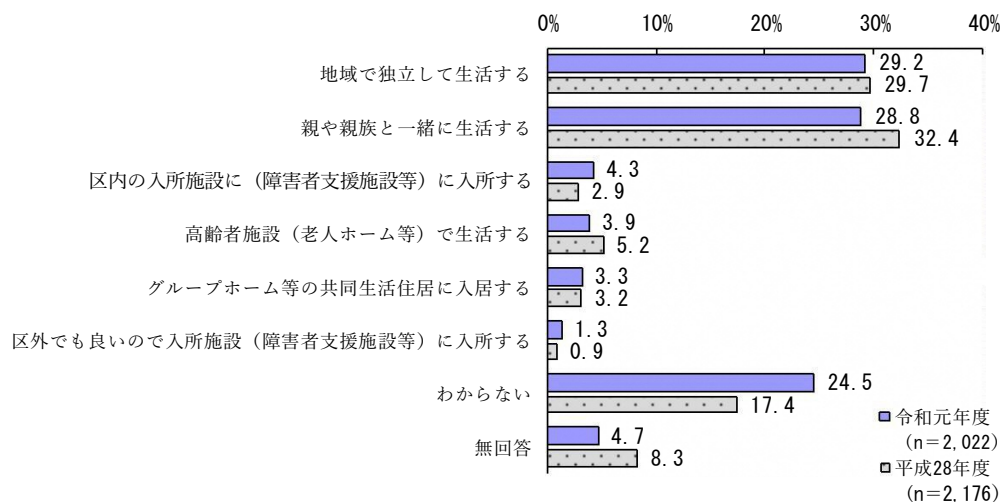


困ったときの相談相手は、「家族や親族」が77.4%と7割半ばを超えて突出して高く、次いで「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が42.4%、「友人・知人」が22.7%、「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が10.9%と続いており、それ以外の項目は1割を切っています。

一方、「相談する相手がない」は3.4%となっています。

(4) 今後希望する生活

問21 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(○はひとつ)



今後希望する生活は、「地域で独立して生活する」が29.2%、「親や親族と一緒に生活する」が28.8%と3割近くで高く、それ以外の項目は1割を切っています。

一方、「わからない」は24.5%と2割半ばを占めています。

平成28年度と比較すると、「親や親族と一緒に生活する」が3.6ポイント下がっており、「わからない」が7.1ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

(単位: %)		地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居に入居する	区内の入所施設に（障害者支援施設等）に入所する	区外でも良いので入所施設（障害者支援施設等）に入所する	高齢者施設（老人ホーム等）で生活する	わからない	無回答	
n										
全体	2022	29.2	28.8	3.3	4.3	1.3	3.9	24.5	4.7	
障害別	肢体不自由	338	22.5	28.7	3.6	6.5	1.8	7.4	25.1	4.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	37.9	5.7	5.7	1.1	6.9	19.5	4.6
	視覚障害	145	30.3	31.7	2.8	3.4	3.4	3.4	20.0	4.8
	聴覚・平衡機能障害	158	25.3	29.1	0.6	3.8	2.5	5.7	31.0	1.9
	内部障害	334	29.0	28.1	0.6	5.1	1.2	6.0	26.0	3.9
	知的障害	235	8.1	29.8	18.7	14.5	3.4	2.6	17.0	6.0
	発達障害	150	29.3	27.3	6.7	8.0	2.7	0.0	22.7	3.3
	精神障害	425	38.4	24.5	2.4	2.4	1.4	1.9	24.5	4.7
	高次脳機能障害	31	35.5	32.3	0.0	0.0	0.0	6.5	19.4	6.5
	難病（特定疾病）	606	32.3	33.2	0.8	2.6	0.5	4.0	22.4	4.1
その他	24	25.0	25.0	4.2	0.0	4.2	8.3	29.2	4.2	

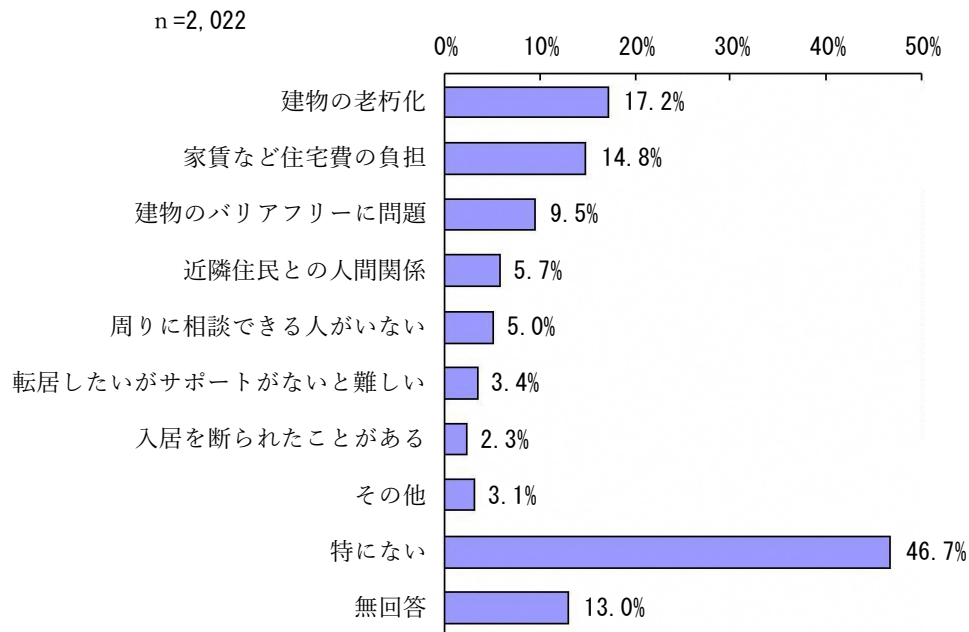
障害別にみると、いずれの障害も「地域で独立して生活する」か「親や親族と一緒に生活する」が最も高くなっています。

“知的障害”では「地域で独立して生活する」が8.1%と1割を切って他の障害よりも低く、「グループホーム等の共同生活住居に入居する」や「区内の入所施設に（障害者支援施設等）に入所する」は1割を超えて他の障害よりも高くなっています。

6 住まいについて

(1) 住まいでの困りごと

問 36 あなたは、住まいに関してどのようなことで困っていますか。(あてはまるものすべてに○)

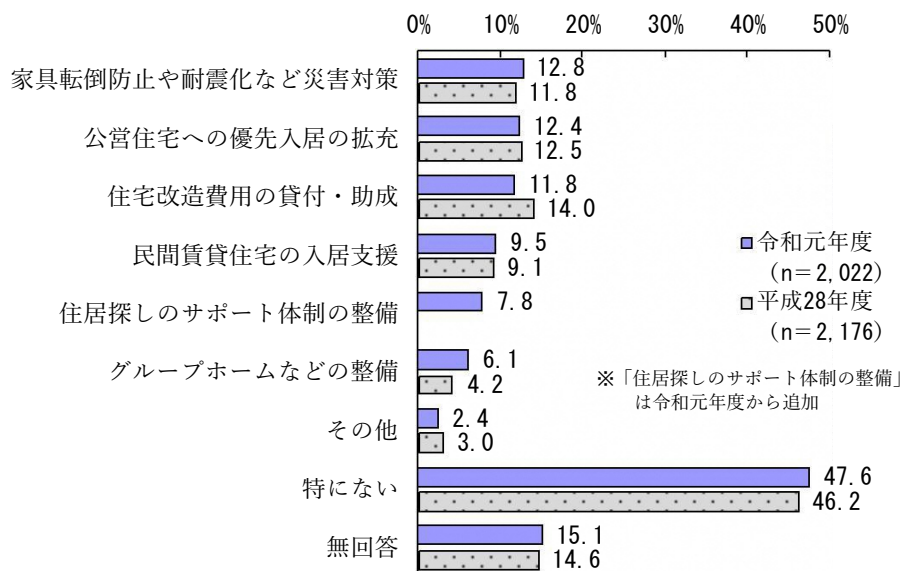


住まいでの困りごとは、「建物の老朽化」が17.2%と最も高く、次いで「家賃など住宅費の負担」が14.8%、「建物のバリアフリーに問題」が9.5%と続いています。

一方、「特にない」は46.7%と4割半ばを超えています。

(2) 住まいで必要な支援

問 37 あなたは、住まいに関してどのような支援を必要としていますか。(あてはまるものすべてに○)



住まいで必要な支援は、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が 12.8%、「公営住宅への優先入居の拡充」が 12.4%、「住宅改造費用の貸付・助成」が 11.8%と 1 割台が続いています。

一方、「特にない」は 47.6%と 4 割半ばを超えています。

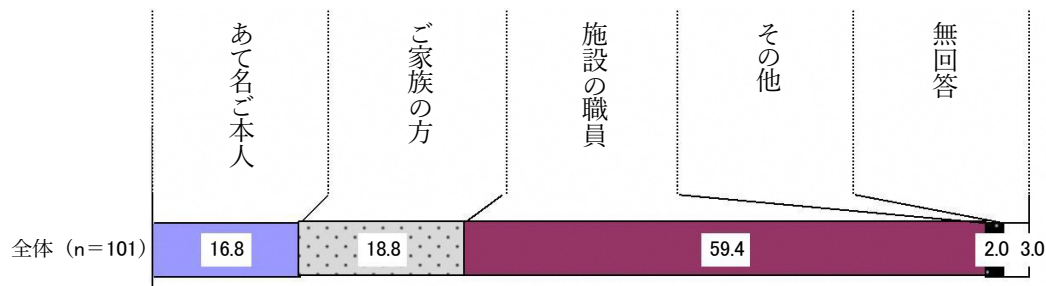
平成 28 年度と比較すると、「住宅改造費用の貸付・助成」が 2.2 ポイント下がっているなど、項目ごとに増減はありますが、大きな差はなく、全体的な傾向はあまり変化がありません。

障害者（児）実態・意向調査報告書（一部抜粋）【施設入所の方】

1 本人について

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。（○はひとつ）



調査の回答者は、「施設の職員」が59.4%と6割近くを占めており、次いで「ご家族の方」が18.8%、「あて名ご本人」が16.8%となっています。

【クロス集計】障害別

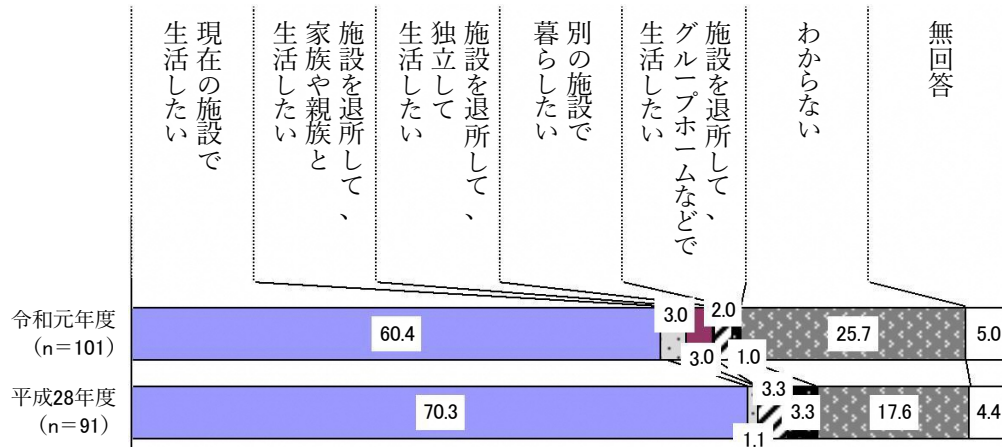
(単位:%)		n	あて名ご本人	ご家族の方	施設の職員	その他	無回答
全体		101	16.8	18.8	59.4	2.0	3.0
障害別	肢体不自由	31	29.0	35.5	32.3	3.2	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	79	12.7	21.5	63.3	0.0	2.5
	発達障害	12	0.0	8.3	91.7	0.0	0.0
	精神障害	7	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0

障害別にみると、“精神障害”と“難病（特定疾病）”以外の障害では、「ご家族の方」又は「施設の職員」が最も高くなっており、回答数が10件以上の“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では「ご家族の方」が、“知的障害”と“発達障害”では「施設の職員」が最も高く、特に“発達障害”では「施設の職員」が91.7%と9割を超えています。

5 今後の暮らし方について

(1) 今後希望する生活

問 20 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(○はひとつ)



今後希望する生活は、「現在の施設で生活したい」が60.4%と6割を占め最も高く、次いで「施設を退所して、家族や親族と生活したい」と「施設を退所して、独立して生活したい」がともに3.0%と続いています。

一方、「わからない」は25.7%と2割半ばを超えています。

平成28年度と比較すると、「現在の施設で生活したい」が9.9ポイント下がっており、「施設を退所して、家族や親族と生活したい」と「施設を退所して、独立して生活したい」がやや上がっています。

【クロス集計】年代別

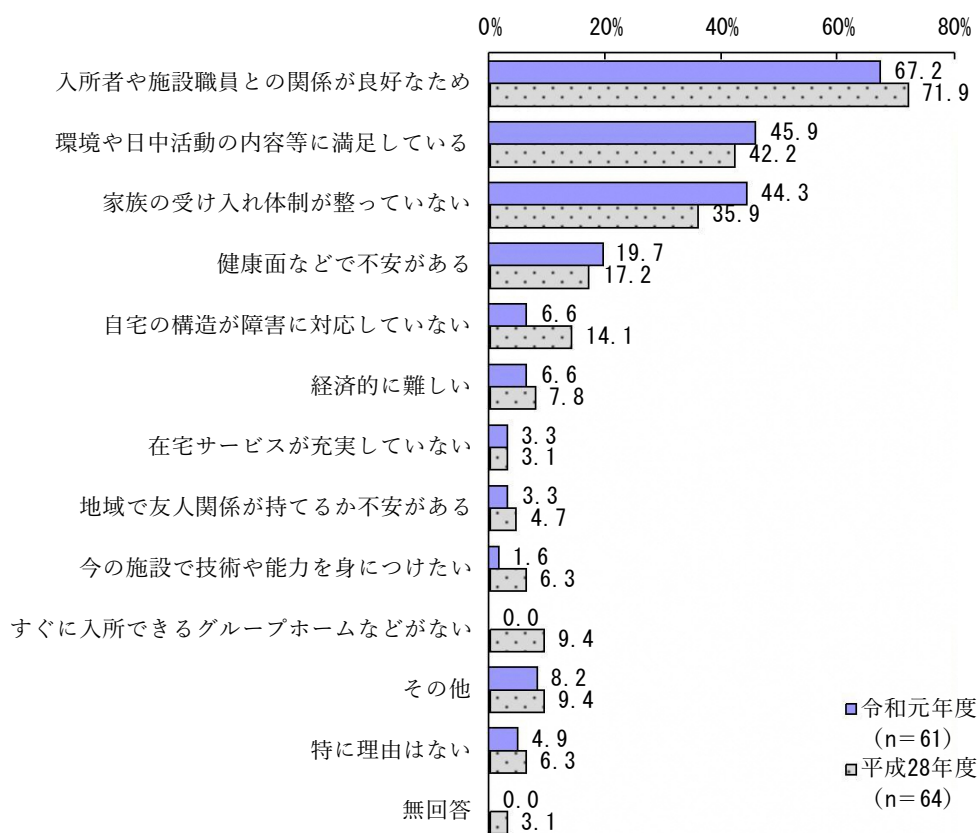
	n	現在の施設で生活したい	施設を退所して、家族や親族と生活したい	施設を退所して、独立して生活したい	施設を退所して、グループホームなどで生活したい	別の施設で暮らしたい	わからない	無回答
(単位:%)								
全体	101	60.4	3.0	3.0	1.0	2.0	25.7	5.0
18歳以上40歳未満	17	35.3	0.0	5.9	0.0	0.0	47.1	11.8
40歳以上65歳未満	51	70.6	5.9	2.0	0.0	2.0	15.7	3.9
65歳以上75歳未満	22	54.5	0.0	4.5	4.5	0.0	36.4	0.0
75歳以上	7	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

年代別にみると、“18歳以上40歳未満”以外のいずれの年代でも「現在の施設で生活したい」が最も高く、“18歳以上40歳未満”でも3割半ばで高くなっています。

(2) 現在の施設で生活し続けたい理由

問 20で「現在の施設で生活したい」と回答された方にお聞きします。

問 20-1 現在の施設での生活を続けたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



現在の施設で生活し続けたい理由は、「入所者や施設職員との関係が良好なため」が67.2%と6割半ばを超えて最も高く、次いで「環境や日中活動の内容等に満足している」が45.9%、「家族の受け入れ体制が整っていない」が44.3%と4割半ば前後が続いています。

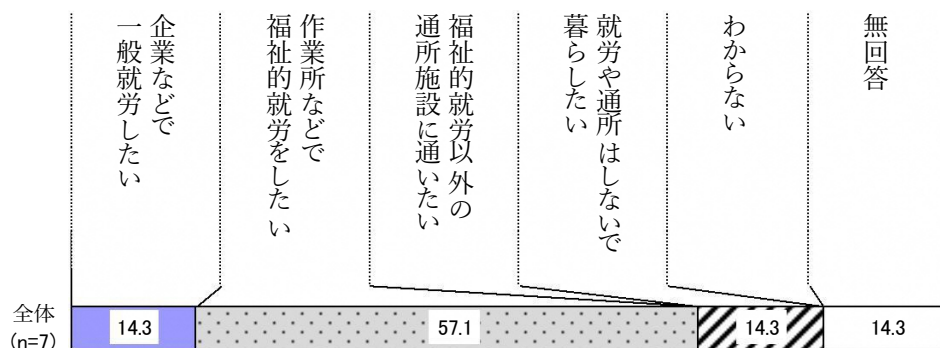
一方、「特に理由はない」は4.9%となっています。

平成28年度と比較すると、全体的な傾向はあまり変わりませんが、「家族の受け入れ体制が整っていない」が8.4ポイント上がっており、反対に「すぐに入所できるグループホームなどが無い」が9.4ポイント、「自宅の構造が障害に対応していない」が7.5ポイント下がっています。

(3) 施設退所後の暮らし方の希望

問 20で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。

問 20-2 地域でどのような暮らし方をしたいと思いますか。(○はひとつ)

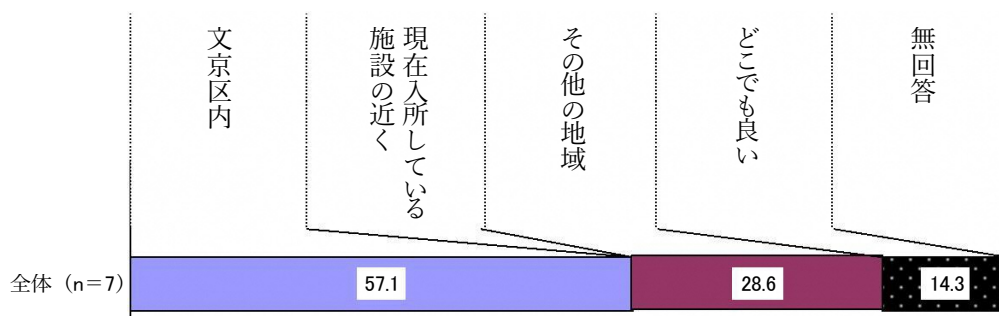


施設退所後、地域での暮らし方の希望については、「作業所などで福祉的就労をしたい」が 57.1%と半数を超えています。

(4) 施設退所後の居住地の希望

問 20で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。

問 20-3 退所後はどの地域で暮らしたいと思いますか。(○はひとつ)

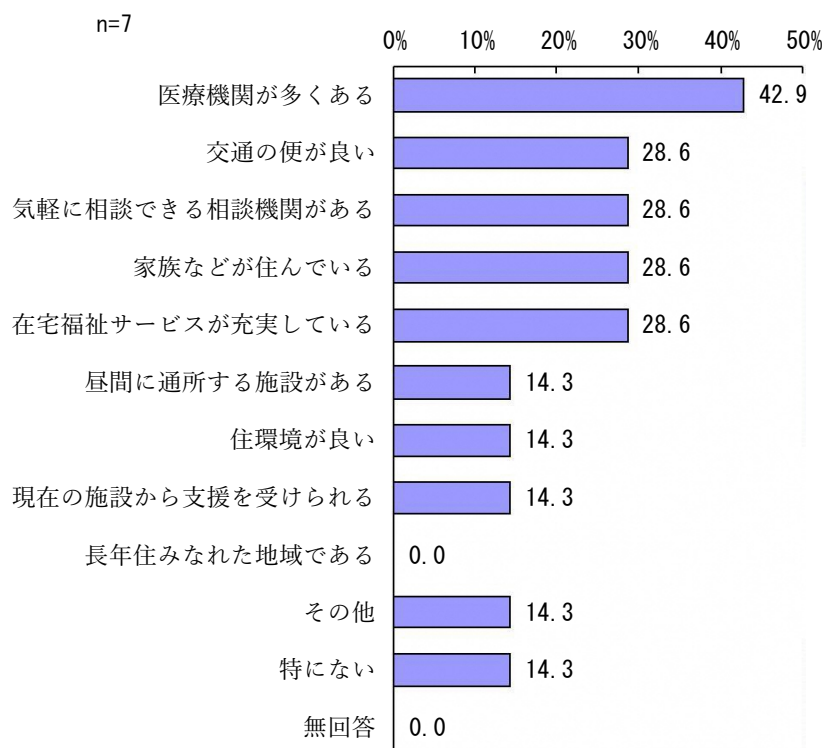


施設退所後の居住地の希望については、「文京区内」が 57.1%と半数を超えています。

(5) 施設退所後に地域に望むこと

問 20で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。

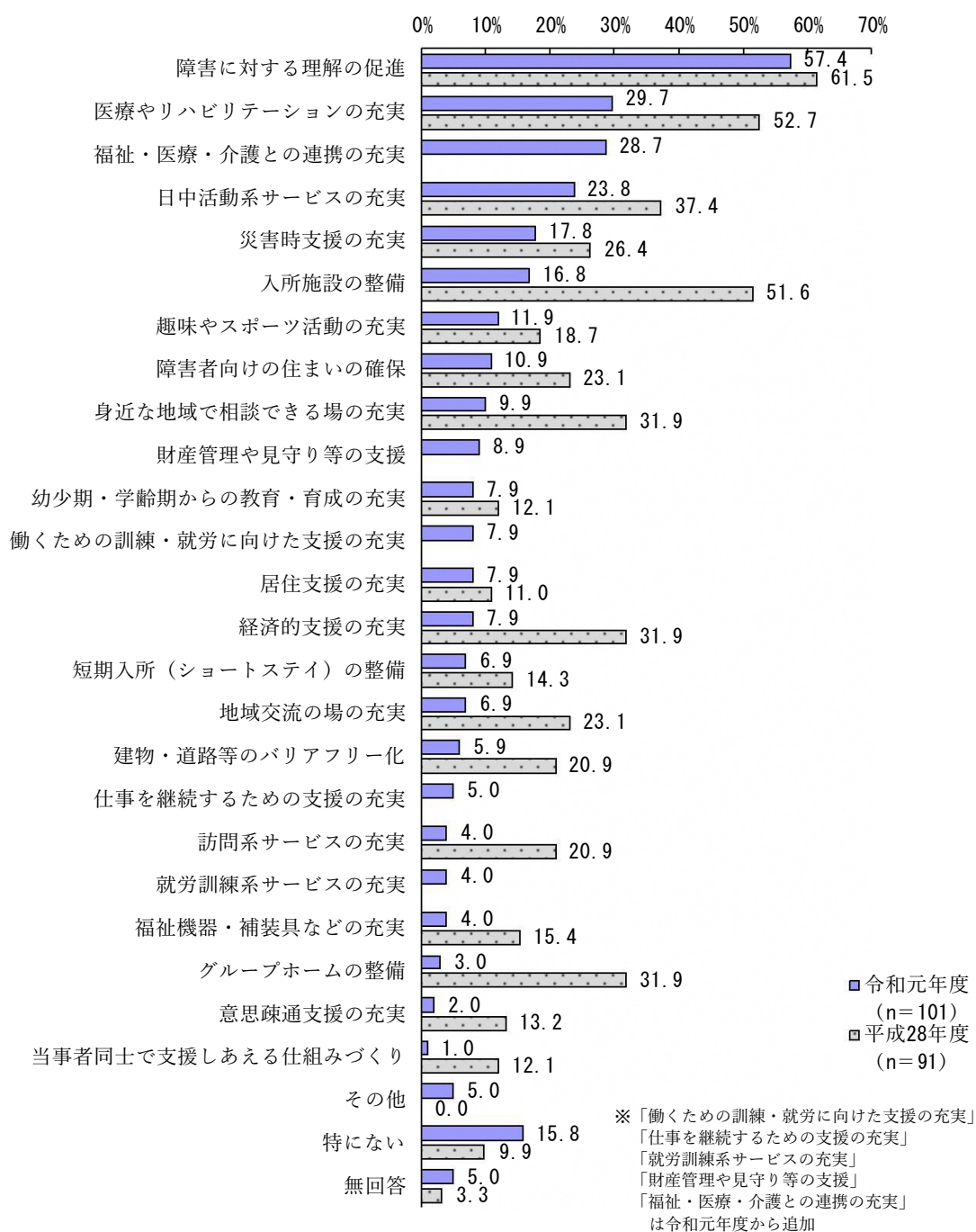
問 20-4 退所後に暮らす地域にのぞむことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



施設退所後、居住地に望むことは、「医療機関が多くある」が42.9%と最も高く、次いで「交通の便が良い」、「気軽に相談できる相談機関がある」、「家族などが住んでいる」、「在宅福祉サービスが充実している」がいずれも28.6%と続いています。

(6) 地域で安心して暮らすために必要な施策

問 21 障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「障害に対する理解の促進」が57.4%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「医療やリハビリテーションの充実」が29.7%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が28.7%、「日中活動系サービスの充実」が23.8%と続いています。

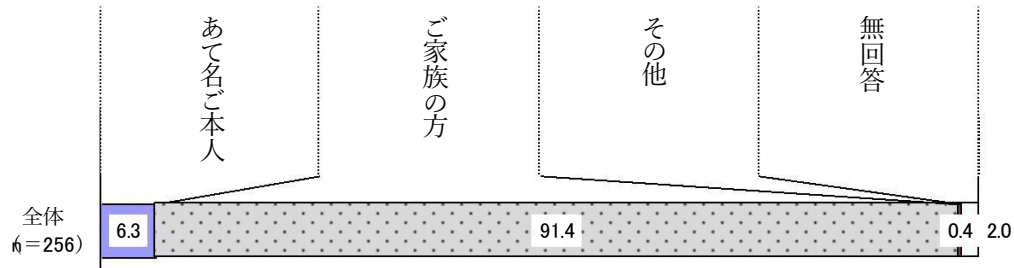
平成28年度と比較すると、追加項目があったこともあり、「その他」と「特にない」以外のいずれの項目も大きく下がっています。

障害者（児）実態・意向調査報告書（一部抜粋）【18歳未満の方】

1 本人について

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。（○はひとつ）



調査の回答者は、「ご家族の方」が91.4%と9割を超えており、「あて名ご本人」は6.3%となっています。

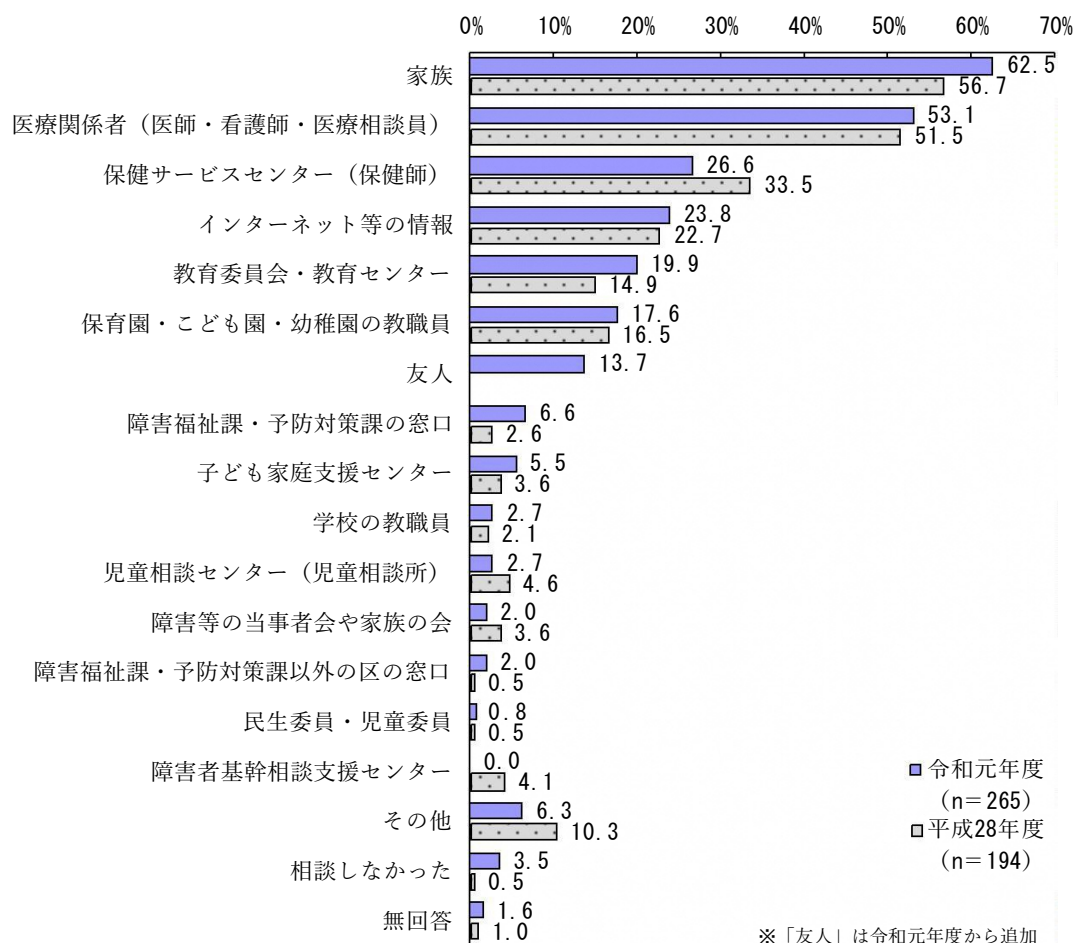
【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	あて名ご本人	ご家族の方	その他	無回答
全体	256	6.3	91.4	0.4	2.0
肢体不自由	33	6.1	93.9	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	100.0	0.0	0.0
視覚障害	15	6.7	86.7	0.0	6.7
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	100.0	0.0	0.0
内部障害	19	5.3	94.7	0.0	0.0
知的障害	123	4.9	91.9	0.0	3.3
発達障害	136	5.9	91.9	0.7	1.5
精神障害	4	0.0	100.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	100.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	14.3	85.7	0.0	0.0
その他	5	0.0	100.0	0.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害も「ご家族の方」が8割以上で最も高くなっています。“難病（特定疾病）”では「あて名ご本人」が14.3%と1割を超え、他の障害に比べ突出して高くなっています。

(7) 障害に気づいたときの相談相手

問9 保護者の方にお聞きします。お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

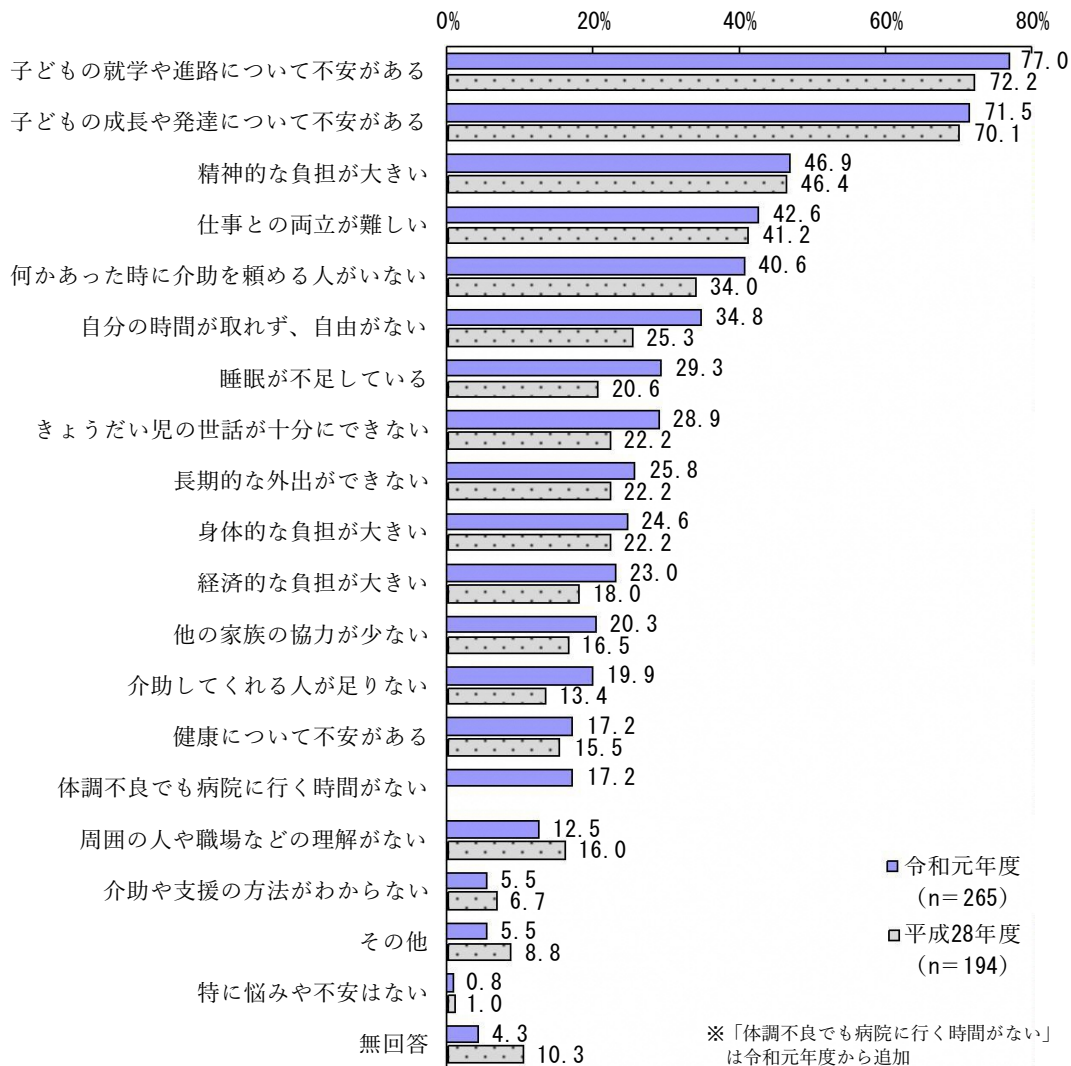


障害に気づいたときの相談相手は、「家族」が62.5%と6割を超えて最も高く、次いで「医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)」が53.1%、「保健サービスセンター (保健師)」が26.6%、「インターネット等の情報」が23.8%と続いています。

平成28年度と比較すると、「保健サービスセンター (保健師)」が6.9ポイント、「障害者基幹相談支援センター」が4.1ポイント下がって、「家族」が5.8ポイント、「教育委員会・教育センター」が5.0ポイント上がっています。

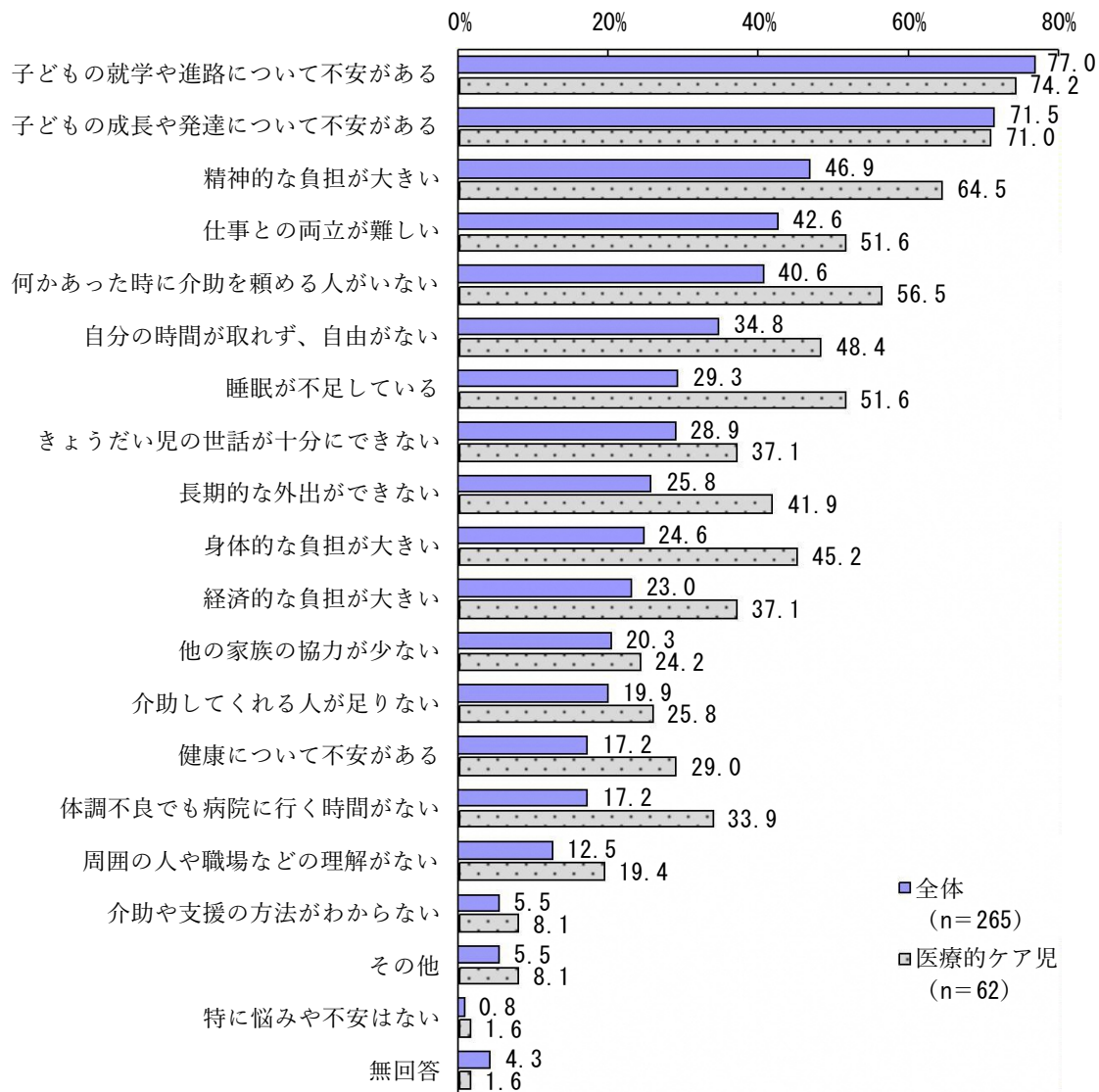
(17) 保護者の悩み・不安

問 17 保護者の方にお聞きします。どのような悩みや不安を抱えていますか。(あてはまるものすべてに○)



保護者の悩み・不安は、「子どもの就学や進路について不安がある」が77.0%、「子どもの成長や発達について不安がある」が71.5%と、子どもの将来についての項目が7割を超えて高くなっています。次いで「精神的な負担が大きい」が46.9%、「仕事との両立が難しい」が42.6%、「何かあった時に介助を頼める人がいない」が40.6%と4割台が続いています。

平成28年度と比較すると、「周囲の人や職場などの理解がない」、「介助や支援の方法がわからない」、「その他」以外のいずれの悩み・不安の割合は上がっており、特に「自分の時間が取れず、自由がない」が9.5ポイント、「睡眠が不足している」が8.7ポイント上がっています。

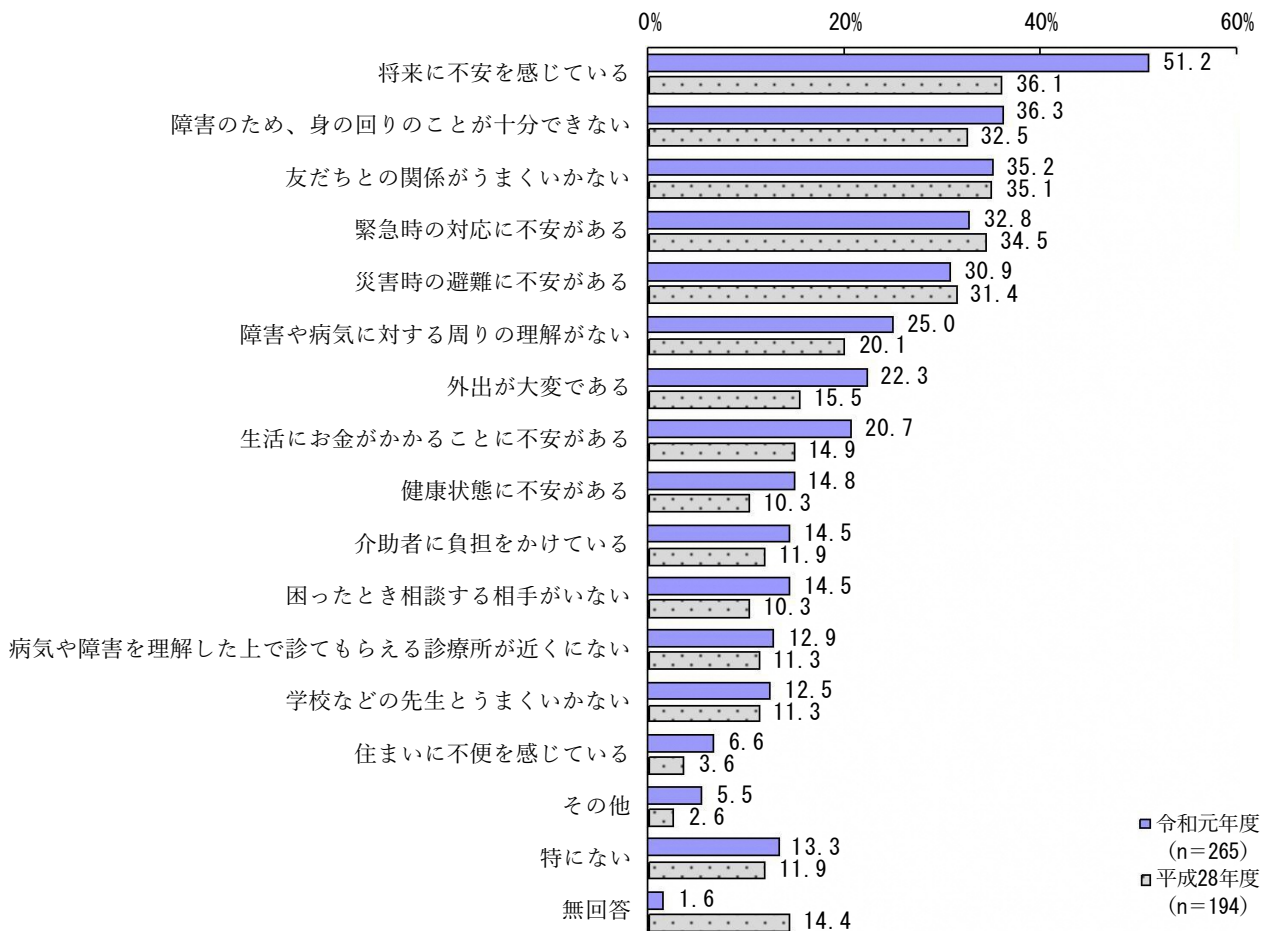


医療的ケア児の保護者と全体を比較すると、医療的ケア児の保護者の悩み・不安の割合は、「子どもの就学や進路について不安がある」と「子どもの成長や発達について不安がある」以外はいずれの項目も全体を大きく上回っています。特に「睡眠が不足している」が22.3ポイント、「身体的な負担が大きい」が20.6ポイントと、20ポイント以上大きく全体の割合を上回っています。

3 相談や福祉の情報について

(1) 日常生活で困っていること

問 18 あなたは、日常生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)
(ご家族や支援者が回答する場合でも、ご本人(お子さん)の思いをご回答ください)

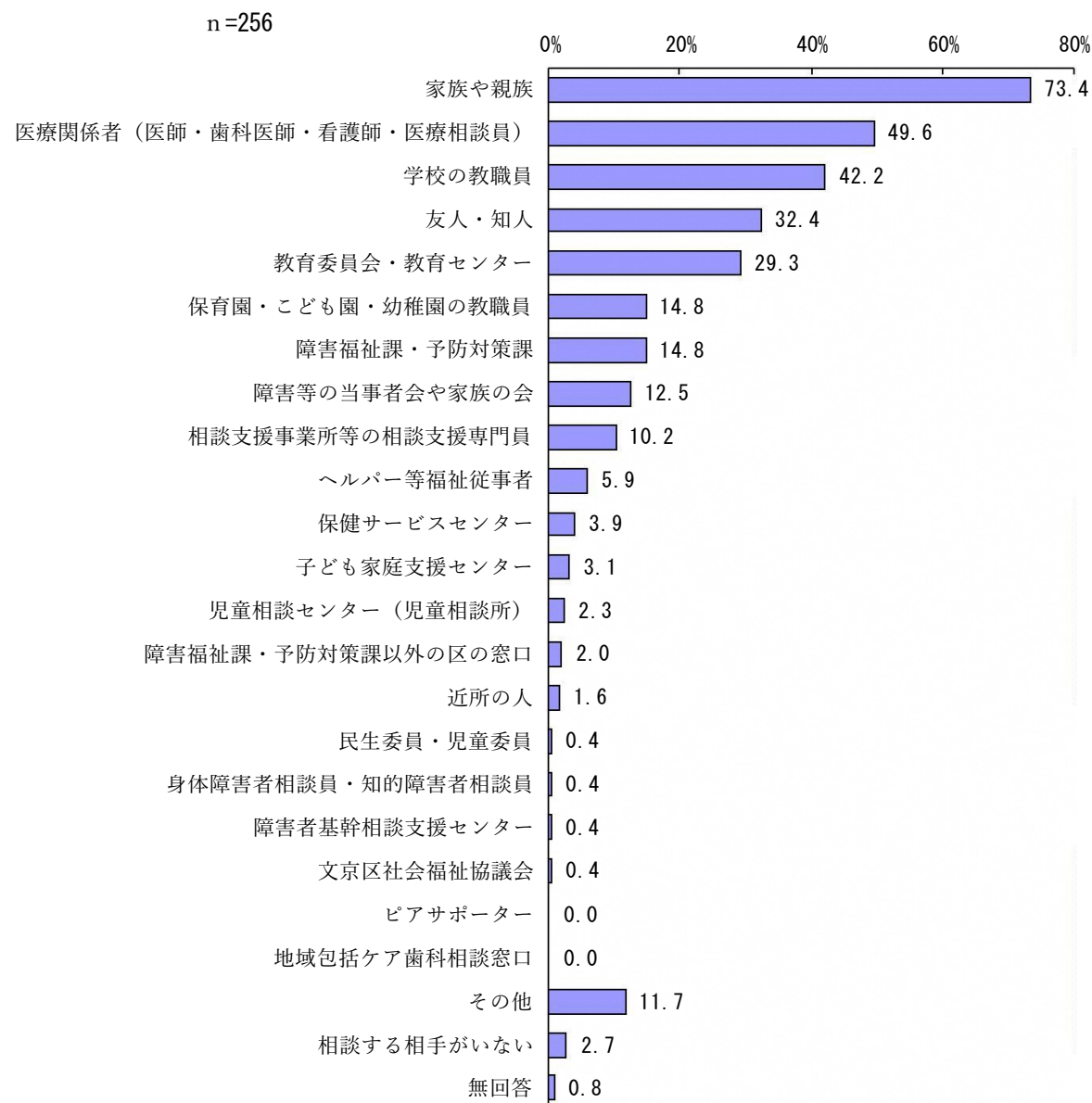


日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」が51.2%と5割を超えて最も高く、次いで「障害のため、身の回りのことが十分できない」が36.3%、「友だちとの関係がうまくいかない」が35.2%と続いています。

平成28年度と比較すると、「緊急時の対応に不安がある」と「災害時の避難に不安がある」以外はいずれの項目も平成28年度を上回っており、特に「将来に不安を感じている」は15.1ポイントと大幅に上がっています。

(2) 困ったときの相談相手

問 19 あなたやご家族の方が困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

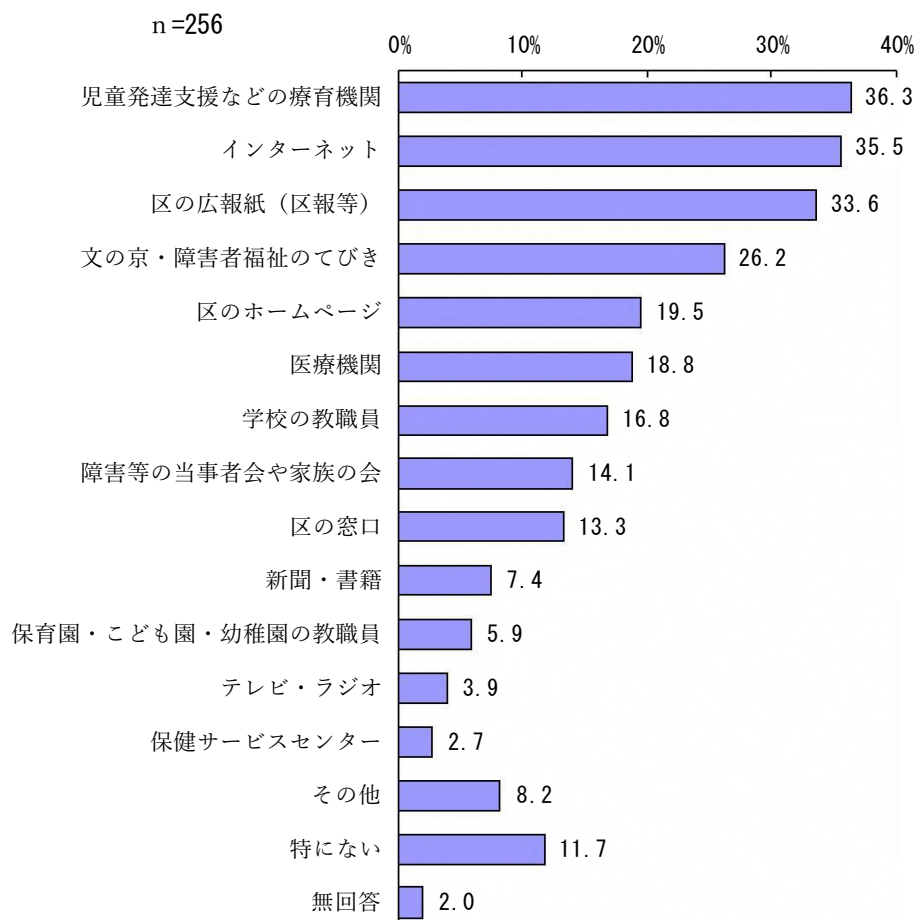


家族や本人が困ったときの相談相手は、「家族や親族」が73.4%と7割を超えて最も高く、次いで「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が49.6%、「学校の教職員」が42.2%、「友人・知人」が32.4%、「教育委員会・教育センター」が29.3%と続いています。

一方、「相談する相手がない」は2.7%となっています。

(3) 福祉情報の入手先

問 20 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

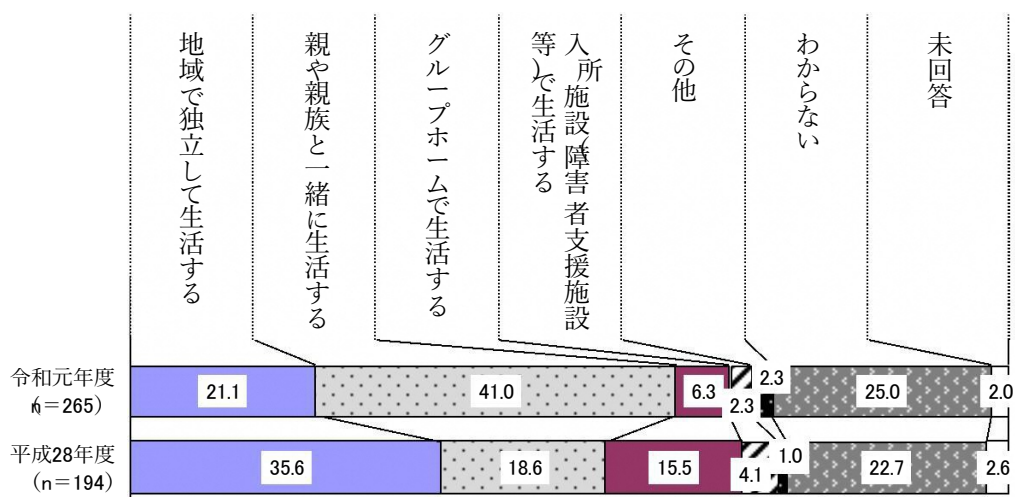


福祉情報の入手先は、「児童発達支援などの療育機関」が36.3%、「インターネット」が35.5%、「区の広報紙 (区報等)」が33.6%と3割台で高く、次いで「文の京・障害者福祉のてびき」が26.2%と続いています。

一方、「特にない」は11.7%となっています。

(4) 将来希望する生活

問21 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(○はひとつ)



将来希望する生活は、「親や親族と一緒に生活する」が41.0%と4割を超えて最も高く、次いで「地域で独立して生活する」が21.1%と続いており、それ以外の項目は1割を切っています。

一方、「わからない」は25.0%と全体の4分の1を占めています。

平成28年度と比較すると、「親や親族と一緒に生活する」が22.4ポイント大きく上がっており、反対に「地域で独立して生活する」が14.5ポイント、「グループホームで生活する」が9.2ポイント大きく下がっています。

【クロス集計】障害別

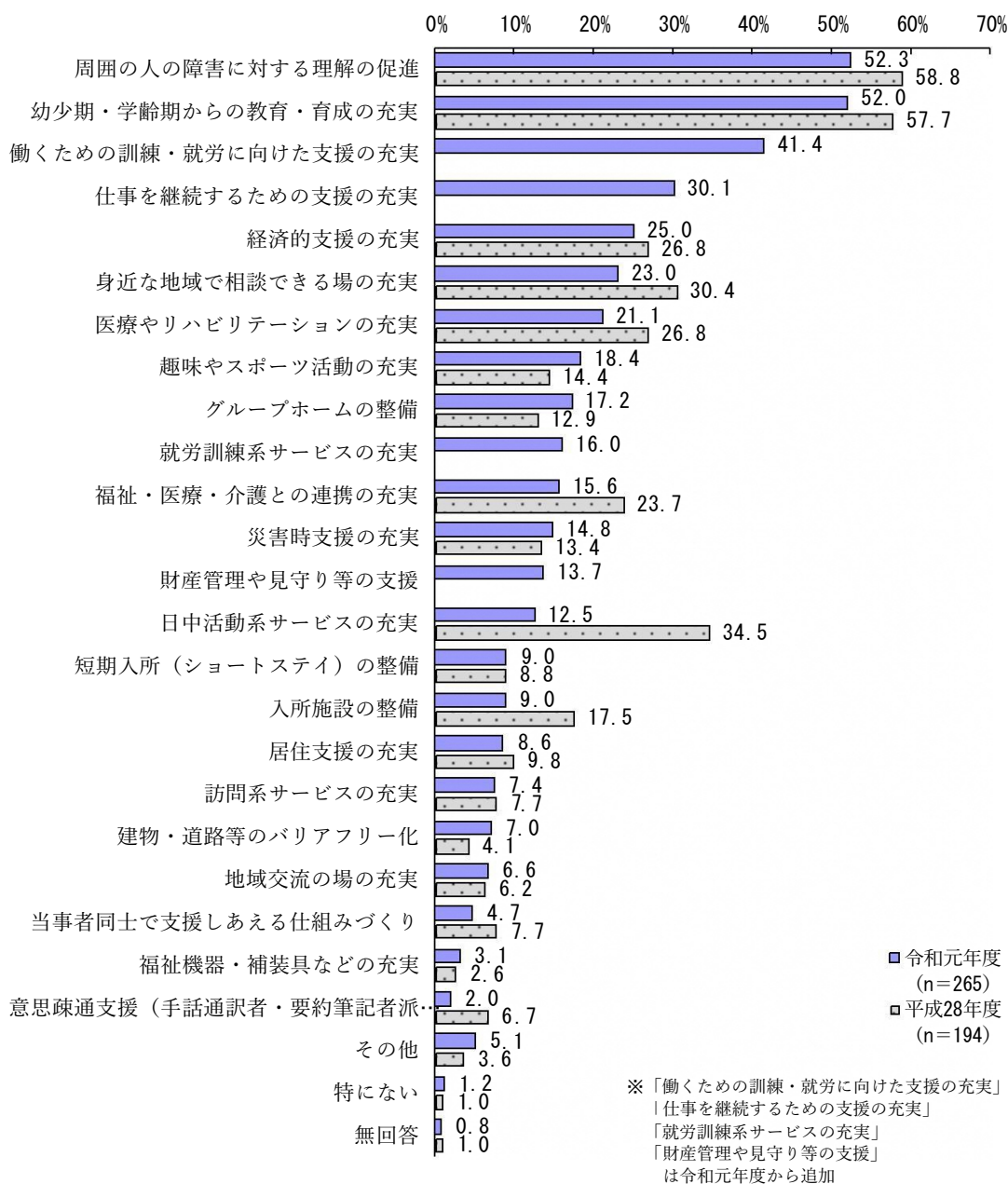
(単位:%)	n	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホームで生活する	入所施設(障害者支援施設等)で生活する	その他	わからない	無回答
全体	256	21.1	41.0	6.3	2.3	2.3	25.0	2.0
障害別								
肢体不自由	33	12.1	36.4	9.1	12.1	3.0	24.2	3.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	10.5	47.4	10.5	15.8	0.0	15.8	0.0
視覚障害	15	20.0	53.3	6.7	6.7	0.0	13.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0
内部障害	19	15.8	42.1	5.3	5.3	5.3	26.3	0.0
知的障害	123	13.8	34.1	13.0	3.3	2.4	31.7	1.6
発達障害	136	23.5	46.3	3.7	0.7	2.9	21.3	1.5
精神障害	4	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	14	7.1	50.0	14.3	0.0	7.1	14.3	7.1
その他	5	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害も「親や親族と一緒に生活する」が3割以上で最も高くなっています。

“難病(特定疾病)”では「地域で独立して生活する」が7.1%と1割を切って他の障害よりも低くなっています。

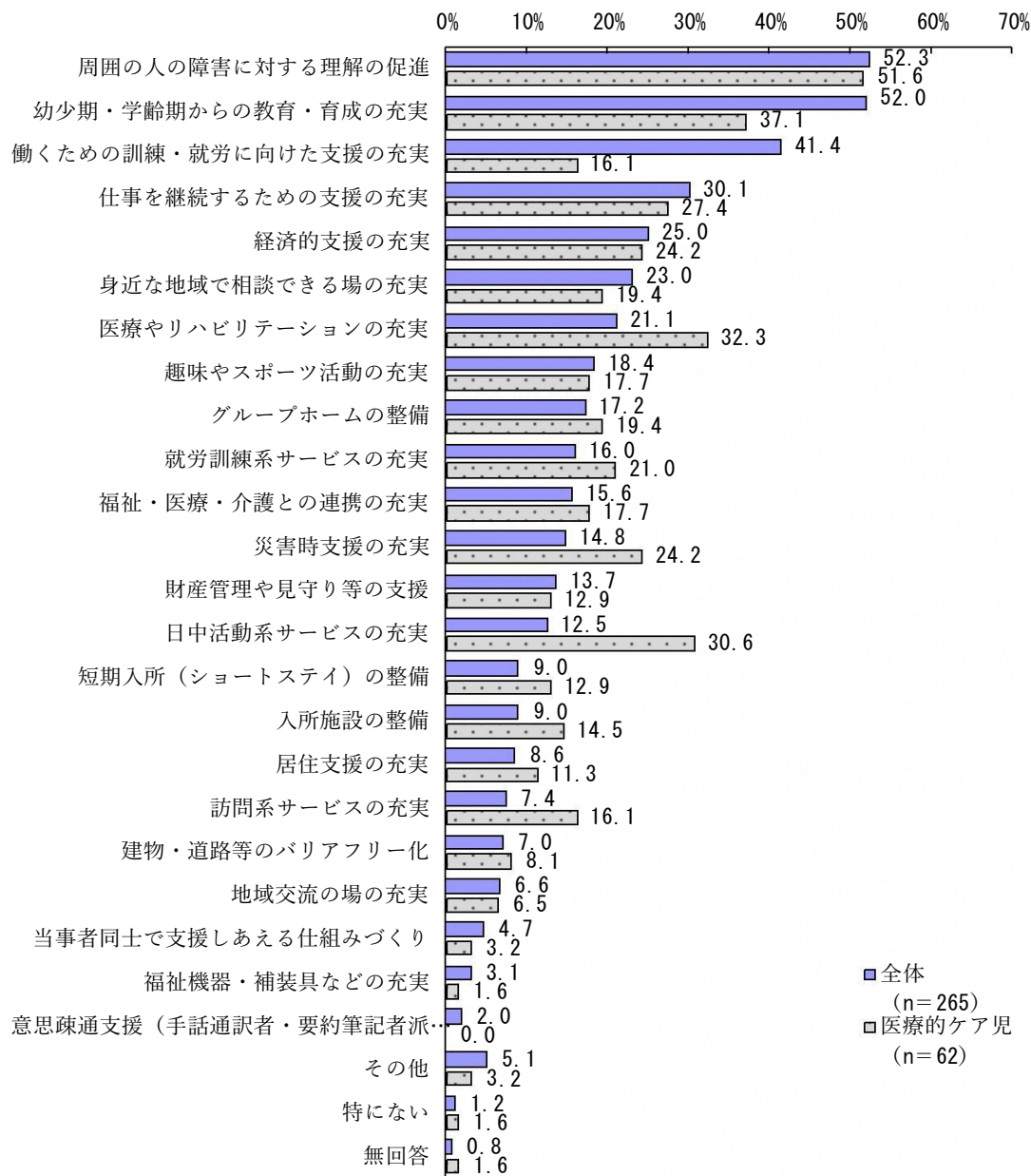
(5) 地域で安心して暮らすために必要な施策

問 22 あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「周囲の人の障害に対する理解の促進」が52.3%、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が52.0%と5割を超えて高く、次いで「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が41.4%、「仕事を継続するための支援の充実」が30.1%と続いています。

平成28年度と比較すると、追加項目があったこともあり、「日中活動系サービスの充実」が22.0ポイント大きく下がっています。



医療的ケア児と全体を比較すると、医療的ケア児が地域で安心して暮らすために必要な施策の割合は、「日中活動系サービスの充実」が 18.1 ポイント、「医療やリハビリテーションの充実」が 11.2 ポイントと、「災害時支援の充実」が 9.4 ポイント、「訪問系サービスの充実」が 8.7 ポイント全体の割合を上回っています。

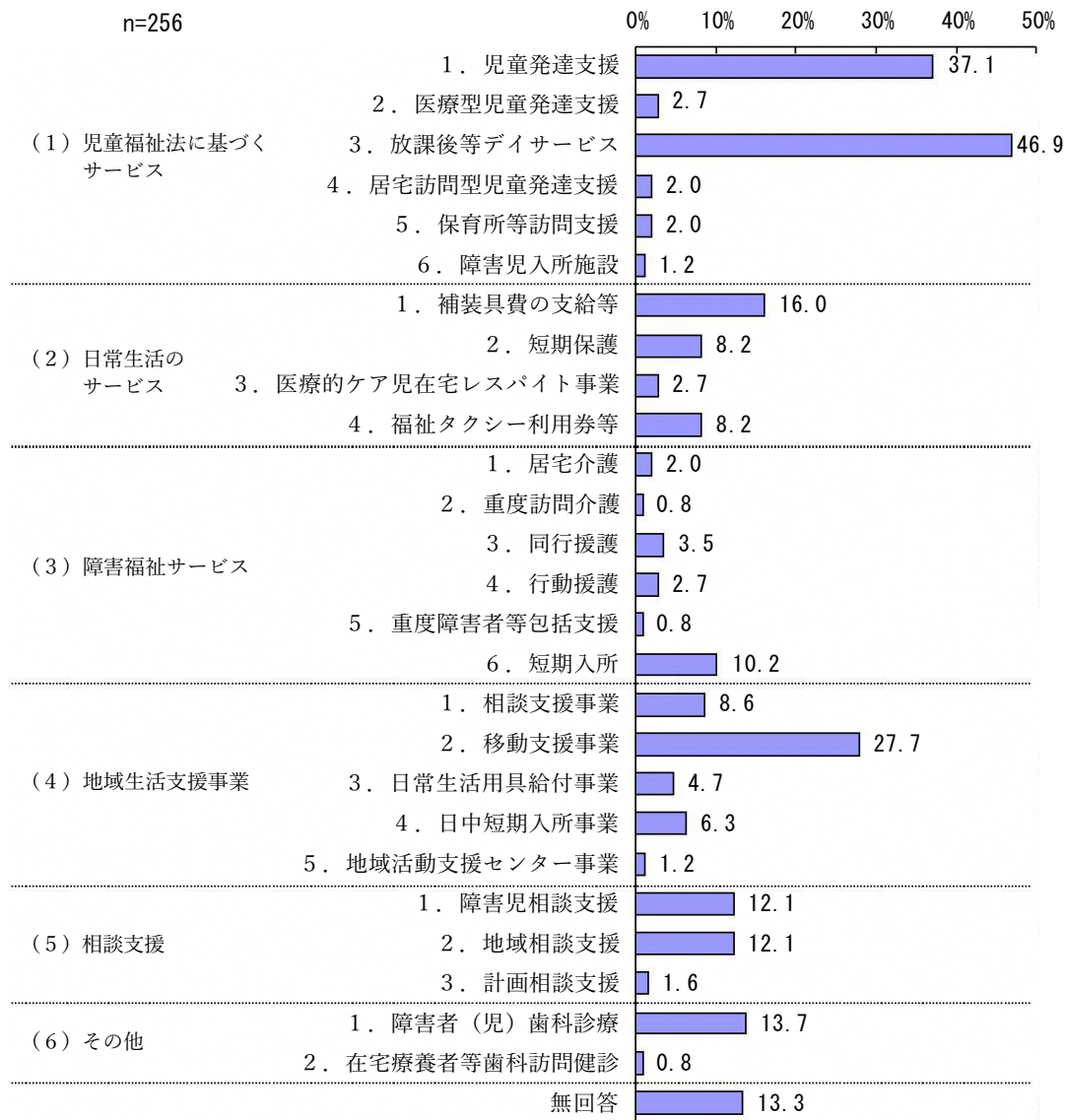
反対に、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」は 25.3 ポイント、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」は 14.9 ポイントと、大きく全体の割合を下回っています。

4 福祉サービスについて

(1) 現在利用しているサービス

問 23 障害児通所支援等の利用状況と満足度についてお聞きします。

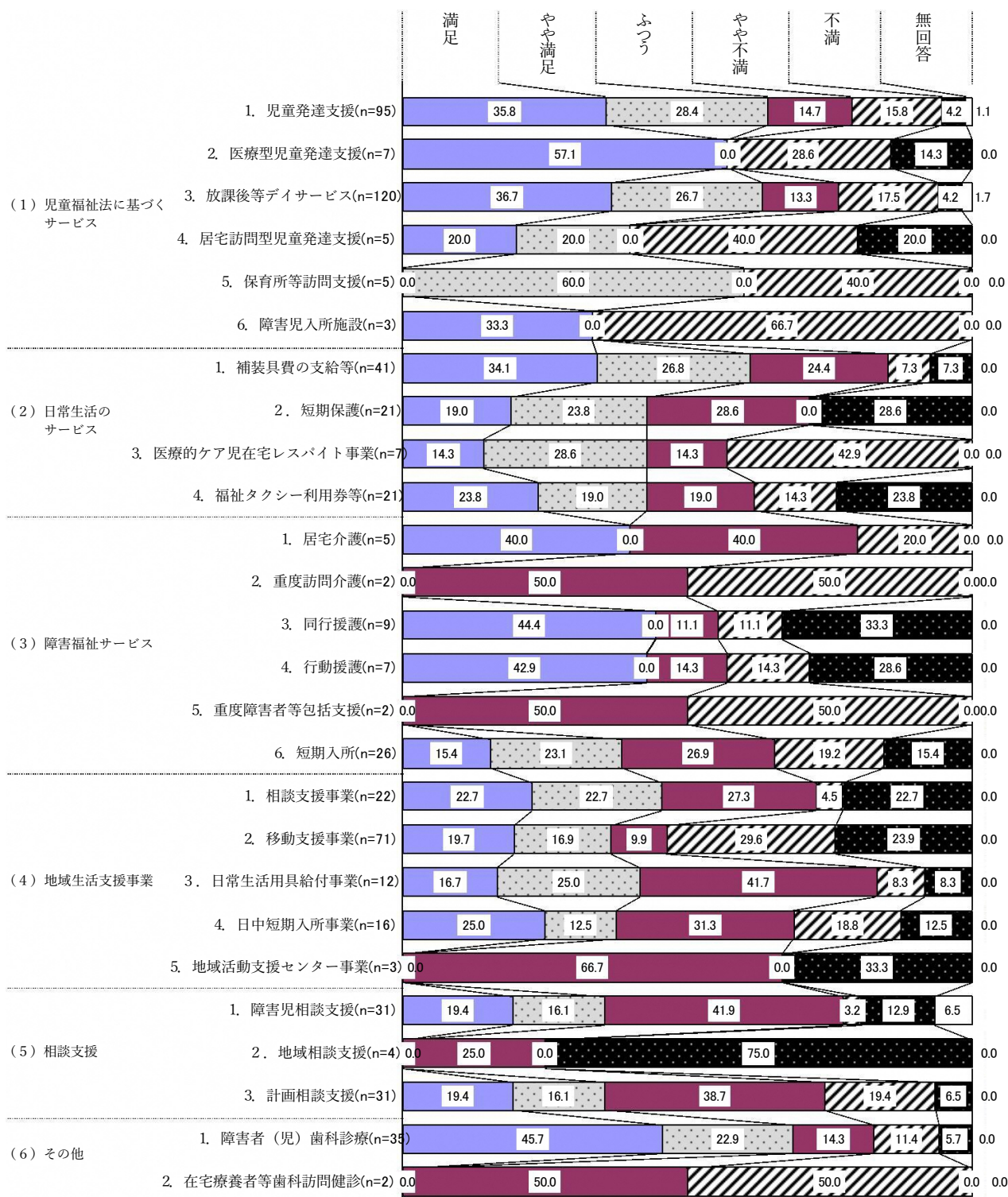
A. 現在利用しているサービスに○をつけてください。



現在利用している障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が46.9%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「児童発達支援」が37.1%、「移動支援事業」が27.7%と続いています。

(2) サービスの満足度

B. 現在利用しているサービスに満足していますか。(○はひとつ)



利用している障害児通所支援サービスの「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」、「保育所等訪問支援」、「補装具費の支給等」、「障害者(児) 歯科診療」が6割を超えて高くなっています。

「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、「移動支援事業」が53.5%と高くなっています。

(3) サービスの『不満』の理由

B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ方

C. サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。(○はいくつでも)

	n	少ない 利用できる 回数や 日数等が	利用 料が高い	少ない サー ビス 提供 事業 所が	利用 日時 が合 わな い	不安 を感 じる サー ビス 内容 (質) に	サー ビス 提供 事業 所の 対応 が良 くない	取 れな い 事 業 所 と家 族の 連携 が	十 分 で な い 医 療 的 ケ ア の 対 応 が	そ の 他	無 回 答
(単位:%)	n										
児童発達支援	19	42.1	5.3	36.8	36.8	31.6	15.8	0.0	5.3	31.6	0.0
医療型児童発達支援	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
放課後等デイサービス	26	57.7	30.8	38.5	50.0	34.6	3.8	7.7	3.8	7.7	0.0
居宅訪問型児童発達支援	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
保育所等訪問支援	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児入所施設	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
補装具費の支給等	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0
短期保護	6	100.0	0.0	100.0	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
医療的ケア児在宅レスパイト事業	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
福祉タクシー利用券等	7	57.1	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
居宅介護	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重度訪問介護	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同行援護	4	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
行動援護	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
重度障害者等包括支援	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短期入所	9	77.8	0.0	66.7	33.3	22.2	33.3	0.0	0.0	11.1	0.0
相談支援事業	6	16.7	0.0	16.7	16.7	83.3	33.3	50.0	16.7	16.7	0.0
移動支援事業	38	50.0	0.0	60.5	60.5	15.8	5.3	0.0	2.6	5.3	2.6
日常生活用具給付事業	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
日中短期入所事業	5	40.0	0.0	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
地域活動支援センター事業	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
障害児相談支援	5	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	60.0	80.0	40.0	20.0	0.0
地域相談支援	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0
計画相談支援	8	0.0	0.0	0.0	12.5	75.0	25.0	25.0	12.5	25.0	0.0
障害者(児)歯科診療	6	66.7	0.0	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0
在宅療養者等歯科訪問健診	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

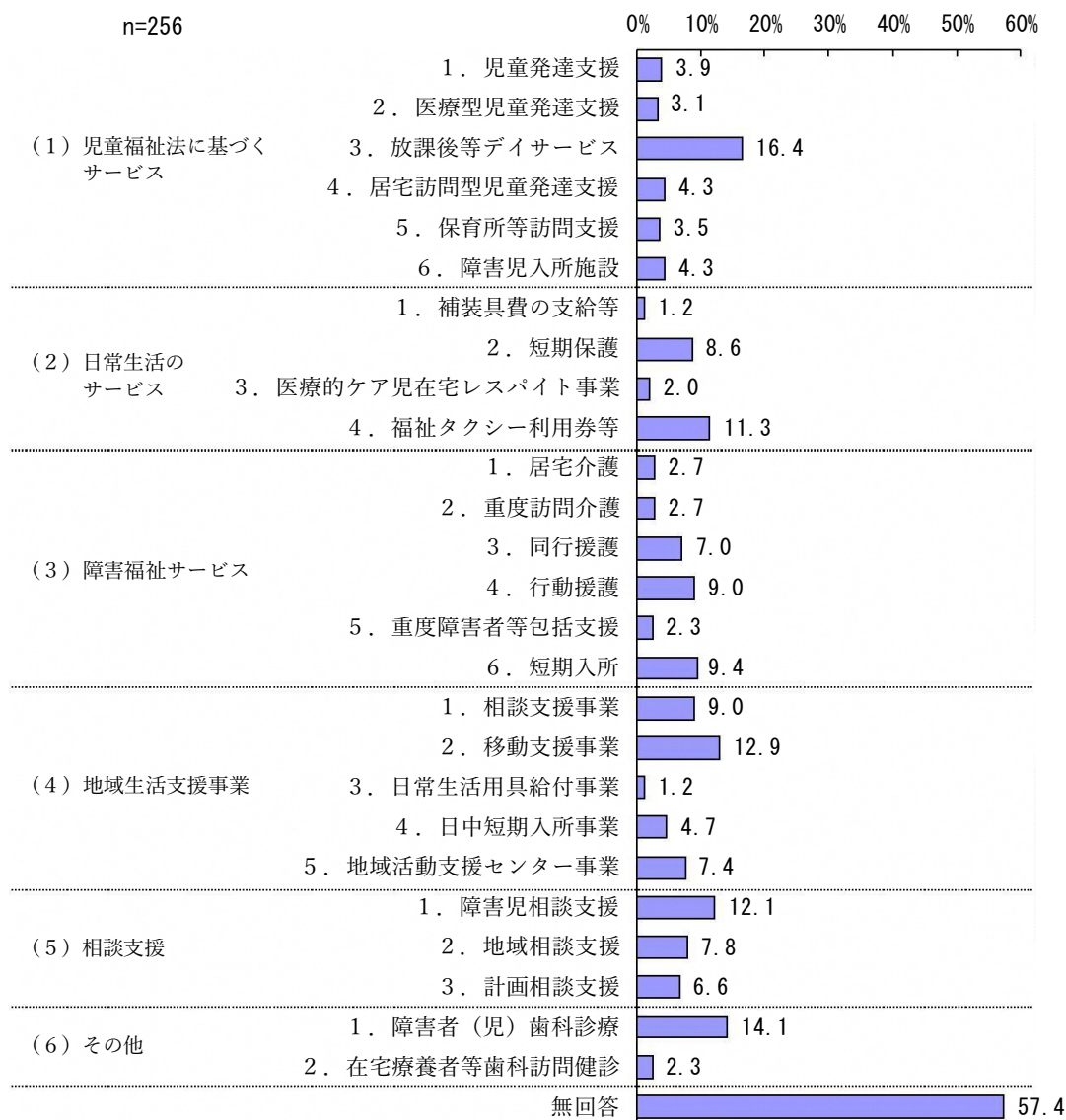
利用している障害児通所支援サービス等の『不満』の理由を、『不満』と答えた回答者が10人を超えたサービスでみると、“放課後デイサービス”、“移動支援事業”では「利用できる回数や日数等が少ない」が5割台で高く、“児童発達支援”で42.1%と4割を超えて高くなっています。

“放課後デイサービス”では「利用日時が合わない」が50.0%と5割に達しています。

“移動支援事業”では「サービス提供事業所が少ない」と「利用日時が合わない」がともに60.5%と6割を超えて高くなっています。

(4) 今後利用したいサービス

D. 現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

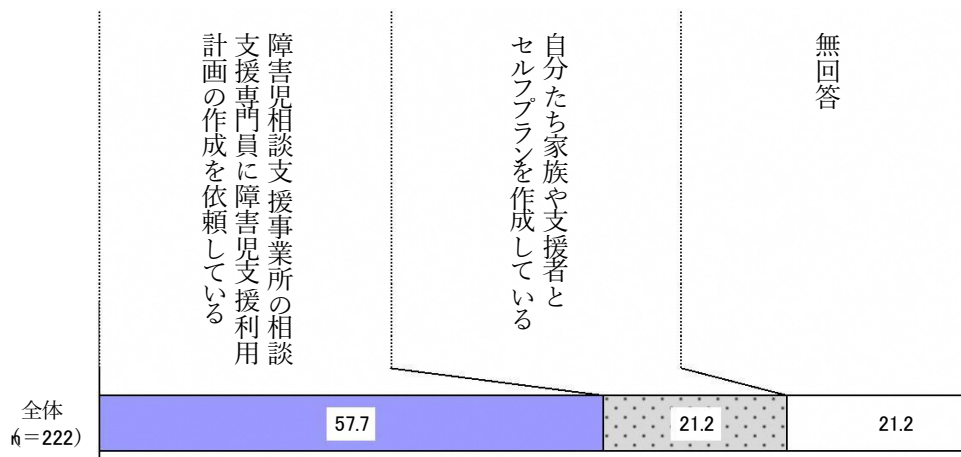


今後利用したい障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が16.4%と最も高く、次いで「障害者（児）歯科診療」が14.1%、「移動支援事業」が12.9%、「障害児相談支援」が12.1%、「福祉タクシー利用券等」が11.3%と1割台が続いています。

(6) 障害児支援利用計画の作成手段

問 23 にあるいずれかの障害児通所支援サービス等で「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問 25 どのように障害児支援利用計画を作成しましたか。(○はひとつ)



障害児支援利用計画の作成手段は、「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が57.7%と5割半ばを超えており、「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が21.2%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位: %)	n	障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している	自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している	無回答
全体	222	57.7	21.2	21.2
障害別				
肢体不自由	30	40.0	30.0	30.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	68.4	15.8	15.8
視覚障害	14	28.6	28.6	42.9
聴覚・平衡機能障害	6	50.0	0.0	50.0
内部障害	13	61.5	15.4	23.1
知的障害	111	64.9	16.2	18.9
発達障害	119	60.5	26.9	12.6
精神障害	3	33.3	33.3	33.3
高次脳機能障害	3	66.7	33.3	0.0
難病(特定疾病)	12	58.3	33.3	8.3
その他	5	80.0	0.0	20.0

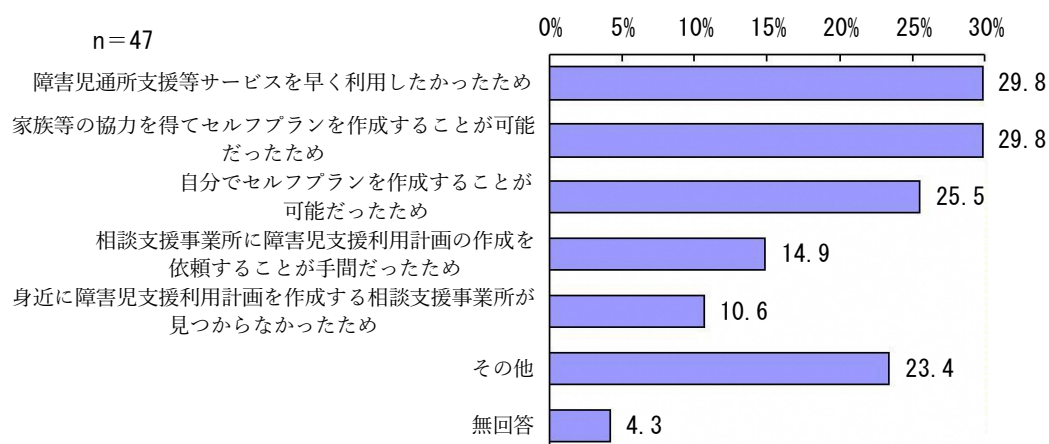
障害別にみると、いずれの障害でも「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が最も高くなっています。

“視覚障害”と“精神障害”では、「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」と同じ割合になっています。

(9) セルフプランにした理由

問 25で「セルフプランを作成している」と回答した方にお聞きします。

問 28 セルフプランとした理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)



セルフプランを作成した理由は、「障害児通所支援等サービスを早く利用しなかったため」と「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」がともに 29.8%と約3割で最も高く、次いで「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が 25.5%と続いています。

【クロス集計】障害別

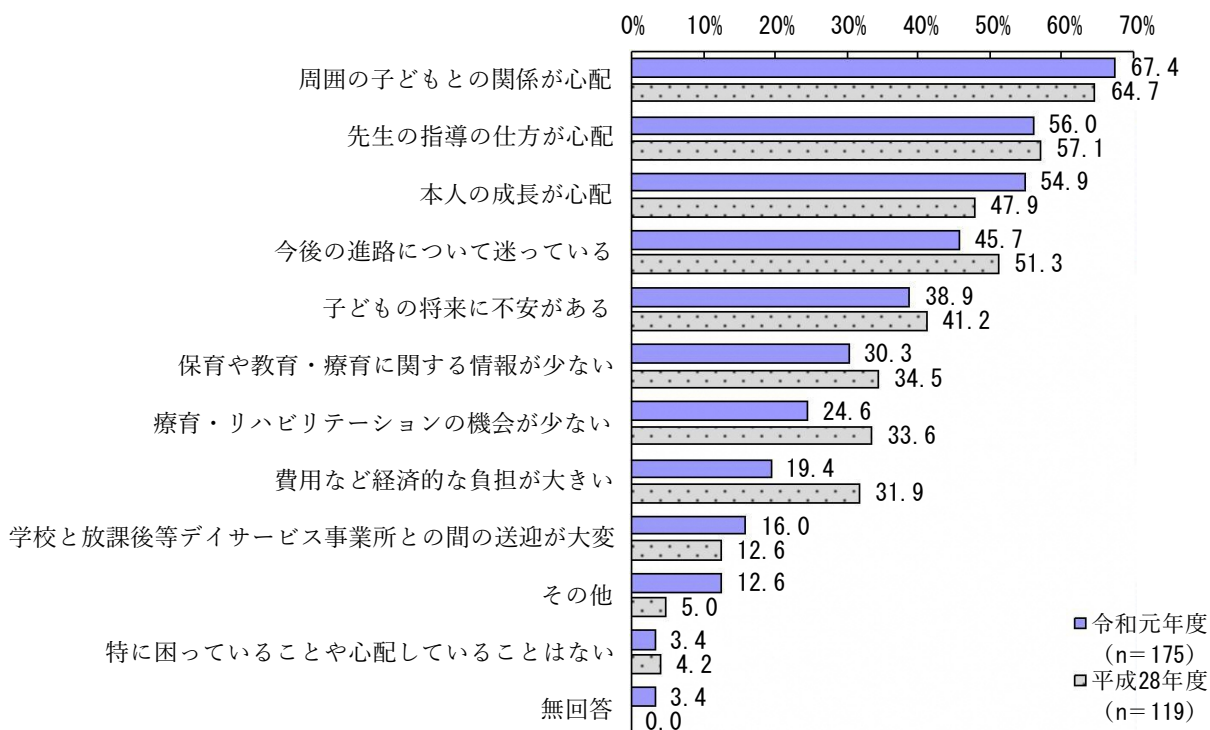
(単位:%)	n	相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため	身近に障害児支援利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため	障害児通所支援等サービスを早く利用しなかったため	家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため	自分でセルフプランを作成することが可能だったため	その他	無回答
全体	47	14.9	10.6	29.8	29.8	25.5	23.4	4.3
障害別								
肢体不自由	9	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1	66.7	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
視覚障害	4	0.0	0.0	50.0	25.0	50.0	50.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	2	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
知的障害	18	22.2	16.7	44.4	33.3	27.8	27.8	0.0
発達障害	32	18.8	9.4	31.3	34.4	25.0	18.8	6.3
精神障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
難病(特定疾病)	4	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	75.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が10件以上の“知的障害”では「障害児通所支援等サービスを早く利用しなかったため」が 44.4%、「発達障害」では「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」が 34.4%と最も高くなっています。

(4) 通学生活等の困りごと

問 30で「B 学校在学中」の中から回答した家族の方にお聞きします。

問 33 通学生活等で困っていることや心配していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



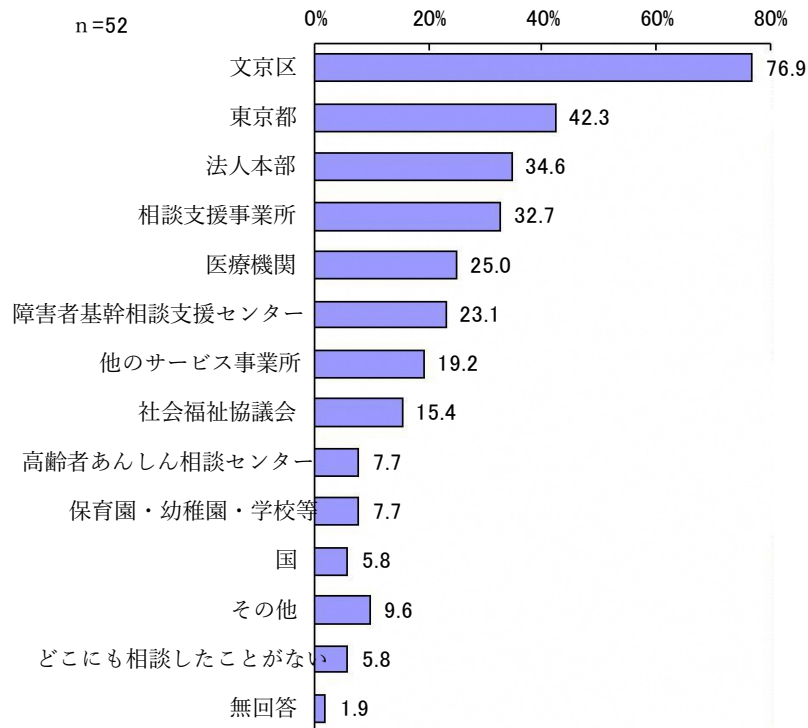
学校在学中の児童の通学生活等の困りごとは、「周囲の子どもとの関係が心配」が67.4%と6割半ばを超えて最も高く、次いで「先生の指導の仕方が心配」が56.0%、「本人の成長が心配」が54.9%と5割台が続いています。

平成28年度と比較すると、「本人の成長が心配」が7.0ポイント上がっていますが、全体的に平成28年度より割合が下がっている項目が多く、特に「費用など経済的な負担が大きい」は12.5ポイント、「療育・リハビリテーションの機会が少ない」は9.0ポイント大きく下がっています。

障害者（児）実態・意向調査報告書（一部抜粋）【サービス事業所の方】

（3）問題発生時の相談先

問 18 貴事業所で何か問題が生じたときの相談先はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

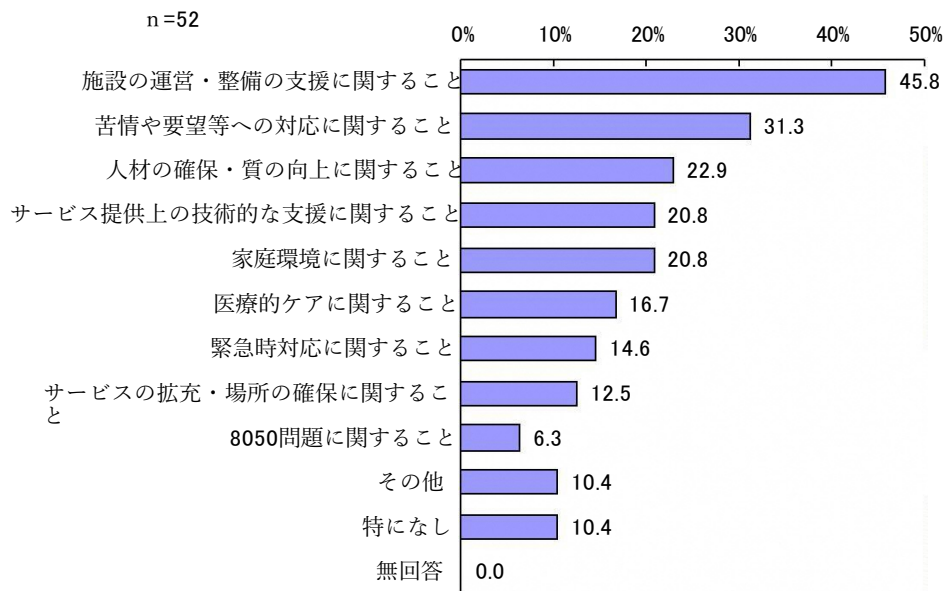


問題発生時の相談先は、「文京区」が76.9%と7割半ばを超えて最も高く、次いで「東京都」が42.3%、「法人本部」が34.6%、「相談支援事業所」が32.7%と続いています。

(4) 相談内容

問 18で「どこかに相談した」と回答された方にお聞きします。

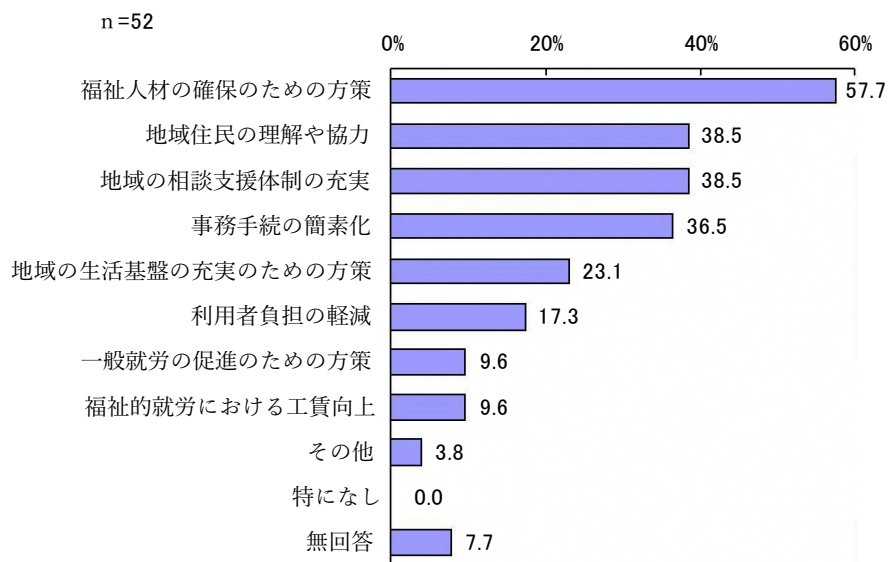
問 18-1 相談した内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



問題発生時の相談内容は、「施設の運営・整備の支援に関すること」が45.8%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「苦情や要望等への対応に関すること」が31.3%、「人材の確保・質の向上に関すること」が22.9%と続いています。

(12) 今後の障害福祉施策充実に必要なこと

問 26 今後の障害福祉施策の充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



今後の障害福祉施策充実に向けて必要なことは、「福祉人材の確保のための方策」が57.7%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「地域住民の理解や協力」と「地域の相談支援体制の充実」がともに38.5%、「事務手続の簡素化」が36.5%と3割半ばを超えて続いています。

(5) 検討事項における親会への提言について

令和3年度 相談支援専門部会検討事項

「障害児から成人への切れ目のない支援を含む相談支援体制の強化について検討する」。

1. 検討事項に結び付く課題について

①ふみの輪について（障害児支援から成人への相談支援体制）

【確認出来た課題】

- ・ 家族や支援者に対して十分に周知されていない。
- ・ 支援の移行時に十分に活用されていない。
- ・ 教育と福祉の連携の必要性。

②介護保険制度移行について（障害福祉から介護保険への相談支援体制）

【確認出来た課題】

- ・ 介護保険移行についての不安や心配事がある。
- ・ 介護保険移行における障害者への理解。
- ・ 相談支援専門員とケアマネージャーの連携（障害福祉と高齢福祉の連携）

③新規委員

【確認出来た課題】

- ・ 今年度は障害児支援の委員を加え、新たな課題が表出。
- ・ 高齢福祉分野での委員選出など、新規の委員参加の検討の必要性の有無。

④文京区課内連携

【確認出来た課題】

- ・ 障害福祉分野だけで解決できない課題が蓄積されている。障害のある方の人生を支援するにあたり、どのような課内連携が求められるのか。

⑤他専門会議体への検討依頼の必要性

- ・ 相談支援専門部会のみで解決できない課題を、専門会議体へ相談支援専門部会から検討依頼する必要性はないか。依頼した検討内容結果を部会でも確認する。

(例：住まいの課題→居住支援協議会、地域移行→地域移行支援検討会議、計画相談→指定特定相談支援事業所連絡会等)

3. 親会への提言

(令和 4 年度 第 1 回相談支援専門部会にて文京区からの報告を求める)

【相談支援専門部会からの提言】

子ども支援の部会設立について

障害児支援ネットワークからの報告を受け、行政や専門職、地域で活動する方々と障害児(子ども)について協議できる場が必要であるとの結論に至る。地域でキャッチしたニーズや課題を、行政や専門職と連携し合って支援する必要がある。自立支援協議会に障害児支援(子ども)支援の部会設立を提言する。

①

②

③

④

⑤

令和3年度第2回相談支援専門部会 事後アンケート

回答数： 9名

1. 【議題1】「障害者・児計画の評価についての振り返り」について、ご意見等がございましたらご記入ください。

介護保険への移行に際し、計画相談からケアプランへ移行した際、障害固有の課題についてもケアプランの中にきちんと盛り込み支援していくことが大事との指摘が志村先生よりあったが、まさにその点は課題であると感じている。サービスの更新時には必ずケアプランを確認するので、今後は、特にその点にも留意して確認していきたい。

グループホームに頼らない地域での自立生活を目指すとなると、特に知的障害のある方にはどのような支援が必要か？考えさせられました。

現在の流れがわかり良かったと思います。

文京区という地域の特徴も含め、現状を整理していただき、理解することができました。

2. 【議題2】「障害児支援についての話題提起 ふみの輪について、障害児支援ネットワークについて」ご意見等がございましたらご記入ください。

例えば千代田区には「はばたきプラン」という障がいのある子どもの成長を整理して共有できる仕組みがあります。「はばたきプラン」はプランナーとの面談を通して作成されているそうです。このような保護者とともに作成する仕組みがあるともっと普及する可能性があると思います。他の先進的な事例から学ぶことも必要かもしれません。

「はばたきプラン」を参考にすると、全く個人的な意見ですが「ふみの輪」を障害児相談支援の基本フォーマットにすれば必然的に相談支援専門員との面談を通して作成することができ、モニタリングを通して振り返りや記録もできます。そうすれば計画相談や個別支援計画にも活かしやすくなるかと思いました。

私の子供の頃は、療育入所が中心でありました。同じ障害を持つ仲間とともに寝起きをしながら訓練をした毎日でした。主治医から「歩けたら退院できる」と言われ、それを励みに訓練を続けてきました。今や完全に分業制になってしまったことを感じながら聞いていました。「温室育ち」という通り、最近では発達支援から一貫した生活相談支援の在り方そのものに違和感さえ感じます。

北特別支援学校と連携し、ふみの輪の活用を保護者へお勧めしている。

「ふみの輪」について、初めてお話を伺いました。親御さんの障害受容や、今後関わる様々な専門職が共通理解し合えるツールとして活用できるといいと感じました。

「ふみの輪」保健サービスセンターは配布場所の一つになっています。数件のお問い合わせはありますが配布実績はありません。存在自体を知らない職員もいるため、改めて職場内周知と有効活用の検討が必要と気づく機会となりました。

ふみの輪について、関わりのある事業所と共有が出来ていないことに勿体なさを感じました。支援者にとって発達障害や知的障害の児童または青年期に入ったこの先の道標の助言をする上で沢山の情報が必要になると思います。自宅で関わる居宅介護事業所へは特に必要な情報であるため、是非親御さん方

の理解の場や手帳取得時の条件といった仕組みにするとか、増やして頂くことを考えて頂きたいと思
います。

「障害児支援ネットワーク」についても取り組みを初めてしり、大変興味深かったです。地域で子ども
支援の活動する方々からも、同じような課題感を伺うこともあります。障害のグラデーションがグレー
だったり、成長段階等で制度の狭間となる子どもをどうキャッチして、リーチし支えていくかは大きな
課題だと感じます。行政や専門職、地域で活動する方々と協議できる場は必要で、地域でキャッチした
ニーズや課題を行政や専門職と連携し合って支援していけるようになると思います。

障害児の支援について知られていないこともたくさんあり、相談支援専門部会のような場で障害児の
課題を共有することはとても意味があると思えました。取り上げていただき、本当にありがとうございました。

ふみの輪がどのようなものなのか知る機会になりました。ありがとうございます。

ツールとしては良いものがあると評価していただき、支援者側からの活用、ともにつくっていく支援な
ど、役立てていく手がかりをいただきました。教育センターでできることを改めて考えていきたいと思
います。

4. 【議題3】「令和3年度定例会議報告」の内容から、今後の相談支援専門部会で取り上げてほしいテー
マや、会議の在り方などについて、ご意見等がございましたらご記入ください。

様々な関係機関や団体が区内の社会資源を掘り下げるきっかけや学びにもなるため、引き続き必要な
機会であると思えます。

今年度定例会議がオンライン化され移動の負担の軽減などメリットもありましたが、オンラインであ
るが故にディスカッションを深めることが難しいなど一方で課題も見えてきました。いつまた第6波
があるか分からず今後もオンラインでの会議が増えると想定すると、オンライン定例会議の進め方の
ポイントを今後確認する必要があるかと思えました。

「住宅」の困難さを取り上げていくべきだと考えています。いくら社会福祉法人がグループホームを建
設しても足りない状況です。賃貸住宅を活用し、家賃補助やユニバーサルな建築を建設していくための
提案を地域福祉という観点だけではなく、居住支援協議会等の諮問委員会に問題を投げかけても良い
のではないのでしょうか。

青年期～高齢期の支援のテーマは、児童期担当の教育センターとしても興味深く拝見しました。

5. 【議題4】「上半期文京区指定特定相談支援事業所連絡会活動報告」の内容から、今後の相談支援専門
部会で取り上げてほしいテーマや、会議の在り方などについて、ご意見等がございましたらご記入く
ださい。

事例検討会に参加させて頂きました。相談支援のケースを聞く機会がなかなかないので学ばせて頂き
ました。

引き続きよろしくお願い致します。

事例を通して考えることは、現場の支援者にとって学びやすく、自分の中に残しやすい学び方だと思
いますので、事例検討会は継続していただきたいです。

6. 上記の設問に関わらず、議題についての感想や、次回以降取り扱って欲しいテーマなどがございましたら、自由にご記入ください。

ZOOMでの進行は参加しやすいと思いました。
基幹で実施した第1回事例検討会に参加させていただいたが、ベテラン職員による様々な視点からの意見を聞き、大変参考になった。あの議論の中に、障害者の家族支援、孤立防止、8050問題への対応策などに対するヒントや知見が多くあったように感じる。
ライフステージによって、本人、家族、という支援が変わっていくというのは、重要な視点だと思っております。
いつもありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
傍聴させていただきありがとうございました。今後も宜しく願いいたします。